又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

政府ノ指定シタル電信船ノ號標距離內ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六十二條　僞計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條　已レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條　電信切手ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十五條　已ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條　電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條　電信局長ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ入レタル者ハ一等ヲ加フ

第六十八條　電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開披說明スルハ此限ニアラス

官報及局報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六十九條　電信事務ヲ奉スル者賴信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサヽル切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第七十條　電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ通信ノ依托ヲ拒ミタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條　疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十二條　配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルトキハ五十

錢以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七十三條　第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十四條　第六十四條第六十五條第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

○（明治十八年五月工部省第拾七號告示）

電信條例第二十五條第二十六條ニ依リ電信切手ノ買戻ヲ爲ス可キ分局ハ當分左ノ拾八ケ所トス

西京電信分局　神戸電信分局　横濱電信分局　長崎電信分局
函館電信分局　新潟電信分局　名古屋電信分局　廣島電信分局
鹿兒島電信分局　德島電信分局　高知電信分局　松江電信分局
赤間關電信分局　金澤電信分局　秋田電信分局　仙臺電信分局
札幌電信分局　根室電信分局

○第二節　電信取扱規則

明治十八年五月第七號布達

電信取扱規則別冊ノ通相定ム

右布達候事

第一章　電報

第一條　官報トハ各官廳ノ公信並締盟國ノ大臣長官陸海軍將帥公使及領事ノ通信ヲ云フ但商人ニシテ領事ヲ兼ヌル者ヨリ發出スル電報ハ在官者ニ宛テ且公務ニ關スルモノニ非サレハ官報ト爲サス

第二條　局報トハ電信事務ニ關シ電信局及中央局幷分局相互ニ送受スル通信ヲ云フ

第三條　私報トハ官報局報ヲ除クノ外諸般ノ通信ヲ云フ

第四條　發信人ハ條例第二條ニ記載シタル各類ノ電報ヲ單用シ又ハ併用スルコトヲ得

第五條　至急電報ハ通常電報ヨリ先ニ傳送シ同種類ノ電報ハ發信局ニ於テハ受托ノ前後ニ由リ中繼局ニ於テハ受信ノ順序ニ從テ傳送スルモノトス

第二章　電報書法

第六條　電報ニ用フル文字及數字ハ莫爾斯字號ニ翻書スルコトヲ得ヘキモノニ限ル

第七條　莫爾斯字號左ノ如シ

片假名及數字

イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ	ワ	カ	ヨ	タ	レ	ソ	ツ	ネ	ナ	ラ	ム	ウ	ヰ	ノ	オ	ク	ヤ	マ	ケ	フ	ン	゛濁點	゜半濁點	一	二	三	四	五	六	七	八	九	零○

羅瑪文字及亞剌比亞數字

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	／除線	セ	モ	ヒ	エ	シ	ミ	メ	ユ	キ	サ	ア	テ	ヌ	コ

5	6	7	8	9	0	句讀點	新章	括弧	小括弧	終點	讀	小讀點	重點	問標	感符	略符	歸除線／	和文句讀點及記號	歐文句讀點及記號												
								(	「	.	,	;	:	?	!	'														

o	ñ	n	m	l	k	j	i	h	g	f	é	e	d	c	b	á又ハà	ö	p	q	r	s	t	u	ü	v	w	x	y	z	1	2	3	4

新章		
連續點	—	
括弧	(.)	
轉倒句讀	,,	
字下線	—	

略符號

至急(官私)報	ウナ	UR
追尾電報	チラ	FS
改追尾電報	ナチ	RF
同文電報	ヨム	MT
照校電報	ムコ	TC
受信電報	コナ	CR
返信料前納電報	ナツ	PP
局待	ヤム	WT
親展	コカ	CL
郵便配達	ツツ	
書留郵便配達	カナ	
別使配達	マツ	
鈑船配達	ハホ	BD XP LR RP

第八條　普通辭トハ和文ハ片假名歐文ハ羅甸語又ハ常ニ通用スル歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ易キモノヲ云フ但電報新書及電報新編ニ依リ語辭ニ代用スル數字ヲ以テ書シタル電報ハ普通辭ト看做スヘシ

第九條　秘辭トハ普通辭ニ非ス文字又ハ數字ノ孤立或ハ聯集シテ其意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

第十條　隱語トハ每語ニハ通スヘキ意味アルモ作文全體ニ於テ通解シ難キモノヲ云フ

第十一條　普通辭中秘辭ヲ用ヒタルトキハ括弧ヲ以テ秘辭ノ前後ヲ圍ムヘシ

第十二條　秘辭ヲ用ヒタル私報ニハ文字ト數字トヲ混用スヘカラス

第十三條　普通辭ヲ用ヒタル和文ニハ數字ヲ混用スルコトヲ得

第十四條　和文ニハ普通辭秘辭隱語ヲ問ハス第十五條ノ場合ヲ除ク
ノ外ハ亞剌比亞數字ヲ挿入スヘカラス

第十五條　和文ニハ歐字及之ニ附屬シタル亞剌比亞數字ヲ挿入スル
コトヲ得但小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十六條　受信人ノ住所氏名ハ着信地ニ於テ配達シ易キ爲メ詳ニ之
ヲ肩書スヘシ若シ町村名等他ニ類似ノ地名アルモノハ府縣名又ハ
國名及郡區名ヲ記スヘシ但詳明ヲ要スルモ贅語ヲ用フヘカラス

第十七條　宛名ノ不十分ヨリ起リタル損失ハ總テ發信人ノ負擔タルヘシ
受信人ノ住所氏名ハ豫メ電信局ト約定シテ略號ヲ常用ス
ルコトヲ得

第十八條　第七條ニ記載シタル略符號ハ賴信紙中受信人ノ名下ニ記
スヘシ若シ普通ノ文字ヲ以テ記シタルトキハ發信局ニ於テ之ヲ略
符號ニ改書スルモノトス

第十九條　第二十條ニ發信人ノ賴信紙中ニ記シタル略符號判然タラサルモノハ
都テ通常電報ト爲シテ取扱フヘシ

第三章　文數計算

第二十一條　和文電報ノ住所氏名ハ字數ニ算入セス歐文電報ノ住所
氏名ハ語數ニ算入ス

第二十二條　和文中濁點半濁點ヲ付シタル文字ハ之ヲ二字ニ計算ス
ヘシ

例

バ	二字
ビ	二字

第二十三條　和文中ニ用ヒタル數字歸除線句讀點及第拾五條ニ記載
シタル歐字及之ニ附屬シタル亞剌比亞數字ハ其一字又ハ一個ヲ片
假名一字ニ計算スヘシ

例

八八三/六		
セキタンサン、ヒヤクエン	數字歸除線合セテ五字	
セキタン、サン、ヒヤクエン	文字句讀點合セテ十二字	
「a no 150」	小括弧歐字及亞剌比亞數字合セテ八字	仝

第二十四條　和文中ニ用ヒタル括弧及小括弧ハ之ヲ片假名二字ニ計
算スヘシ

第二十五條　歐文ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ

計算シ十五字ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十六條　歐文中文字又ハ數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十七條　歐文中聯記シタル數字五個ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五個ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十八條　歐文中順序數ヲ作ル爲メ數字ニ加ヘタル文字之ハヲ數字一個ニ計算スヘシ

例

17 th	一語數字文字合セテ四個
177 th	二語仝六個

第二十九條　歐文數字中ニ用ヒタル分數點讀點及歸除線ハ一個ヲ一字ニ計算スヘシ

例

44.55	一語數字分數點合セテ五個
44,500	二語數字讀點合セテ六個
$510\frac{1}{2}$	二語數字歸除線合セテ六個

第三十條　歐文中ニ記入シタル句讀諸點連續點略符新章ハ之ヲ語數ニ計算セス但此記號ハ必シモ傳送スルヲ要セス

第三十一條　歐文中連續點ヲ以テ繫キタル辭及略符ヲ以テ分チタル辭ハ其分辭毎ニ一語ニ計算スヘシ

例

Weston-super-mare	三語
New-York	二語
I've	二語

第三十二條　歐文中字下線ヲ毎語ニ引キ又ハ二語以上ニ繫ケテ引クトキハ一個ヲ一語ニ計算スヘシ

例

The matter is. *urgent;*	七語幷字下線二
leave *at once*	箇合セテ九語

第三十三條　歐文中ニ用ヒタル括弧轉倒句ハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第三十四條　歐文普通辭中秘辭ノ雜リタルモノハ其普通辭ハ通常ノ例ヲ以テ之ヲ計算シ數字又ハ文字ノ聯集シタルモノハ數字ノ例ニ依テ之ヲ計算シ第八條ニ記載シタル國語ニ非サル語辭ハ文字ノ聯

集ト看做シテ之ヲ計算スベシ

第三十五條　歐文中國語ノ用法ニ反シテ語辭ヲ聯綴シタルモノ若クハ省略シタルモノハ普通辭ノ例ヲ以テ計算スルコトヲ得ス然レトモ府縣名地名其他官位氏名等及文字ニテ記載シタル數目ハ發信人ニテ之ヲ顯明ニスル爲メ用ヒタル語數ニ因テ計算スヘシ

第三十六條　第七條ニ記載シタル略符號ハ和文ハ二字歐文ハ一語ニ計算スベシ

第四章　電報料及手數料

第三十七條　國內（一市內及壹岐對馬ヲ除ク）ヲ通スル電報料左ノ如シ

一和文　片假名十字以內一音信金十五錢
　　十字以內ヲ加フル每ニ金拾錢ヲ增ス
二歐文　一語每ニ　金拾錢
　　五語以內ハ總テ金五拾錢トス

第三十八條　一市內ニ發着スル電報料左ノ如シ

一和文　片假名十字以內一音信金五錢
　　十字以內ヲ加フル每ニ金三錢ヲ增ス
二歐文　一語每ニ　金三錢
　　五語以內ハ總テ金五拾錢トス

第三十九條　至急官報ノ電報料ハ通常電報料ノ二倍トス

第四十條　至急私報ノ電報料ハ通常電報料ノ三倍トス

第四十一條　追尾電報料ハ追尾一回每ニ原信電報料ノ半額ヲ增ス

第四十二條　同文電報料ハ原信ヲ除クノ外一通每ニ和文ハ金五錢歐文ハ金拾五錢トス

第四十三條　照校電報料ハ原信電報料ノ半額ヲ增ス

第四十四條　受信電報料ハ和文ハ一音信歐文ハ五語ノ料金ヲ增ス

第四十五條　電信料ニ壹錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其端數ハ切捨スルモノトス

第四十六條　歐文電報ノ住所氏名ノ略號常用料ハ一ケ年正貨十圓トス

第四十七條　條例第三十條ノ電報受取證書ノ手數料ハ金三錢トス

第四十八條　條例第三十九條ノ別使配達料ハ九丁每ニ金三錢トス

第四十九條　條例第三十九條解船配達料ハ金貳拾錢トス

第五十條　條例第四十六條ノ原信正寫ノ手數料ハ和文白字以內每ニ金貳拾錢歐文百字以內每ニ金拾錢トス

第五十一條　料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ着信局又ハ受信人ノ書面ヲ添ヘ誤謬遲延ニ係ルモノハ受信人ニ到達シタル電報ノ原書ヲ添テ發信人ヨリ電信局長ニ申立ヘシ但時宜ニ依リ受信人ヨリ申立ルコトヲ得

第五十二條　電信遲延ノ申出ハ郵便ニテ遞送スル時日ヨリモ後レテ屆先ニ達シタルモノニ限ルヘシ

第五十三條　料金ヲ還付スルトキ前ニ電信切手又ハ郵便切手ヲ以テ納メタルモノハ電信切手ニテ還付シ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨ニテ還付スヘシ

第五十四條　同文電報ノ內若干通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信ノ料金及通數ニ因テ收入シタル料金ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トスヘシ

第五十五條　料金ノ追納方ヲ通知シタルトキハ其通知ノ日ヨリ七日以內（郵便往復ノ日數ヲ除ク）ニ納ムヘシ此期限ヲ過ルトキハ條例第十八條ニ依テ處分スヘシ

第五十六條　發信人又ハ受信人ヨリ料金ヲ追納スルトキハ電信中央局又ハ分局ノ追徵證書ニ據リ電信切手若クハ通貨ヲ以テスヘシ又郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得ヘキ地ニ在テハ郵便切手ヲ以テスルコトヲ得但其通貨又ハ郵便切手ハ電信中央局及分局ニ於テ電信切手ニ換ユルモノトス

第五章　電報發送

第五十七條　發信人ハ電報一通ニ二名マテ連署スルコトヲ得

第五十八條　受信人ノ便利ヲ圖リ電報ヲ電信中央局又ハ分局ニ預ケ置カントスルトキハ其局宛トナスモ妨ケナシ

第五十九條　電報ノ受取證書ニハ其手數料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第六十條　郵局ニテ電報ヲ發出スルトキハ電報文ト郵便切手トヲ合封シ其近傍ノ電信分局ヘ宛テ之ヲ差出スヘシ

第六十一條　郵便ニテ發出シタル電報ニテ閉局後ニ受取リタルモノハ翌日開局ノ時傳送ノ手續ヲナスモノトス

第六十二條　發信人速ニ返信ヲ望ミ發信局ニ在テ之ヲ待ツトキハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條　發信人電報ノ受信家ヘ到達スル時他人ノ披見スルコトヲ憚ルトキハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ニシテ發信局ニ於テ里程分明ナラサルトキハ發信人ニ豫算ノ金額ヲ納メシメ着信局ニ於テ實地ノ調査ヲナシ過剰アラハ發信人ニ還付シ不足アラハ受信人ヨリ徴收スヘシ

第六十六條　郵便ヲ以テ遞送スヘキ電報ハ郵便又ハ書留郵便ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ但別配達郵便ハ之ヲ取扱ハス

第六十七條　艦船宛ノ電報ニシテ艀船ヲ以テ配達スヘキモノハ艀船配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十八條　艦船宛ノ電報ニシテ別使ヲ以テ配達スヘキモノハ艀船配達幷別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十九條　艦船宛ノ電報ニシテ艀船配達ノ指定ナク實際艀船ヲ要スルトキハ其艀船料ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ

第七十條　島嶼配達ノ電報ハ着信局ヨリ一里内外ニ拘ハラス別使又ハ郵便ヲ用フヘキニ依リ何レカ其略符號ヲ以テ指定スヘシ但其記入ナキモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送ス可シ

第七十一條　島嶼ノ別使配達料ハ水陸トモ實費ヲ徴收スヘキニ依リ發信人ヨリ豫算ノ金額ヲ發信局ヘ納ムヘシ其過不足ハ第六十五條ニ依リ處分スヘシ

第七十二條　電報ハ着信局ニ於テ受信シタル順序ニ依リ配達スヘシ

第七十三條　電報ハ送達紙ニ記シテ配達スヘシ

第七十四條　受信人ニ配達スル送達紙ニハ無手數料ニテ其發信局名及依托ノ月日時分ヲ記スルモノトス

第七十五條　送達紙ニ記載シタル宛名ノ者他所ヘ移轉シ其居所分明ナルモノ一里ヲ超ヘサルトキハ別ニ手數料ヲ要セスシテ配達スヘシ一里ヲ超ユルトキハ郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第七十六條　條例第三十四條ニ依リ受信人豫テ電報ヲ受取ルヘキ人名ヲ指定スルトキハ其旨書面ヲ以テ申出置クヘシ

第七十七條　電信中央局又ハ分局ニ預リ置キ及留置ク電報ハ其發信人及受信人ノ住所氏名ヲ詳記シテ七日ヨリ少カラサル間其局前ニ掲示スヘシ

第六章　至急電報

第七十八條　官報私報ヲ問ハス通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スルモノ

ハ至急電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第七十九條　至急電報ニシテ返信料ヲ前納シ其返信モ至急電報ト爲ストキハ至急電報ノ略符號ノ次ニ「ヘンシンシキウ」ト記スヘシ

第七章　追尾電報

第八十條　發信人豫メ受信人ノ轉居又ハ旅行等ヲ知リテ電報ヲ追送セントスルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第八十一條　追尾電報ノ第一着局以外ノ料金ハ受信人ヨリ徴收スヘシ但一市内ニテ追送スルモノハ料金ヲ要セス

第八十二條　追尾電報ノ賴信紙ニハ追尾スヘキ受信人ノ居所ヲ逐次ニ記スヘシ

第八十三條　追尾電報ノ略符號アルモ追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記セサルモノニシテ若シ受信人不在ノトキ更ニ追尾スヘキ居所ヲ知ルコトヲ得タルトキハ直ニ之ヲ追送スヘシ若シ追送スヘキ居所不分明ナルカ又ハ之ヲ追送スルモ受信人ヲ尋得ザルトキハ電報ヲ留置シタルモノハ受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送シ若シ受信人ヲ尋得サルトキハ其終尾局ニ於テ前條ニ依テ之ヲ取扱フヘシ但追尾電報ノ本文ハ固ヨリ一字モ省略セス逐局之ヲ傳送ス然レトモ逐書シタル居所ハ其當サニ送ルヘキモノヽミヲ存シ已ニ經過セシモノハ之ヲ削除スヘシ

第八十五條　追尾ノ指定ナキ電報ニテモ受信家ノ者ヨリ之ヲ追尾電報ト爲ストキハ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ之ヲ逐局傳送スルコトヲ得

第八十六條　追尾電報ニシテ其返信料ヲ前納スルトキハ追尾電報ノ略符號ノ次ニ返信料前納ノ略符號ヲ記シ第一着局マテノ返信料ヲ前納スヘシ

第八十七條　返信料ヲ前納シタル電報ヲ更ニ追尾電報ト爲ストキハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ改追尾電報ノ略符號ヲ記スヘシ其着信局ニ於テハ第一着局マテノ返信料ヲ受信人ニ交付ス

第八十八條　何人ニテモ電報ノ配達ヲ受ル所ノ電信分局ヘ移轉等ノ事由ヲ書面ニテ申出置キ其電報ノ到着次第追尾電報ノ規則ニ依リ再送ヲ受ントヽ請求スルコトヲ得此電報ハ着信局ニ於テ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ移轉ノ居所々在ノ着信局ヘ追送スヘシ

第八十九條　追尾電報ヲ着信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ遞送スルトキハ前拂郵便ヲ用ヒ其送達紙中ニ電報料及郵便稅ノ金額ヲ記シ之ヲ追徵ス

第九十條　受信人ニ配達スル追尾電報ノ送達紙ニハ第一發信局ノ局名月日時分ヲ記スルモノトス

第九十一條　追尾電報ヲ傳送シタル後受信人ノ所在不分明ニテ配達シ得サルトキ又ハ受信人ヨリ追尾料金ヲ出スコトヲ拒ムトキハ其追尾依托人ニ事實ヲ報シテ其料金ヲ追徵スヘシ

第八章　同文電報

第九十二條　發信人ヨリ同時ニ同文ノ電報ヲ一市內又ハ一市內ニ非サルモ着信局ヲ同クスル地方ニ住シテ居所ヲ異ニスル數名ヘ差出サントスルトキハ同文電報ノ略符號ヲ以テ指定スベシ

第九十三條　同文電報ノ賴信紙ニハ初筆ノ受信人ノ名下ニ略符號ト受信人ノ員數ヲ記スヘシ

第九十四條　同文電報ハ原信一通ニ定則ノ電報料ヲ課シ其餘ハ一通毎ニ同文電報料ヲ課スルモノトス

第九十五條　照校電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ照校電報ノ略符號ヲ記スヘシ其電報ハ原信一通ニ照校電報料ヲ課シ其餘ハ同文電報料ノミヲ課スルモノトス

第九十六條　受信電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ受信電報ノ略符號ヲ記シ同文電報料ノ外其通數ニ應シ受信電報料ヲ納ムヘシ

第九十七條　同文電報ハ發信人ニ於テ送達紙各通ニ受信人ノ連名ヲ記スルコトヲ請求セサルトキハ一通毎ニ一名ノミヲ記スルモノトス故ニ之ヲ請求スル者ハ同文電報ノ略符號ノ次ニ「レンメイ」ト記スヘシ

第九十八條　住居ヲ同クスル者ニ宛タル電報ニテモ同文電報ト爲スニ非サレハ電報一通ニ三名ヲ超ヘタル連名ヲ記スルコトヲ得ス

第九十九條　同文電報ヲ送達スルニ或ハ郵便ヲ以テシ或ハ別使ヲ以テスル等各配達ノ方法ヲ異ニスルモノハ受信人ノ名下ニ一々郵便配達若クハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第九章　照校電報

第百條　發信人ニ於テ電報中字句ノ誤謬ヲ豫防セントスルトキハ照校電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百一條　照校電報ハ各局傳送ノ際全文ヲ校正スルモノトス

第百二條　返信料ヲ前納シタル照校電報ニテ其返信モ亦照校電報トスル爲ストキハ照校電報ノ略符號ノ次ニ「ヘンシンセウカウ」ト記スヘシ

第十章　受信電報

第百三條　發信人電報ノ正ニ受信人ニ到達セシヤ否ヤノ報知ヲ受ケントスルトキハ受信電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百四條　受信報知ヲ要スル電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル時刻ヲ報知スヘシ

第百五條　受信電報ハ其原信ノ種類ニ依テ之ヲ傳送スヘシ

第百六條　受信報知ヲ要スル電報ヲ受信人ニ配達スル能ハサルトキハ着信局ニ於テ先ツ發信局ニ其旨ノ局報ヲ送ルヘシ然ル後電報ヲ配達スルコトヲ得タルトキハ直ニ受信電報ヲ送ルヘシ若シ局報ヲ送リタル後二十四時ヲ過クルモ尚配達スル能ハサルトキハ更ニ其事由ヲ確報スヘシ

第百七條　受信報知ヲ要スル電報ニシテ其着信局ヨリ受信人ヘ別使又ハ郵便ヲ以テ配達スヘキモノハ受信電報ノ略符號ノ次ニ別使配達若クハ書留郵便配達ノ略符號ヲ記スヘシ

其郵便ヲ以テ配達スヘキモノハ郵便局ヘ付托セシ時刻ヲ答報ス

第百八條　發信人配達區外ニ居住スルニ依リ別使又ハ郵便ヲ以テ受信電報ノ配達ヲ得ントスルトキハ賴信紙ノ端末ニ「別使」又ハ「郵便」ト記シ其別使料又ハ郵便稅ヲ前納スヘシ

第十一章　返信料前納

第百九條　發信人ニ於テ受信人ヨリ納ムヘキ電報料ヲ前納シテ返信ヲ受ケントスルトキハ返信料前納電報料ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百十條　一信音又ハ五語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルトキハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ其字數又ハ語數ヲ記スヘシ

例

和文　（ナツ二〇）

歐文　（RP6）又ハ（RP10）

第百十一條　返信料ハ原信料ノ三倍ニ超ヘテ前納スルコトヲ得ス又歐文五語未滿ノ料金ヲ前納スルヿヲ得ス

第百十二條　返信ノ爲メ前納スル料金ハ通貨ヲ以テスルモ妨ケナシ

但着信局ニ於テハ此料金ニ當ル電信切手ヲ以テ電報ト共ニ受信人ニ交付スヘシ

第百十三條　返信料前納ノ電報ヲ受信人ニ交付スルコト能ハス又ハ受信人ニ於テ返信料ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其旨ヲ着信局ヨリ電報ヲ以テ發信局ヲ經テ發信人ニ報知シ其報知ノ電報ハ返信ノ代ト看做シテ前納シタル金額ヲ收入スヘシ但和文一音信以上歐文五語以上ノ料金ヲ前納シタルモノハ一音信若クハ五語分ヲ收メテ其餘ハ發信人ニ還付スヘシ

第百十四條　返信料前納ノ電報ヲ郵便ニテ送達スルトキハ着信局ニ於テ電信切手ヲ電報ト共ニ封入シ書留郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第百十五條　前條ノ場合ニ於テハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ書留郵便ノ略符號ヲ記スヘシ

第百十六條　返信料前納電報ノ受信人ヨリ發スル返信ハ何時何地方ニテモ隨意ニ之ヲ送ルコトヲ得

第十二章　尋問改正

第百十七條　條例第四十三條第四十四條ニ依リ既送現送ノ電報ニ關シ發信人又ハ受信人ノ依頼ニ依リ傳送スル電報ハ其種類ニ依リ取扱フモ之ヲ往復スルニハ局名ヲ以テスルモノトス

第十三章　原信正寫

第百十八條　原信ノ正寫ニハ其手數料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

○第三節　壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報料　明治十八年五月太政官第九號達

壹岐對島及朝鮮國ニ發着スル電報ノ料金幷海外電報ノ國內傳送料金別紙ノ通相定ム

右布達候事

一壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報一音信ノ料金左ノ如シ

	郷ノ浦分局	嚴原分局	釜山分局		
內地各分局	正貨三拾錢	正貨五拾錢	正貨六拾錢		
長崎分局	正貨貳拾錢	正貨四拾錢	正貨五拾錢		
郷ノ浦分局		正貨貳拾錢	正貨五拾錢		
嚴原分局			正貨三拾錢		

一壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報ハ和文片假名七字歐文ハ一語ヲ以テ一音信トス片假名七字ニ滿タサルモノ亦同シ

一壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報和文ハ受信人ノ住所氏名ヲ字數ニ算入セス歐文ハ發信人受信人ノ住所氏名共ニ字數ニ算入ス

一前三項ノ外日本朝鮮兩國間ノ電報ハ總テ電信萬國條約書ニ依テ取扱フモノトス

一海外電報ニ日本語ヲ用フルトキハ羅馬字ヲ以テ書載スヘシ

一海外電報ノ國內（壹岐對馬ヲ除ク）傳送料金ハ何地ヨリ發スルヲ問ハス一語毎ニ正貨貳拾錢トス長崎以外ノ傳送料金ハ海外各國ニ於テ定ムル所ニ依ル

一壹岐對馬及朝鮮國釜山浦ヨリ海外ヘ發スル電報長崎迄一語ノ料金左ノ如シ

鄕ノ浦長崎間正貨三拾錢	嚴原長崎間正貨六拾錢
釜山長崎間　正貨六拾錢	

其餘ハ海外電信料表ニ依リ收ムヘシ

○第四節　電信私線規則

明治七年八月工部省第二十一號達

本年七月中第十八號ヲ以テ電信支線人民架設差許候ニ付テハ右規則別冊ノ通確定候事

電信私線規則

第一條　一電信機線架設ノ儀民費又ハ商會等ヨリ私費ヲ以テ建築イタシ度旨出願ノ向ハ許可スヘキ事

第二條　一私線ヲ許可スルト雖ヒ必ス官線ニ接續セシムル事

第三條　一官線架設アリテ來往ノ音信無差支場所（東京ヨリ横濱ノ如キ東京ヨリ長崎ニ至ル等）ハ私線ヲ許サヽル事

第四條　一若シ官線ノイマタ設ケサキ地方ニ於テ私線ヲ願フモノハ必ス便宜ノ官線ニ接續セシムル事

第五條　一架線建築器械据付等電信寮ニテ處分シ其入費ハ願人ヨリ償却セシムル事

第六條　一機關扱ノモノ當分電信寮ニテ相撰差出スヘシ尤費用ハ願人ノ持タルヘキ事

第七條　一私局用ノタメ技術修業爲致度望ノモノハ電信寮ニテ教授

明治七年十月廿九日工部省廿七號布達

十年工部省十一號布達ヲ以テ改ム

本年第二十號布達ヲ以テ別ニ福島間ノ海底電信線竣功ニ就キ標示ヲ定メ

可請事

第八條　一音信取扱並局詰心得方等總テ電信察定規ノ通相守可申事

第九條　一音信料ノ儀ハ各線ノ比較ヲ以テ官許ヲ經テ可相定事

第十條　一官局ト私局ト往復スル音信ハ其料ノ三分一ヲ官局ニ納メ三分二ヲ私ニ收入スヘシ

第十一條　一何レノ地ヨリ發スルモ官私線上ニ經過スル音信ハ其發信局ニ於テ定表ノ通全線ノ賃料ヲ取立官私收入ノ割合ヲ以テ計算スヘキ事

○第五節　海底電信線保護萬國聯合條約

明治十八年七月太政官第十七號布告

明治十七年四月佛蘭西國巴里府ニ於テ別冊海底電信線保護萬國聯合條約ニ加入ス

右奉　勅旨布告候事

千八百八十四年三月十四日巴里府ニ於テ各國ノ全權調印シタル海底電信線保護萬國聯合條約譯文

條約書

佛蘭西共和政府大統領閣下普魯西兼獨逸皇帝陛下亞爾惹丁聯邦大統領閣下濠地利兼洪牙利皇帝陛下白耳義皇帝陛下伯西爾皇帝陛下哥斯太利加共和政府大統領閣下丁抹皇帝陛下度美尼哥共和政府大統領閣下西班牙皇帝陛下北米合衆國大統領閣下哥倫比亞合衆國大統領閣下大不列顛愛爾蘭兼印度皇帝陛下牙德麻剌共和政府大統領閣下希臘皇帝陛下伊太利皇帝陛下土耳其皇帝陛下荷蘭兼盧森堡皇帝陛下波斯皇帝陛下葡萄牙亞爾珈揮皇帝陛下羅瑪尼皇帝陛下全露西亞皇帝陛下薩爾波度兒共和政府大統領閣下攝兒比亞皇帝陛下瑞典兼諾威皇帝陛下烏拉藝東部共和政府大統領閣下ハ海底線ヲ經過スル電氣通信ヲ保護スルコトヲ冀望シ夫レカ爲メニ條約ヲ締結セント欲シ各其全權委員トシテ左ノ人々ヲ任命ス

佛蘭西共和政府大統領閣下ハ內閣議長兼外務卿代議士アドルフ、コシユリー氏普魯西兼獨逸皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權大使巴巴里亞皇帝侍從長プランス、ラチボール、エ、コルウエー、プランス、クロウ井、シヤルル、ウイタトール、ド、ホーヘンロツフ、シルリン、ヒユルスト殿下

亞爾惹丁聯邦大統領閣下ハ巴里府ニ駐箚スル亞爾惹丁特命全權公使百間以內ニ船舶ノ投錨ハ勿論漁業等ヲ禁ス

明治九年四月七日工部省開拓使七號布達

青森函館間ノ海底電信線頃日不通ニ依リ當分ノ內右兩局間ハ郵便ヲ以テ遞送スルニ付兩局間ハ電信料ヲ除キ更ニ郵便稅ヲ納メシム

明治十年八月十六日工部省十一號

十五年十月十日廿一號布達ヲ以テ廢止トス

十五年十一月十五日廿三號布達ヲ以テ廢止ス

布達

七年第二十七號布達今別港福島灣ノ間海底電信線路標示ノ形體並ニ位置ヲ改メ其圖面ヲ示ス

明治九年十二月廿八日工部省廿二號布達

備前遊川村ト讃岐乃生村トノ間海底電信線落成ニ付近傍ニ船艦投錨ハ勿論漁業等ヲ禁ス

明治十二年二月一日工部省二號布達ノ

岡山縣下備前國遊川村ヨリ愛媛縣下讃岐國乃生村及山口縣下長門國下ノ關前田ヨリ福岡縣下小倉兩个淀ノ間海底電信線各一條添設ニ付右線路二百間以内ニ於テ船艦投錨ハ勿論漁業等禁止ス

明治十一年十月十日工部省十七號布達

十五年十一月十五日廿三號布達ニ依テ廢止ス

バルカルス氏

澳地利兼洪牙利皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權大使内閣顧問コント、ラジスラ、ホヨ閣下

白耳義皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權公使バロン、ベイヤン氏及白耳義外務省政務局長兼特派全權委員レオポール、オルバン氏伯西爾皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル伯西爾代理公使バロン、ヂタジユ、バ、ズローシヨ氏

哥斯太利加共和政府大統領閣下ハ在巴里府哥斯太利加公使館書記官レオン、ソンゼユー氏丁抹皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權公使コント、ド、モルトケ、ウヰツトヘルト氏

度美尼哥共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐箚スル度美尼哥國全權公使バロン、ド、アルメダ氏

西班牙皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權大使西班牙學士會員元老院終身議官マニユエル、シルヴエラ、ド、ル、ウヰ、ヨーズ閣下

北米合衆國大統領閣下ハ巴里府ニ駐箚スル北米合衆國特命全權公使ユル、ペー、モルトン氏及同公使館書記官ウヰギヨー氏

哥倫比亞合衆國大統領閣下ハ巴里府ニ駐箚スル哥倫比亞總領事ドクトル、ジヨセ、ジユートリアガ氏

大不列顛愛爾蘭兼印度皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權大使樞密院議官大不列顛及愛爾蘭統一國貴族院議員ウヰコント、リヨン、トレー、オノラーブル、リシヤルド、ビケルドン、ペーメル閣下

牙德麻剌共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐箚スル牙德麻剌國特命全權公使クリザント、メジナ氏

希臘皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權公使ブランス、モーロコルダト氏

伊太利皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權大使ゼルキー、ド、ヴアルドラ將官、コント、メナブレア閣下

土耳其皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權大使エツサード、パシヤ閣下

荷蘭兼盧森堡皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權公使バロンハード、ジユイラン、ド、ニユヴニル氏

波斯皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權公使將官ナザ

十二年八月廿七日工部省十二號布達ヲ以テ取消ス

山形縣下山形電信分局ヨリ秋田縣下横手秋田縣下酒田ニ至ル電線即今横手迄落成同所ヘ分局ヲ設置シ普信料ヲ定ム

ルハアガ氏

葡萄牙亞爾珊揮皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル葡萄牙代理公使ダゼウヒド氏

羅馬尼皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル羅馬尼代理公使オドベスコ氏

全露西亞皇帝陛下ハ佛國政府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權大使參謀將官プランス、ニコラ、オルロフ閣下

薩爾波度兒共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐箚スル薩爾波度兒特命全權公使トレーハガイセド氏

攝兒比亞皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權公使マリノヴヰツク氏

瑞典兼諾威皇帝陛下ハ巴里府ニ駐箚スル同陛下ノ特命全權公使シベル氏

烏拉蓋東部共和政府大統領閣下ハ巴里府ニ駐箚スル烏拉蓋特命全權公使陸軍大佐ジアヅ氏右ノ全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ善良正當ト認メタルニ因リ左ノ數條ヲ約定ス

第一條　此條約ハ諸政府ノ管領海中ニアルモノヲ除クノ外都テ法律ニ依テ布設シ且條約國ノ内一國若クハ數國ノ領地殖民地又ハ屬地ニ陸揚シタル海底電信線ニ適施スルモノトス

第二條　故意ト疎虞懈怠トヲ問ハス海底電信線ヲ切斷又ハ破損シ因テ電氣通信ノ全部又ハ一部ヲ妨害シ若クハ不通ニ致シタルトキハ之ヲ罰スヘキモノトス

但損害要償ノ爲メ私訴ヲ起スモ妨ケナカルヘシ

海底電信線ノ切斷又ハ破損ヲ避クル爲メ精々注意ヲ加フルモ自己ノ生命或ハ船體ノ安寧ヲ保護スル正當ノ目的ニテ已ムヲ得ス其切斷又ハ破損ヲ爲シタルトキハ此條款ヲ適施セサルモノトス

第三條　條約國政府其領地ニ海底電信線ノ陸揚ヲ許可スルトキハ成ルヘクタケ電信線布設ノ位置及該線ノ大小長短ニ關シ電信線ノ安全ヲ保ツカ爲メニ適當ナル條件ヲ定ムルコトヲ約ス

第四條　一ノ海底電信線ヲ破損又ハ切斷スルトキハ其切斷又ハ破損ノ修繕ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ但場合ニヨリ此條約第二條ヲ適施スルモ妨ケナカルヘシ

第五條　海底電信線ノ布設又ハ修繕ニ從事スル船舶ハ他ノ船舶トノ衝突ヲ豫防スル爲メ條約國政府協議ノ上已ニ制定シ或ハ向後制定スヘキ信號規則ヲ遵奉スヘシ

海底電信線ノ修繕ニ從事スル船舶右信號ヲ掲クルトキハ之ヲ認メ又ハ認メ得ヘキ地位ニアル他ノ船舶ハ其修繕ノ工事ヲ妨ケサル爲メ少クモ右船舶ヨリ一海里ノ距離ニ退キ若クハ遠サカルヘシ

漁人網又ハ漁具ヲ投スルモ亦同一ノ距離ニ於テスヘシ

然レトモ右信號ヲ掲ケタル電信船ヲ認メ又ハ認得ヘキ地位ニアル漁船ハ其信號ノ命ニ從フニ付二十四時以内ノ猶豫ヲ有スヘシ右時間中ハ其漁船ノ運轉ニ妨害ヲ加フヘカラス

電信船ハ成ルヘク速ニ其工事ヲ終ルヘシ

第六條　海底電信線ヲ布設スルトキ若クハ切斷破損セシトキ海底電信線ノ位置ヲ示ス爲メニ設ケタル浮標ヲ望見シ又ハ望見シ得ヘキ地位ニ居ル船舶ハ少クモ其浮標ヨリ海里四分一ノ距離ニ遠サカルヘシ

漁人網又ハ漁具ヲ投スルモ亦同一ノ距離ニ於テスヘシ

第七條　凡船舶ノ所有者海底電信線ニ損害ヲ加ヘサル爲メニ錨或ハ網又ハ其他ノ漁具ヲ失ヒタルコトヲ證明スルトキハ海底電信線ノ所有者ヨリ其賠償ヲ爲スヘシ

其賠償ヲ得ント欲セハ其損失ノ後直チニ之ヲ證明スル爲メ乘組人ノ證言ヲ添ヘタル調書ヲ成ルヘク作ルコトヲ要ス且其船長ハ右事件ノリシ後初テ立寄リ又ハ歸着シタル港ニ於テ其着船ヨリ二十四時内ニ之ヲ其掛官署ニ届出ルコトヲ要ス此掛官署ハ之ヲ其海底電信線所有者ノ所屬國領事廳ニ報告スヘシ

第八條　此條約ヲ犯ス罪ヲ審判スルニ付テノ管轄裁判所ハ違犯船ノ所屬國ノ裁判所トス

然レトモ前項ノ如ク實施スルコト能ハサルトキ此條約ヲ犯ス罪ヲ罰スルニハ條約國各自ノ法律又ハ萬國條約ニ基キ定メタル刑事裁判管轄ノ總則ニ從テ各其國民ノミヲ處分スヘキモノトス

第九條　此條約第二條第五條及第六條ニ記載シタル犯罪ノ起訴ハ各國ノ政府自ラ之ヲ行フカ又ハ政府ノ名ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第十條　此條約ヲ犯ス罪ハ都テ之ヲ裁判スヘキ裁判所所在國ノ法律ニ於テ許ス所ノ證據法ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ得

軍艦ノ司令官又ハ條約國ノ内一國ヨリ特ニ犯罪審査ノ爲メニ派遣シタル船舶ノ司令官ニ於テ軍艦ニ非サル船舶此條約ヲ犯ス罪ヲ行ヒタルト思量スルトキハ其船長或ハ船頭ニ該船所屬ノ國名ヲ證明スヘキ公書ヲ見ント要求スルコトヲ得其司令官ハ此公書ヲ閲覽シ

ダル旨ヲ直チニ其示サレタル書中ニ附記スヘシ

且該官ハ犯罪船ノ何國ニ屬スルヲ問ハス調書ヲ作ルコトヲ得此調書ハ該官ノ所屬國ニ於テ使用スル語ヲ以テ其國ニ行ハルヽ定式ニ從フテ之ヲ記スヘシ又此調書ハ之ヲ引用スヘキ國ニ於テ其法律ニ從ヒ證據トスルコトヲ得被告人及證人ハ各自ノ國語ヲ以テ要用ト思惟スル說明ヲ調書ニ加記シ或ハ之ヲ加記セシムルノ權アリ此加記コハ法ニ依テ手署スヘキモノトス

第十一條　此條約違犯ノ審理及判決ハ現行ノ法律規則ニ觸レサルタケ成ルヘク簡略ニ施行スヘシ

第十二條　條約國政府ハ此條約ノ施行ヲ確實ナラシメン爲メ就中此條約第二條第五條及第六條ノ條款ヲ犯シタル者ヲ禁錮若クハ罰金或ハ此二刑ヲ以テ罰スル爲メ必要ノ條規ヲ定メ又ハ其議案ヲ立法官ニ提出スルコトヲ約ス

第十三條　條約國政府ハ此條約ノ目的ニ基キ各其本國ニ於テ已ニ布告シ又ハ向後布告スヘキ法律ヲ互ニ報告スヘシ

第十四條　此條約ニ同盟セサル國ト雖トモ請求スルニ於テハ同盟ニ加入スルコトヲ得其加入ハ外交上ノ手續ニ依テ佛蘭西共和政府ニ報告シ該政府ハ之ヲ各同盟政府ニ通牒スヘシ

第十五條　此條約ノ條款ハ交戰國自由働作ノ權ニ少シモ妨碍ヲ加フヘカラサルモノトス

第十六條　此條約ハ條約國政府ニ於テ向後協議約定スヘキ日ヨリ之ヲ實施スヘシ

此條約ハ其日ヨリ五ケ年間之ヲ施行スヘシ而テ各條約國ノ內一國ニテモ五ケ年ノ期限ノ終ル十二ケ月前ニ於テ此條約ノ効力ヲ廢止スル旨ヲ通知セサルニ於テハ此條約ハ引續キ一ケ年間之ヲ施行スヘシ其後モ亦此ノ如ク一ケ年ヲ以テ一期トシテ施行スヘキモノトス條約國ノ內一國ヨリ此條約ヲ抛棄スル旨ヲ通知スルトキハ其抛棄ハ唯其國ニ對シテノミ効アルモノトス

第十七條　此條約ハ各政府之ヲ批准スルコトヲ要ス此批准ハ巴里府ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ交換シ遲クモ一ケ年內ニハ全ク交換ヲ終ルヘキモノトス

右ノ條々ヲ確證スル爲メ各國ノ全權委員茲ニ手記捺印ス

千八百八十四年三月十四日巴里府ニ於テ各條約書二十六通ヲ作ル

ジユール、フエリー　手記捺印

アハ、コシユリー　仝
ホーヘンロッフ　仝
エム、バルカルス　仝
ラジスラ、コント、ホヨ　仝
ベイヤン　仝
レオポール、オルバン　仝
パロン、ヂタシユバ　仝
レオン、ソンゼエー　仝
エマコユエル、ド、アルメダ　仝
モルトケ、ウヰツトヘル　仝
マコユエル、シエルヴエラ　仝
エル、ペー、モルトン　仝
ヘンリー、ウヰギヨー　仝
ジヨゼ、ジエー、トリアナ　仝
リヨン　仝
クリザント、メシナ　仝
モーロコルダト　仝
エル、エル、メナブレア　仝
エツサー　仝
パロン、ド、シユイランド、コエヴエル　仝
ナザル、アガ　仝
エフ、ダゼウエド　仝
オドベスコ　仝
プランス、オルロフ　仝
ジー、エム、トレー、カイセド　仝
ジー、マリノヴ井ツク　仝
ジエー、シベル　仝
ジユアン、ジー、ジアヅ　仝

追加條約

海底電信線保護ノ爲メ本日締約シタル條約ノ諸條欵ハ第一條ノ明文ニ基キ不列顛皇帝陛下ノ領スル殖民地及屬地ニ之ヲ適施スルモノトス

但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一　加那太

一　テール、ヌーブ
一　喜望峯
一　那多兒
一　新、南、珈斯
一　維太利
一　公斯蘭
一　太斯馬尼
一　南豪斯太利
一　西豪斯太利
一　新、西蘭度

然レトモ若シ巴里駐箚不列頓皇帝陛下ノ使臣ヨリ佛國外務卿ヘ前記殖民地或ハ屬地ノ名ヲ以テ條約ニ加入スル旨ヲ通知スルトキハ該地ニ限リ本條約ノ諸條欵ヲ適施スルモノトス

此ノ如クニシテ本條約ニ加入シタル前記ノ殖民地或ハ屬地ハ條約國ト同一ノ方法ニ依テ退盟スルコトヲ得若シ其殖民地又ハ屬地中ノ一ニ於テ退盟セントスルトキハ巴里駐箚不列頓皇帝陛下ノ使臣ヨリ佛國外務卿ヘ其旨ヲ通牒スヘシ

千八百八十四年三月十四日巴里府ニ於テ追加條約二十六通ヲ作ル

シユール、フエリー	手記
ア、コシユリー	仝
ホーヘンゾロッフ	仝
エム、バルカルス	仝
ラシスラ、コンド、ホヨ、	仝
ベイヤン	仝
レオポール、オルバン	仝
パロン、ヂタジユバ	仝
レオン、ソンゼエー	仝
モルトケ、ウサツトヘル	仝
エマニユエル、ド、アルメダ	仝
マニユエル、シユルヴエラ	仝
エル、ペー、モルトン	仝
ヘンリー、ウサギヨー	仝
ジヨゼ、ジエー、トリアナ	仝
リヨン	仝

クリザント、メジナ　仝
モーロコルダト　仝
エル、エル、メナブレア　仝
エツサー　仝
バロン、ド、ジユイラン、ド、ニエヴエル　仝
ナザル、アガ　仝
エフ、ダゼウエド　仝
オドベスコ　仝
プランス、オルロフ　仝
ヨー、ユム、トレー、カイセド　仝
ジー、マリノヴサック　仝
ジエー、シベル　仝
ジユアン、シー、ジアヅ　仝

○第六節　同　罰則

明治十八年七月太政官第十八號布告

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ追テ布告スベシ

右奉　勅旨布告候事

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條　條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第百六十四條ノ例ニ照シテ處斷シ其未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二條　疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處斷ス

初テ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)ニ二十四時以内ニ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條　自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムヲ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ依テ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　條約第五條第一項第二項第三項及第六條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ

第五條　條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要求スルトキ之ヲ示スコト

ヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第百三拾九條ニ照シテ處斷ス

第六條　此罰則ニ揭ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繫港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

○第七節　萬國電信公法

明治十二年十月太政官第四十五號布告

本年一月露西亞國聖彼得爾堡ニ於テ萬國電信盟約ニ加入シ別冊條約書調印交換相濟候條此旨布告候事

萬國條約法

第一條　同盟各國ハ何人ヲ問ハス萬國聯合電信ノ方法ニ依テ通信スルノ權利アルヿヲ承認ス

第二條　同盟各國ハ通信ノ秘密且速達ヲ擔保スルカ爲メ必用ナル百般ノ處置ヲ爲スヘシ

第三條　然レトモ同盟各國ハ萬國電信取扱上ヨリ起ル一切ノ責ニ任セサルベシ

第四條　同盟各國政府ハ通信ノ速達ヲ擔保スルニ十分ナル線數ヲ設備シ以テ特別ノ電線トナシ萬國電信ノ用ニ充ツベシ

此特線ハ方今電機學經驗上ニ於テ發明セシ最良ノ方法ヲ以テ建設使用スヘシ

第五條　電信ヲ區別シテ左ノ三種トナス

第一　官報

即チ同盟國ノ首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信ヲ云フ

第二　局報

即チ同盟各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國報信ノ處務ニ關シ或ハ各局協議ノ上國益トナルベキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三　私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

第六條　官報並ニ局報ハ隨時ニ暗號ヲ用テ報スルコトヲ得ベシ

私報ハ暗號ヲ以テ贈答スルヿヲ許シタル兩國政府ノ間ノミニ於テ之ヲ送受スルヿヲ得ベシ

暗號ヲ以テ書シタル通信ヲ認許セサル國ト雖モ第八條ニ云フ通信停止ノ時ヲ除クノ外其私報ヲ傳送スルコトハ許スベキモノトス

第七條　同盟各國ハ其國ノ治安ニ害アリ其國ノ法律若クハ風儀ニ悖

ルモノト看認ル私報ハ其傳送ヲ差留ルノ權アリ

第八條　各國政府ニ於テハ期限ヲ定メス一時萬國電信ノ使用ヲ停止スルヲ必要ナリト思考スルトキハ其趣ヲ同盟各國政府ヘ報知シ管下總體ノ電線或ハ一部ノ電線又ハ音信ノ種類ヲ限リ之ヲ停止スルノ權アリ

第九條　同盟各國ハ音信ノ傳送及ヒ配達ヲ一層保全且便捷ニスル爲メ同盟國電信各本局ニ於テ協議裁決シタル種々ノ方法ヲ以テ各出狀人ニ利益ヲ與フル事ヲ務ムヘシ

此各國中孰レニテモ音信ノ傳送及ヒ配達ニツキ別殊ノ方法ヲ用ルコトヲ定メ之ヲ報知スルトキハ其成法ヲ以テ亦各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

第十條　同盟各國ニ於テ萬國稅則ヲ制定スルニハ左ノ諸件ヲ標準トスヘシ

同盟各國孰レノ兩國間ノ局ニテモ同線路ヲ以テ送受スル諸音信ノ稅額ハ此彼同一タルヘシ而シテ此法ヲ施行スルニ當リ歐羅巴ニ於テハ一國ヲ二大區ニ區分スルヲ得ヘシ

稅額ハ首尾ノ政府ト中間ノ政府ト協議ノ上各國順次之ヲ定ムヘシ

同盟各國ノ間ニ送受スル音信ニ適用スヘキ稅額ハ何時タリトモ協議ノ上之ヲ改革增減スルコトヲ得ヘシ

萬國稅則ヲ制定スルニ方テハ「フラン」ヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

第十一條　同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ傳送スヘシ

第十二條　同盟各國ハ互ニ其收稅ノ計算ヲ爲スヘシ

第十三條　此條約書ハ細目規則ヲ合セテ全備スル者トス而シテ該規則ノ條件ハ同盟國各本局協議ノ上何時タリトモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ

第十四條　細目規則中ニ云フ同盟國中各一政府下ニ置ク萬國電信事務局ハ萬國電信ニ關スル諸般ノ報告ヲ集メ之ヲ整理出版シ稅則幷ニ細目規則ノ改正ヲ請求スル者アラハ其書ヲ同盟國各本局ニ回送シ而シテ衆議一致シタル改正ノ件々ヲ廣告シ且萬國電信ノ裨益トナルヘキ諸項ヲ黽勉熟慮シテ之ヲ執行スル等ノ任ヲ受クルモノトス

此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ同盟國各本局ヨリ支給スヘシ

第十五條　第十條ニ云フ稅則及ヒ第十三條ニ云フ細目規則ハ此條約書ニ附屬シタル者ニテ條約書ト同一ノ効ヲ有シ且同時ニ施行スヘキモノトス

右稅則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得ヘシ其際ニ於テハ從來參與セシ各國皆之ニ會同スルヲ得ヘシ

此會議ハ定期毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期日幷ニ場所ヲ定ムルモノトス

第十六條　此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル所ノ理事官ヲ以テ成立スヘキモノトス

會議ニ於テハ各本局ノ理事官數名アリトモ決議ノトキハ一人ヲ以テ算ス但一政府下ノ諸局ヨリシテ各此會議ニ列セント欲スルトキハ外國交際上ノ手續ヲ經テ期日前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ照會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルトキハ此限ニアラス

右會議ニ於テ改正スル件々ト雖モ同盟國各政府ノ批准ヲ經タル後ニ非サレハ施行スヘカラス

第十七條　同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約定ヲ爲スノ權ヲ有ス

第十八條　方今此條約ニ與カラサル國ト雖モ其請求ニ依リテハ之ニ加入スルコトヲ許スベシ

右加入ハ會同ヲ開キシ國ヘ外國交際上ノ手續ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨリ其他諸國ヘ之ヲ報知スヘキモノトス

加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニスヘキモノトス

第十九條　此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トノ通信ハ此條約

第十三條ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈進歩ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取扱フヘシ

第二十條　此條約ハ歐曆一千八百七十六年一月一日ヨリ施行シ永久ニ遵守スヘキモノトス若シ之ヲ廢棄セント欲スト雖モ其日ヨリ後一ケ年ヲ過ルマテハ仍ホ遵守スヘシ

何レノ國ニ於テ此條約ヲ廢棄スルトモ其國ヲ除クノ外他ノ同盟國ニ於テハ依然之ヲ遵守スヘシ

第二十一條　今般ノ條約ハ同盟國各政府ノ批准ヲ得テ確定スヘキモノトス因テ其定了シタル憑證ハ勉メテ速ニ比特堡府ニ於テ互ニ相交換スヘシ

右條件信證ノ爲メニ各國全權公使各其名ヲ手署シ且其印章ヲ鈐ス

日本國　日曼耳國　澳地利國　匈牙利國
白義國　丁抹國　埃及國　西班牙國
佛蘭西國　大不列顛國　英領印度國　印度幷歐羅巴間管轄　荷蘭國
希臘國　伊太利國　那威國
波斯國　葡萄牙國　露西亞國　瑞典國
瑞西國　土耳古國

○第八節　萬國電信公法細目規則

明治十三年三月第九號布告

明治十一年(三月)工部省第四號布達電信萬國公法ノ儀同十二年英國龍動ニ於テ右細目規則議定改正候ニ付本年四月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但右規則ハ最寄電信分局ニ於テ承知可致事

○明治十一年三月工部省第四號布達

海外電機通信ノ儀ハ本月廿五日ヨリ明治八年(則チ西曆千八百七十五年)魯國聖彼特堡府ニ於テ議定ノ萬國電信公法ニ從ヒ取扱候事

但右ニ付諸規則ハ最寄電信分局ニ於テ承知可致事

○明治十三年十月工部省第十九號布達

我國ヨリ海外ヘ普通電報ノ儀ハ從來羅甸其他ノ國語ノミヲ以テ通信ニ相用ヒ候處本年太政官第九號公布電信萬國公法細目規則第七條第二章ノ旨趣ニ依リ向後我國語ヲ以テ右電報ノ贈答ニ相用候モノモ取扱候條此旨布達候事

但羅馬文字ニテ日本國語ヲ書載セシモノニ限リ候事

○明治十三年四月工部省第九號布達

內國及海外歐文電報ノ略名ハ新ニ願出ル者ハ其月ヨリ從來許可ヲ得タル者ハ本年九月一日ヨリ一ケ年ニ付洋銀拾弗ノ割ヲ以テ手數料取立候條此旨布達候事

○第九節　萬國電信條約　明治十九年六月遞信省第五十七號告示

書附屬ノ細目

明治十三年三月第九號布告萬國電信條約書附屬ノ細目規則及稅則ノ義昨明治十八年獨逸國伯林府ニ開設セシ萬國電信會議ニ於テ別冊ノ如ク議定修正シタルニ付來ル七月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條約書綱目

綱第十三條

此條約書ハ細目規則ヲ合セテ全備スル者トス而シテ該規則ノ條件ハ同盟國各本局協議ノ上何時タリトモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ

第一編

萬國定規

綱第四條

同盟各國政府ハ通信ノ速達ヲ擔保スルニ十分ナル線數ヲ設備シ以テ特別ノ電線トナシ萬國電信ノ用ニ充ツヘシ

此特線ハ方今電機學經驗上ニ於テ發明セシ最良ノ方法ヲ以テ建設使用スヘシ

目第一條

第一節　電報送受ノ甚タ繁盛ナル各電信分局間ハ可及的電線ヲ直接ニ連續セシメ其線條鐵線ナレハ口徑五「ミリメートル」(一千分ノ一百九十七英寸)ニ下ラサモノ(即チ八番線)ヲ用ヒ若シ然ラサレハ線質堅牢ニシテ電氣導力ノ確實ナルモノヲ用フルヲ要ス右ノ諸線ハ中繼局ノ手數ヲ要セス專ラ首尾兩局間ノ用ニ充ツヘシ

第二節　地方ノ諸線障碍アルトキハ此特線ヲ以テ諸信ヲ傳送スルヲ得ヘシ然レトモ其全通セシ時ハ速ニ故ニ復スヘシ

第三節　首尾兩局ノ間ニ氣流直通スル能ハサルトキハ其管轄本局ニ於テ沿道線中一二ノ中繼局ヲ撰定シ必ス電報ヲ取扱ハシムヘシ

目第二條

第一節　各電信本局ハ各自主管ノ區內ニアル萬國海陸電線ノ保護ニ盡力シ而シテ各線上不斷良効ヲ顯ス可キ方法ヲ立テ以テ同心協力スヘシ

第二節　國境ニ隣接シタル各部ノ長ハ各其主管區內ニ於テ此方法ヲ施行スル爲メ互ニ隔意ナク協議スヘシ

目第三條

莫爾斯(モールス)及囂士(ヒューズ)ノ機械ヲ以テ各國相共ニ萬國特線ノ用ニ供スヘシ但他ニ新發明(ヒューズ)ノ機械アリテ協議ノ上之ヲ使用スルハ此限ニアラス

目第四條

第一節　同盟國中ノ盛大ナル都邑間ハ晝夜間斷ナク强メテ開局勤務スヘシ

第二節　終日勤務スル通常ノ局ハ衆人ノ爲メ少ナクモ午前八時ヨリ午後九時ニ至ルマテ開局ス可シ

第三節　一日内ニ定限アリテ勤務スル開局時間ハ同盟國ノ各本局ニ於テ各適宜ニ之ヲ定ムヘシ

終日勤務スル局ト雖モ日曜日ノミ別ニ時間ヲ定メテ勤務ヲ爲スハ各國隨意タルヘシ但其旨趣ヲ萬國事務局ニ報知シ該局ヨリ之ヲ他ノ本局ニ通知スヘシ

第四節　終日勤務セサル局ト雖モ終日勤務スル局ヘ送ルヘキ萬國電報ヲ盡シ傳送シ終ラサレハ閉局スルコトヲ得ス

第五節　一ノ直通線ヲ以テ通信スル殊邦ノ兩局間ニ閉局時限ノ符號ヲ報スルニハ其首府ノ地位最モ西方ニ在ル國ノ所轄ノ局ヨリ之ヲ發スヘシ

第六節　前節ノ定規ハ其日ノ日誌ヲ絕筆シ及ヒ晝夜勤務局ニ於テ交代スル等ノ時限ニモ之ヲ用フ可シ

第七節　一國中ノ諸局ハ總テ一齊ノ時刻ヲ用フヘシ但其國首府ノ時刻ヲ用フルモノトス

目第五條

左ノ記號ハ各種ノ電信局ヲ表スル爲メ萬國通信用ノ書類中ニ用フルモノナリ

N.	晝夜間斷ナク勤務スル局
N/2.	夜半マテ晝勤ヲ展延スル局
C.	終日勤務スル局
L.	一日内ニ定限アリテ勤務スル局（終日勤務スル局ヨリハ開局ノ時限短少ナルモノヲ云フ）
F.	私報ヲ送受スル爲ニ開キタル鐵道電信局
P.	私立電信會社ノ局
S.	號標臺
E.	帝王駐輦ノ間ノミ開局スル局
B.	浴季ノミ開局スル局
H.	冬季ノミ開局スル局
L/BC.	浴季ハ終日勤務シ其餘ハ定時限アリテ開局スル局
L/HC.	冬季ハ終日勤務シ其餘ハ定時限アリテ開局スル局

※目下通信ヲ實施セサル局

（此記號ハ前數項ノ記號ト合加シテ用フルコト有ルヘシ）

第二篇

事務章程

綱第一條

同盟各國ハ何人ヲ問ハス萬國聯合電信ノ方法ニ依テ通信スルノ權利アルコトヲ承認ス

綱第二條

同盟各國ハ通信ノ秘密且速達ヲ擔保スルカ爲メ必用ナル百般ノ處置ヲ爲スヘシ

綱第三條

然レ𪜈同盟各國ハ萬國電信取扱上ヨリ起ル一切ノ責ニ任セサルヘシ

綱第五條

電信ヲ區分シテ左ノ三種トス

第一官報

即チ同盟國ノ首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信ヲ云フ

第二局報

即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電信ノ處務ニ關シ或ハ各國協議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

綱第七條

同盟各國ハ其國ノ治安ニ害アリ其國ノ法律若クハ風儀ニ悖ルモノト看認ル私報ハ其傳送ヲ差留ルノ權アリ

綱第八條

各國政府ニ於テハ期限ヲ定メス一時萬國電信ノ使用ヲ停止スルヲ必要ナリト思考スルトキハ其趣ヲ同盟國各政府ヘ報知シ管下總體ノ電線或ハ一部ノ電線又ハ音信ノ種類ヲ限リ之ヲ停止スル、ノ權アリ

第三篇

電報書法 附受付

綱第六條

官報幷ニ局報ハ隨時ニ暗號ヲ用テ報スルコトヲ得ヘシ

私報ハ暗號ヲ以テ贈答スルコトヲ許シタル兩國政府ノ間ノミニ於テ之ヲ送受スルヲ得ヘシ

暗號ヲ以テ書シタル通信ヲ認許セサル國ト雖𪜈第八條ニ云フ通信停止ノ時ヲ除クノ外其私報ヲ傳送スルコトハ許スヘキモノトス

目第六條

第一節 電報ハ普通語或ハ隱語或ハ秘辭ヲ以テ書載スルコトヲ得ヘシ

第二節　隱語或ハ秘辭ヲ以テ書載スル電報文中ノ一部若クハ數部ニ普通語ヲ書載スルコトヲ得此場合ニ於テハ其前後ニ在ル普通語ト區別スル爲メニ括弧ヲ以テ隱語或ハ秘辭ヲ圍ムヘシ

目第七條

第一節　通常電報ハ羅甸語又ハ同盟各國ノ管領地ニ通用スル國語ノ中孰レニテモ之ヲ用ヒ其文意ノ曉解シ易キヤウ書載スルヲ要ス

第二節　各電信本局ハ其國ノ管領地ニ通用スル國語ノ中ニテ萬國通常電報ノ贈答ニ適當ト思フ者ヲ撰示スヘシ

第三節　局報ハ總テ佛語ヲ以テ之ヲ書スヘシ然レトモ關係ノ各本局間ニ於テ他ノ國語ヲ用フルヿヲ約定スルモノハ此限ニアラス

第四節　信紙ノ額表、傳送上局內心得ノ指示、幷ニ目第十條第五節第六節ノ場合ニ於テモ前節ニ準據スヘシ

目第八條

第一節　隱語トハ每語ニハ讀得ヘキ意味アリト雖トモ作文全體ニ於テハ電信局ニテ曉解シ難キモノヲ云フ

第二節　隱語ハ萬國通信上隱語ヲ作ルノ法ニ從テ編纂シタル語集ヨリ採擇スヘシ

第三節　隱語ノ電報ヲ作ルニハ日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、伊太利、荷蘭、葡萄牙及羅甸ノ國語ニシテ多クモ字數十字ヲ超過セサル語辭ヲ用ヒルモノトス但其電報ハ前記ノ國語ニテ參雜書載スルコトヲ得ヘシ

第四節　語集ヲ編纂スルニハ固有名詞ヲ用フヘカラス但隱語ノ電報中ニ之ヲ用フルトキハ其固有名詞ノ本義ヲ示スモノニ限ル可シ

第五節　右ノ方法ヲ實踐セシヤ否ヤヲ査閲シ且其用語ノ確實ナルヤ否ヤヲ檢査スル爲メニ發信局ニ於テハ語集ノ閲覽ヲ要ムルヿトアルヘシ

目第九條

第一節　左ノ電報ハ總テ秘辭ト看做スヘシ

a　數字又ハ秘密ノ意味アル文字ヲ以テ作リタル電報

b　數字又ハ文字ヲ聯集シ發信局ニ於テ其文意ノ曉解シ難キモノ又ハ普通語（第七條）及隱語（第八條）ノ條目ニ準據シ難キ國語、名詞若シクハ文字ヲ集メタル電報

第二節　秘辭ノ電報ハ全ク羅馬文字又ハ全ク亞剌比亞數字ヲ以テ

書載シ決シテ兩種ノ文字ヲ混用スヘカラス

第三節　歐羅巴外ノ各電信局ニ於テハ秘密ノ意味アル文字ヲ以テ作リタル私報ハ其管下ノ線路ニ發着スルコトヲ拒絶スルノ權アリ

目第十條

第一節　電報ハ萬國電信字號ニ翻書スヘキ文字（第十一條ニアル文字）ニシテ且其着信局ノ國ニ通用スル文字ヲ以テ明瞭ニ書載スルヲ要ス

第二節　受信人ノ名處ハ本文ノ首ニ書スヘシ但其名處ハ略體ヲ用フルモ妨ナシ然レトモ此略名電報ヲ配達スルコトヲ許可スル特典ハ受信人ト電信局トノ間ニ於テ豫メ約定アル者ニ限ル可シ

右名處ハ少クトモ二語ヲ用ヒ一ハ受信人ノ名一ハ着信地ノ電信局名ヲ示スヘシ

第三節　同盟國ノ各電信局ニ於テハ宛名ノミアリテ本文無キ電報ノ發送ヲ許シ又ハ之レヲ拒ムノ權アリ然レトモ此電報ヲ繼送シ及配達スルコトハ之レヲ拒ムヲ得ス

第四節　發信人ノ記名モ亦略體ニテ之ヲ書シ若クハ全ク記名セサルコトヲ得ヘシ而シテ其記名ヲ傳送スヘキモノハ電報本文ノ終リニ之ヲ書載スヘシ其記名ナキ電報ニ關シ局報ヲ用ルトキハ其電報タルコトヲ示ス爲メニ文中ノ末語ヲ以テ記名ニ代用スヘシ

第五節　發信人ハ配達方法、返信料前納、受信報知、至急電報、照校電報、追尾電報、無線配達等ノ指定ヲ信紙中名處ノ前ニ記入スヘシ

第六節　右指定ハ電信局中ニ於テ用フル所ノ略符號ヲ以テ書スルコトヲ得但其略符號ハ括弧ニテ之ヲ圍ミ一語ニ計算スヘシ若シ普通語ヲ以テ之レヲ書スルトキハ佛語ヲ用フヘシ

第七節　原信ノ文言ヲ加削改正スルトキハ發信人若クハ其代人ニテ憑證ヲナスヘシ

目第十一條

電報ノ作文ニ用フル文字左ノ如シ

文字

N.	A.	B.
O.	P.	Q.
R.	S.	T.
U.	V.	W.
X.	Y.	Z.
C.	D.	E.
F.	G.	H.
I.	J.	K.
L.	M.	

數字	
1.	
2.	
3.	
4.	
句讀點其他記號	
5.	
6.	
7.	
8.	
9.	
0.	
終點	D.
讀	[—]
小讀	[/]
重點	["]
問標	( )
感符	[-]
略符	[']
連續點	[!]
括弧	[?]
轉倒句讀	[:]
分數母子間歸除線	[;]
字下線	[,]
局用符號	[.]
至急私報	

課金局報	
返信料前納	
至急返信料前納	
照校反復電報	
受信報知	
追尾電報	
郵稅前納	
書留郵便	
別使賃前納	
騎使賃前納	
無緘配達	
莫爾斯機ノミニ用フル字號	
Ä. Å. Ñ. Ö. Ü. 又ハ, Ä. ~Ñ. Ö. Ü. 器士機ノミニ用フル記號	
	RO. EP. XP. PR. PP. FS. CR. TC. RPD. RP. ST.

十字符

二重連續點

目第十二條

第一節　名處ハ着信地ニ於テ其配達ヲ保全ナラシムル爲メ詳明ニ書スヘシ但氏名ヲ除クノ外ハ佛語又ハ其着信地方ノ國語ヲ用フヘシ

第二節　私報ノ名處ハ配達ヲ容易ニシ尋問ノ煩ヲ省クヤウ豫テ十分ニ之ヲ書スヘシ

第三節　大市邑ニ送ル電報ニハ街名家號ヲ記スヘシ若シ街名等ヲ知リ得サレハ受信人ノ職業又ハ其他右樣ノ報知ヲ爲スヘシ

第四節　小市邑ニ送ル電報ニテモ傳送中縱令受信人ノ本名ニ差違ヲ生スルヿアルモ着信局ニテ配達シ得ヘキヤウ十分ニ其名處ヲ書スヘシ

第五節　電報ヲ送達スヘキ着處ノ地名ニ類似アルモノハ必ス其國名ヲ記入スヘシ

第六節　前各節ニ依ラスシテ名處ヲ記シタル電報ニテモ之ヲ傳送セサルヿヲ得ス

第七節　名處記載ノ不十分ヨリ起ル所ノ失錯ハ總テ發信人ノ負擔タルヘシ

目第十三條

第一節　官報ハ之ヲ發出スル人ノ官印ヲ捺スヘシ但其官報タルヿ毫モ疑ヒナキモノハ此限ニアラス

第二節　官報ノ受信原書ヲ證據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得ヘシ

第三節　商人ニシテ領事ノ事務ヲ取扱フ者ヨリ發出スル電報ハ官員ニ宛名シ且官用ニ關スルモノニアラサレハ之ヲ官報トナサス（ゴンスラル、エゼント）

但右ノ定例ニ依ラサル電報ト雖モ發信局ニ於テハ之ヲ拒絕セス直ニ其旨ヲ管轄本局ニ申報スヘシ

目第十四條

第一節　局報ハ氏名ヲ傳送セス左例ノ如ク書スヘシ

比特堡ヨリ巴里斯

電報長ヨリ電報長ヘ

第二節　傳送上ノ誤謬等ニ關シ兩局間ニ送受スル局報ニハ唯番號ヲ記スルノミニテ宛名記名ハ記載スルニ及ハス

目第十五條

第一節　發信局ノ望ニ依リテハ私報ノ發信人ハ自己ノ記名ニ相違ナキヿヲ證明スヘシ

第二節　私報ノ發信人モ亦自己ノ電報中ニ其記名ノ保證文ヲ記入スルノ權アルアリ但此保證文ハ全文又ハ左ノ略式ニテ傳送スルモ妨ケナシ

何誰ニテ保證セル記名

第三節　發信局ニ於テハ此保證文ノ確正ナルヤ否ヲ審定シ其著名コシテ信スヘキモノヲ除クノ外ハ之ヲ確正ナルモノトセス但保證ヲナスヘキ資格アル人ニテ其記名ニ證印ヲ捺シタルモノハ此限ニアラス

此他ノ場合ニ於テハ發信局ハ保證文ヲ受領傳送スルコトヲ拒ムモノトス

第四節　此保證文ノ傳送スヘキモノハ之ヲ有料語數ニ加算シ電報記名ノ後ニ傳送スヘシ

第四篇

稅則

綱第十條

同盟各國ニ於テ萬國稅則ヲ制定スルニハ左ノ諸件ヲ標準トスヘシ

同盟各國孰レノ兩國間ノ局ニテモ同線路ヲ以テ送受スル諸音信ノ稅額ハ此彼同一タルヘシ而シテ此法ヲ施行スルニ當リ歐羅巴ニ於テハ一國ヲ二大區ニ區分スルヲ得ヘシ

稅額ハ首尾ノ政府ト中間ノ政府ト協議ノ上各國順次之ヲ定ムヘシ

同盟各國ノ間ニ送受スル音信ニ適用スヘキ稅額ハ何時タリトモ協議ノ上之ヲ改革增減スルヿヲ得ヘシ

萬國稅則ヲ制定スルニ方リテハ「フラン」ヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

綱第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ傳送スヘシ

目第十六條

萬國電信ノ傳送ニ用フル稅則ハ左ノ如シ

a　發着兩局ノ首尾稅

b　中間局ノ中繼稅ハ若シ之レアル片ハ）

目第十七條

料金ハ單純ナル每一語ヲ以テ之ヲ定ム但各電信局ニ於テハ細目規則第二十一條ノ條欵ニ隨ヒ自國ニ適スル方法ニ依リ徵收スルヿヲ得ヘシ

目第十八條

第一節　歐洲內ノ方法ヲ用フル通信ニハ各國ノ爲メ均一ニシテ基本トナルヘキ首尾稅及中繼稅ヲ撰定ス

第二節　首尾稅ノ基本ハ拾先士ト定ム

第三節　中繼稅ノ基本ハ八先士ト定ム

第四節　白耳義、勃斯尼比耳日合維、勃爾牙利、丁抹、希臘、盧森堡、蒙的尼古羅、荷蘭、葡萄牙、羅馬尼、攝兒比亞、及ヒ瑞西ノ諸國ハ右二種ノ稅金基本ヲ減シテ一ハ六先士半一ハ四先士ト爲ス

第五節　此他歐洲內ノ方法ヲ用フル諸國ニ於テモ亦其關係線路ノ全部若クハ一部ノ首尾稅ヲ減スルハ適宜タルヘシ

第六節　露西亞並土耳其ハ其線路ノ建築修繕ニ關シ異常ノ事由アルカ故ニ前記ノ基本ヨリ高額ノ首尾稅及中繼稅ヲ徵收スルハ適宜タルヘシ

第七節　時宜ニ依リ海底線ノ通信ニ特種ノ中繼稅ヲ用フルヿヲ得ヘシ

目第十九條

第一節　兩國間通信ノ爲メニ徵收スヘキ料金ハ孰レノ線路ヲ問ハス總ヘテ定規ノ基本稅率ヲ用ヒ現在線路ノ最モ廉價ナル料金ニ依ルヘシ但前條第七節ノ適用ヨリ生シタル特例ハ此限ニアラス

第二節　細目規則ニ附錄ノA號稅表ハ前項ノ方法及電信會議ノ決議ニ基キテ各國間ノ稅率ヲ設定シタルモノナリ

目第二十條

歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ノ稅率ハ細則規則附錄ノB號稅表ニ依リ定ムルモノトス

目第二十一條

第一節　第十六條乃至第二十條ノ趣旨ニ基キ徵集スヘキ料金ニ端數ヲ生スルトキハ內國貨幣其他ノ便宜ヲ計リ此細目規則附錄ノ稅表ニ記セル定規ノ一語稅ヲ以テ電報ノ現語數ニ乘算シタル合計ヲ增減シ若クハ其未タ乘算セサル前ニ單ニ定規ノ一語稅ヲ增減シテ整數トナスヲ得ヘシ

第二節　前節ニ因テ施行スル増減ハ發信局ニテ收入スル料金ニ止マルモノニシテ他ノ電信局ニ配分スヘキ料金ニ及ホスヲ得ス且増減ヲ行ヒタル十五語電報ノ金額ト次節ノ貨幣相當額ニ照シ税表ニ基キテ精算シタル十五語ノ正税額トノ差ヲシテ正税額ノ十五分ノ一ニ超過セシムヘカラス

第三節　佛貨一「フランク」ニ相當シタル諸貨幣最大ノ金額左ノ如シ

日耳曼	〇、八五マーク
澳地利並匈加利	五〇クロヰツェル（澳地利ノ相場）
勃斯尼比耳日合維	五〇クロヰツェル（澳地利ノ相場）
勃爾牙利	一レーヴ
交趾	二二サンチーム（ピアストル）
丁抹	〇、八〇クロオン
埃及	三ピアストル三四パラ（定貨ノ相場）
西班牙	一ペセタ
英吉利	一〇ペンス
希臘	一、二〇ダラクマ又ハ一、二五新ダラクマ
英領印度	〇、五三ルピー
伊太利	一リラ
日本	〇、二四錢（銀貨）
孟的尼古羅	五〇クロヰツェル（澳地利ノ相場）
那威	〇、八〇クロオン
荷蘭並蘭領印度	〇、五〇フロリン
波斯	二六シヤヒス
葡萄牙	二〇〇レイス
羅瑪尼亞	一レウ
露西亞	〇、二五ローブル（硬貨）
攝兒比亞	一ヂナール
暹羅	三フアングス
瑞典	〇、八〇クロオン
土耳其	四ピアストル十三パラス一アスヘルメヂース

第四節　料金ノ徴收ハ硬貨ノ相場ニテ請求スルヲ得ヘシ

目第二十三條

第一節　條約書第十條第四項同第十七條ニ基キ特別ノ關係アル各

國間ニ於テ決定スヘキ稅額並ニ稅則實踐上ノ變更ハ現在ノ諸線路ヲ以テ料金低廉ノ競爭ヲ起サシムル爲メニハ非ス同額ノ料金ヲ以テ勉メテ多數ノ線路ヲ開キ衆庶ノ便ニ供セントスルノ趣意ナリ故ニ孰レノ線路ヲ經過ストモ首尾兩局間ノ稅額ハ必ス一致シテ變革セサルヲ肝要トス

第二節　新課稅ノ制定又ハ稅則ニ關シテハ其總體或ハ一部ノ變革タリトモ萬國電信事務局ヨリ之レヲ告知シタル後少クモ十五日ヲ經サレハ實行スルコトヲ得ス但其報告ヲ受ケタル日ハ之レヲ除ク

目第二十三條

第一節　電信本局及分局ハ條約書第十一條ニ因テ無料ニテ局報ヲ傳送スルノ特權アリト雖ヒ其通數ト長文トハ可及的之ヲ減少スルヤウ注意スヘシ

第二節　至急用ニ非サル通知ハ前拂郵便ヲ以テ贈答スヘシ

目第二十四條

第一節　既送又ハ現送ノ電報ニ關シ發信人又ハ受信人ノ依賴ニ依リテ兩電信分局間ニ交送スル校正補闕其他ノ諸電報ハ通常稅則ニ從テ課金スヘキ局報トスヘシ

第二節　電報ノ發信人又ハ受信人ハ其電報ノ發送又ハ到着ノ時ヨリ七十二時以內ナレハ其疑惑スル語辭ノ校正ヲ請フコトヲ得ヘシ但左ノ金額ヲ納ムヘシ

a　發信人ヨリ之ヲ請フトキハ其改正スヘキ語數ニ當ル電報料又其返信ヲ望ムトキハ其返信料

b　受信人ヨリ之ヲ請フトキハ第一尋問電報料第二返信電報料

第三節　前節ノb項ニ依リ發送スル電報ハ左ノ例ニ從フヘシ

加爾各答　從　倫敦 [ST] (課金局報) RP4 (4ナル數字ハ返復スヘキ總語數ヲ含ムモノニシテ即チ校正報ノ受信人名ニ當ル一語ト校正語三個トヲ合加シタルモノ)　二十六(校正ヲ要スル電報ノ日附)ブラオン(受信人名)　第一語第四語第九語ヲ返復セヨ(校正スヘキ初發電報ノ本文中語辭ノ順次)

又ハ

……ノ後ノ一語(或ハ若干語)ヲ反復セヨ

返信ハ左ノ例ニ從フヘシ

倫敦　從　加爾各答　ST（課金局報）ブラオン（受信人名）Albatross, Scrutny, Commune（初發電報ノ三語即チ校正ヲ請ヒタル語辭ナリ）

第四節　上載ノ電報ハ局報ノ部ニ列シ ST（課金局報）ノ指定ヲ付スヘシ

第五節　初發ノ電報照校電報ニシテ校正ノ後其電信ニ誤謬アリシコト判然セハ本條ニ依リテ收メタル料金ハ之ヲ還付スヘシ但初發電報ニ對照シテ正確ナル語及誤謬ノ語ト相雜ルトキハ其尋問料及返信料ノ内正確ノ語ヲ反復シタル語數ニ相當スル料金ハ之ヲ還付セサルモノトス

第六節　照校ニ非サル電報ニ關シ尋問及返信ノ料金ヲ還付スルト否ラサルトハ問信ヲ發送スル電信本局ノ取捨ニ任スモノトス

第七節　校正ヲ要セシ初發電報ノ料金ハ之ヲ還付セサルモノトス

第八節　校正ヲ請ヒタル語辭ニシテ最初ノ發信局ニアル原書ニ疑惑ス可キ字體ヲ以テ書シタルモノアルトキハ其校正電報ヲ送リシ後直ニ局報ヲ以テ其事由及料金ノ直還付ヲ差止（追テ調査確定ス）ムヘキ旨着信局ヘ報知スヘシ

第九節　尋問及返信ノ料金ハ全ク之ヲ徵收スル電信本局ノ所得トス

爲シ萬國計算ニ算入スルヲ要セス

目第二十五條

第一節　目第四十二條ニ基キ發信人ヨリ迂回ノ線路ヲ指示スルトキハ目第十八條ニ隨ヒ第十九條及第二十條ニ掲ケタル稅表ニ準シ定規ノ基本稅率ヲ以テ計算シタル中繼料金ノ全額ヲ納メシムヘシ

第二節　發信人ニテ記シタル線路ノ指示ハ局内心得トシテ信紙額表中ニテ之ヲ傳送スヘシ但料金ヲ課セス

第三節　同盟國電信本局ハ海底線ノ不通ニヨリテ料金ノ增減ヲ生セサルヤウ務テ注意スヘシ

第五篇

語數算法

目第二十六條

第一節　發信人ノ頼信紙中ニ記載シタルモノハ次條ノ第九節及第二十五條第二節ニ掲ケタルモノヲ除クノ外總テ有料語トシテ計算スヘシ

第二節　取扱上便利ノ爲メ局内ニテ添加シタル語辭、番號、句點ニハ料金ヲ課セス

第三節　受信人ニ配達スル送達紙ニハ無料ニテ其發信局名及依托ノ月日時分ヲ記載スルモノトス

第四節　發信人ハ電報本文中ニ月日等ノ全部又ハ一部分ヲ記載スルヲ得ヘシ此等ハ皆有料語數ニ算入ス

目第二十七條

第一節　莫爾斯假字ハ十五字ヲ以テ一語ノ極ト定メ之ニ超エタルモノハ復タ十五字ニ臻ルマテ一語ニ計算ス

第二節　歐羅巴外ノ方法ヲ用フル通信ハ十字ヲ以テ一語ノ極ト定ム

第三節　歐羅巴内ノ方法及歐羅巴外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テモ萬國局名錄ニ登載スルカ如キ固有名詞ハ名處中ニ記スル着信局名及着信國名ニ限リ其所用ノ字數ニ拘ハラス各一語ニ計算ス

第四節　連續點(-)ヲ以テ繫キタル語ハ其毎分語ヲ一語ニ計算ス

第五節　略符ヲ以テ分チタル語モ亦其毎語ヲ一語ニ計算ス

第六節　國語ノ用法ニ反シテ語辭ノ聯綴シタルモノ若クハ省略シタルモノハ之ヲ許サス然レモ府名、人名、地名、大街名、小街名、船名等並ニ文字ヲ以テ記載セシ數目ハ發信人ニテ之ヲ顯明スル爲メニ用サタル語數ニ依リテ計算ス

第七節　數字ニテ記シタルモノハ五個マテハ一語ニ計算シ之ニ超エタルモノハ又一語トス文字ノ聯集シタルモノヲ算スルニモ亦此例ヲ用フヘシ

歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニハ數字或ハ文字ノ聯集ハ其聯集毎ニ之ヲ三除シ其商ヲ以テ語數幾個ト定メ殘餘ノモノハ又一語トナシテ計算ス

第八節　文字又ハ數字ニテモ孤立シタルモノハ各一語ニ計算ス

字下線ニモ又此例ヲ用フヘシ

第九節　句讀諸點、連續點(-)、略符(')、轉倒句讀(“”)、括弧()、新章¶ハ語數ニ計算セス

但歐羅巴外ノ線路ニテハ必スシモ此等ノ記號ヲ送ルヲ要セス

第十節　數字中ニ用フル分數點、讀點及ヒ歸除線ハ其一個ヲ數字一字ト見テ計算ス

第十一節　順序數ヲ作ル爲メニ數字ニ加ヘタル文字ハ各一數字ト

見テ計算ス

第十二節　發信局ノ語數計算ハ萬國間ノ傳送並ニ計算上ニ於テモ之ヲ確實ノモノト認定スヘシ然レ𪜈着信局ニ於テハ其國語ヲ以テ記シタル電報ヲ受領シタル𪜈國語ノ用法ニ反シタル語辭ノ聯綴ヲ含ムモノアラハ其不足ノ料金額ヲ受信人ヨリ徴收シ以テ着信局ノ所有ト爲スヿヲ得ヘシ此ノ如ク施行スルニ當リテハ補足料金ヲ納メタル後ニアラサレハ電報ヲ受信人ニ交付セス若シ受信人ニ於テ右支辨方ヲ拒ミタル𪜈ハ局報ヲ以テ其旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

目第二十八條

語數計算ノ譯解トシテ左ニ凡例ヲ擧ク但前條第三節ニ掲クルモノハ之ヲ除ク

字數相當	歐羅巴內ノ方法	歐羅巴外ノ方法
Responsabilité（十四文字）	一語	二語
Kriegsgeschichten（十五文字）	一語	二語
Inconstitutionnalité（二十文字）	二語	三語
A-t-il	三語	三語
aujourdhui	四語	四語
C'est-à-dire	三語	三語
Aix-la Chapelle（十二文字）	一語	二語
Aixlachapelle	一語	一語
Newyork	二語	二語
New-York	二語	二語
Frankfurt am Main	三語	三語
Frankfurt a/M（十三文字）	二語	二語
Frankfurtmain	一語	二語
Rio de Janeiro（十二文字）	三語	三語
Riodejaneiro	一語	二語
New South Wales（十三文字）	三語	三語
Newsouthwales	一語	二語
Van de Brande（十一文字）	三語	三語
Vandebrande	一語	二語
Du Bois	二語	二語
Dubois	一語	一語

（連續點ナク記載セシ𪜈）

Belgrave Square		二語	二語
Belgravesquare	（十四文字）	二語	二語
Hyde Park		二語	二語
Hydepark		二語	二語
Hydepark Square		二語	二語
Hydeparksquare	（十四文字）	二語	二語
St. James Street		三語	三語
Saintjames Street		二語	二語
Portland Place		二語	二語
Rue de la paix		四語	四語
Rue delapaix		二語	二語
Princeofwales	（船名）	一語	二語
44½	（數字記號併セテ五個）	一語	二語
444½	（數字記號併セテ六個）	二語	二語
444,5	（數字記號併セテ五個）	一語	二語
444,55	（數字記號併セテ六個）	二語	二語

10 francs 50 centimes	四語	四語
10 fr. 50 c.		
10 fr. 50	三語	三語
fr. 10, 50	二語	二語
11 h. 30	三語	三語
11, 30	一語	二語
Le 17me	二語	三語
Le 1529me	三語	三語
44/2	一語	二語
44/	一語	一語
2%	一語	二語
2 p.%	三語	三語
huit/10	二語	二語
5/douzièmes	二語	二語
5 bis	二語	二語
5 ter	二語	二語
54-58	二語	二語

30 exposant a ※	三語	三語
15 multiplié par 6 ※	四語	四語

※電信機械ニ於テハ「30^a」及「30×6」等（乘算法ノ記號）ノ文辞ヲ顯ハスヲ得ス故ニ發信人ハ其代リニ「30 exposant a」及「15 multiplié par 6」ト記スヘシ

Deux cent trente qurtre	四語	四語
Deuxcenttrentequatre （二十文字）	二語	二語
Two hundred and thirty four	五語	五語
Twohundredandthirtyfour（二十三文字）	二語	三語
E.	一語	一語
E. M.	二語	二語
J	（六文字）	
Emvthf	二語	二語
tmrlz	（五文字）	一語
Ch23	（商業符徴）	二語
ADVGMY	二語	二語
AP	（仝上）	二語
M	（仝上）	二語
8	（仝上）	一語
M	（仝上）	二語
C. H. F. 45	（仝上）	二語
		四語
		四語

L' affair est urgente; parter sans retard （七語並字下線二所） 九語 九語

※（字字下線ハ之レヲ加フ可キ語又ハ文言ノ前後ニ送ルヘシ）

目第二十九條

隱語又ハ秘辭ノ雜リタル電報中其普通語ハ第二十七條第一節乃至第五節ノ例ニ從テ之ヲ計算シ其合格ノ隱語ハ目第八條第三節ニ定メタル規則ニ從テ計算シ其數字或ハ文字ノ聯集シタルモノ及普通語若クハ隱語ニ用フルコトヲ許サヽル語辭名詞若クハ文字ノ集合シタルモノハ第二十七條第七節乃至第十節ノ例ニ從テ之ヲ計算スヘシ

第六篇

料金收入

目第三十條

第一節　左ニ記載シタル事件ヲ除クノ外ハ凡テ通信料ヲ前納スヘシ

一　追尾電報增料金（第五十六條第六節）

一　別使配達賃（第六十條第一節）

一　號標電報ノ料金（第六十二條第六節）

但右ハ其着信局ニ於テ收入スヘキモノトス

第二節　萬國電報ノ發信人ハ其納メタル料金ヲ示ス受領證ヲ請求スルノ權アリ

第三節　發信局ニ於テハ右ノ受領證ヲ交付スル爲メ其登記手數料トシテ二拾五先士以内ノ金額ヲ課スルノ權アリ

第四節　着信局ニ於テ料金ヲ收入スヘキ電報ハ其受信人ヨリ相當ノ金額ヲ納ムルマテハ之ヲ交付スヘカラス

第五節　若シ又着信局ニテ收入スヘキ料金アリテ之ヲ徵收スルヿ能ハサル片ハ全ク該局ノ損失トスヘシ然レ𪜈條約書第十七條ニ基キ特別ノ條約ヲ結ヒシ國及第五十六條追尾電報第六十二條號標電報ノ傳送ノ如キ別ニ適例アルモノハ此限ニアラス

第六節　然レ𪜈其着信局ニ於テ徵收スヘキ料金ヲ受信人ヨリ納メサル片ハ之ヲ發信人ヨリ補償セシムル爲メ各電信本局ニ於テハ百方盡力スヘシ而シテ之ヲ追收シタル片ハ其本局ニテ他ノ關渉アル本局ノ收入計算中ニ組込ムヘシ

目第三十一條

第一節　誤收シタル不足金又ハ受信人ニテ拒ミ若クハ同人ヲ尋子得サル爲メ徵收スルヿ能ハサル料金雜費等ハ發信人ヲシテ之ヲ償却セシム可シ

第二節　誤收シタル過餘ノ料金ハ之ヲ還付スヘシ然レ𪜈發信人ノ貼用シタル電信切手ノ過餘ハ發信人ヨリ請求セサレハ之ヲ還付セス

第七篇　電報傳送

a　字號

目第三十二條

莫爾斯機及囂士機ノ通信ニ用フル字號ハ左ノ如シ

A　莫爾斯印字機字號

字號ノ長短及間隔

第一　長點ハ短點三個ヲ合セシニ齊シ

第二　一字ヲ作ル點々ノ間隔ハ一短點ニ齊シ

第三　二字ノ間隔ハ三短點ニ齊シ

第四　二語ノ間隔ハ五短點ニ齊シ

L	
K	
J	
I	
H	
G	
F	
Ė	
E	
D	
CH	
C	
B	
Á	又ハ。Ä
A	
A	文字
A	

Z	
Y	
X	
W	
V	
Ü	
U	
T	
S	
R	
Q	
P	
Ö	
O	
Ñ	
N	
M	數字

5 終點 [.]
6 小讀 [;]
7 讀 [,]
8 重點 [:]
9 問標 [?]
0 分數母子間線 歸除線

句讀點其他記號

問標ハ不解語ノ反復ヲ要スルトキニモ亦之ヲ用フヘシ

感符 [!]
略符 ['']
新章 一文章ノ起首

1 分數母子間線 歸除線

左ノ字號モ亦數字ヲ示ス爲メニ之ヲ用フレトモ唯甲局ヨリ乙局ニ照校返送スル時ニ限ルモノトス

2
3
4
5
6
7
8
9
0

連續點	
括弧	
轉倒句讀	
字下線	
	[一]（）圍ミシ語ノ前後ニ送ル
	〃 語又ハ文言ノ前後ニ送ル

（此記號ハ額表ト名處々々ト本文々々ト記名トノ段落ヲ分ツ爲メニ之ヲ用フ）

符號	
官報	
局報	
至急私報	
通常私報	
課金局報	
返信料前納	
至急返信料前納	
照校反復電報	
受信報知	
追尾電報	
郵稅前納	
書留郵便	
別使賃前納	
騎使賃前納	
無緘配達	
呼出	
承諾	
誤謬	
音信終尾	
中繼依賴	
可待	
受信完了	

各傳送ノ始ニ送ル

B 器士現書機字號

文字	字
A.	
B.	C.
C.	D.
D.	E.
E.	F.
F.	G.
G.	H.
H.	I.
I.	J.
J.	K.
K.	L.
L.	M.
M.	N.
N.	O.
O.	P.
P.	Q.
Q.	R.
R.	S.
S.	T.
T.	U.
U.	V.
V.	W.
W.	X.
X.	Y.
Y.	Z.
Z.	

數字

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

句讀點其他記號

終點 [.]

讀 [,]

小讀 [:]

重點 [;]

問標 [?]

感符 [!]

略符 [']

十字符 [+]

連續點 [-]

强音E E

分數母子間歸除線 /

二重連續點 =

括弧左邊 (

括弧右邊)

助語 &

轉倒句讀 "

一 每數字ノ距離ハ二空罅ヲ以テ之ヲ示シ又化小數(デシマル)ニ非サル分數ノ數字ヲ傳送或ハ照校スルトキハ其整數ト分數トノ間ハ一空罅ヲ以テ之ヲ離隔スヘシ例ヘハ(1 3/4)ハ是ニシテ(12/4)ハ非ナカ如シ

一 字下線ヲ引キタル語辭又ハ文章ナレハ其前後ニ連續點二個ッヽ例ヘハ(——急速——)トシテ之ヲ送リ受信技手ハ之ヲ翻書シテ急速トナスヘシ

符號

官報 RP.

局報 ST.

至急私報 P.

通常私報 D.

課金局報 A.

返信料前納 S.

至急返信料前納
照校電報
受信報知
追尾電報
郵税前納
書留郵便
別使賃前納
騎使賃前納
無線配達

一 其局ヲ呼ヒ又ハ之ニ答フルニハ空罅ナナシテN字ヲ數回送ルヘシ

一 受送兩機ノ同軌運轉ヲ調整スヘキ爲ニ同記號ヲ累々反復セント欲セハ空罅ナナシテITノ字ヲ數回送ルヘシ

一 電鐘(マグネット)ノ調整ヲ便易ニセント欲スルトキハ空罅ナナシテINTノ字ヲ數回送ルヘシ

RO. FP. XP. PR. PP. FS. CR. TC. RPD.

一 「可待」ト示スニハATTヲ送リ且大約其待ツヘキ時間ヲ報スヘシ

一 誤謬ヲ示スニハ句點ノ記號ナシニN字ヲ二三回送ルヘシ

一 傳送ヲ遮止スルニハ何文字ニテモ二三個ヲ送ルヘシ但其字ト字トノ間隔ヲ廣クスヘシ

一 E字ノ强音ノ記號ハ(Sノ有無ニ拘ラス)其文意ニ因リ受信技手ニテ墨筆又ハ鉛筆ヲ以テ打號スヘシ例ヘハ(Achète, achetè)ノ如シ然ルトキハ受信局ノ注意ヲ要スル爲メ送信技手ニテ電報ノ終尾ニ再ヒ其語ヲ送リ而シテ强音ノE字ハ其前後ニ一空罅ヲ以テ離隔スヘシ例ヘハ(ach e tc, achet e,)ノ如シ

Ä Ö Ü ノ代リニハAEOEUEヲ送ルヘシ

b 傳送順序

目第三十三條

第一節 電報ノ傳送ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

第一 官報

第二 局報

第三　至急私報
第四　通常私報

第二節　官報又ハ局報ノ符號ヲ表シタル電報ヲ萬國電線ニテ受信シタル局ハ敢テ其符號ヲ變更スルヿヲ得ス

第三節　取扱上ノ誤謬改正等ニ關シ各局ヨリ發送スル電報ハ局報トシテ萬國電線上ヲ經過セシムヘシ

目第三十四條

第一節　既ニ傳送中ノ電報ハ上等ノ電報ニ讓ラス之ヲ送了スヘシ但最大緊要ノ事件ニ關スルモノアルトキハ此限ニアラス

第二節　同等ノ電報ナレハ發信局ニ於テハ其受托ノ前後ニ依リ中繼局ニ於テハ其受信ノ順序ニ從ヒ傳送スヘシ

第三節　中繼局ニ於テ中繼電報ト其地方電報トヲ一線路ニテ傳送スルトキハ區別ナク重積シ其受托及受信ノ順序ニ從ヒテ傳送スヘシ

第四節　直接ノ兩局間ニ於テハ同等ノ電報ヲ交番ニ送受スヘシ

第五節　然リト雖モ通信ノ繁盛ナル地方若クハ別ニ數個ノ機器ヲ備ヒタル線路ハ傳送ノ迅速ヲ主トスルカ爲メ前節及第三十三條第一節ニ依ラサルモ亦可ナリ

目第三十五條

第一節　莫爾斯機ニ於テハ官報局報至急私報ノ順序ヲ正シク互ニ之ヲ送受シ敢テ一列輪番ノ如クスヘカラス

第二節　囂士機ニ於テハ諸電報ヲ一列ツヽニ編成シテ輪番ニ之ヲ送受スヘシ

送受兩局ノ主長ハ電報ノ種類ヲ論セス一列ノ通數ヲ定ムヘシ而シテ此通數ヲ定ムルニハ其電報文ノ長短ト取扱上不意ノ事件アラソフヿヲ酌量シテ編成スヘシ然レトモ一列ヲ編成スルニハ十通ニ超ユヘカラス

一列信ヲ以テ一傳送ト爲シ最大緊急ノ飛報アルニ非サレハ決シテ之ヲ遮止スヘカラス

二百語以上ノ電報ハ一通ヲ以テ一列ト看做スヲ例規トス

通信繁盛且緊要ナル線上ノ莫爾斯機ニテモ亦此一列傳送ノ法ヲ用フルヲ得但此機器ニテハ一列五通ニ超ユヘカラス且一通百語以上ノ電報ナレハ之ヲ一列ト看做スヘシ

第三節　送信局ニテ既ニ一列信ヲ送了セシ後直ニ又順ヲ踰エテ送

ルヘキ官報局報若クハ至急私報アリテ其受信局ヨリハ未タ次番ノ列信ヲ送リ始メサル前ナレハ更ニ一列信ヲ續送スルノ權アリ

第四節　莫爾斯機ニテハ一通露士機ニテハ一列信ヲ傳送セシ後ニ其受信局ヨリ送ルヘキ電報アラハ交代シテ之ヲ傳送スヘク若シ之レナクハ送信局ニテ次番ノ電報ヲ續送スヘシ若シ又兩國共ニ傳送スヘキ電報ナキトキハ相互ニ「無」(セロー)(○即チ――――――――――――――)ノ符號ヲ送ルヘシ

c　送受方法

目第三十六條

第一節　凡テ兩局間ノ通信ニハ始ニ「呼出」ノ符號或ハ其呼フヘキ局ノ符號ヲ送ルヘシ

第二節　被呼局ハ直ニ我局名ヲ符號ニテ答フヘシ但受信スルヿ能ハサルトキハ「可待」ノ符號ト其大約待ツヘキ時分ノ數字トヲ併送スヘシ若シ其時間十分以上ニ及ハヽ其事由ヲ報知スヘシ

第三節　被呼局ニ於テハ送來ノ電報ノ何處ニ達スルモノタルヲ論セス一ツモ之ヲ拒却スルノ權ナシ然レトモ其誤謬アルヿ判然タルトキハ受信局ヨリ直ニ局報ヲ以テ子細ニ發信局ニ報知シテ之ヲ改正セシムヘシ

第四節　局内指示ノ不規則アリト雖トモ決シテ其電報ヲ拒却或ハ遲延セシムヘカラス必ス之ヲ受信シ置キ而シテ時宜ニヨリテハ第六十六條ニ基キ局報ヲ以テ發信局ヘ報知シテ其改正ヲ請求スヘシ

目第三十七條

第一節　被呼局ヨリ唯其局名ノ符號ヲ以テ答ルノミニテ別ニ他ノ符號ヲ報セスンハ直ニ原呼局ヨリ信紙額表中ニ記入シタル局内指示ヲ左ノ順序ニ依リテ傳送スヘシ

a　電報ノ種類ヲ報ス(即チ官報ナレハS字局報ナレハA字至急私報ナレハD字ヲ送ルヲ云フ)

b　着信局ノ名

(若シ電信局之レナキ地方ヘ送ルヘキ電報ナレハ額表中ニ其地名ヲ記入セス然レトモ郵便又ハ脚夫等ニテ此電報ヲ配セ達シムル爲メ其着局ノ名ヲ記入スヘシ)

c　發信局ノ名但局名ノ前ニ(De)「從」ナル語ヲ送ルヘシ例ヘハ(Paris de Bruxelles)巴里斯從貌爾遮耳(ブルッセル)ノ如

シ

（左ノ場合ニ於テハ發信局名ニ加フルニ其國名又ハ方位等ヲ以テスヘシ）

（第一若シ他ニ同名ノ局アルトキ）

（第二其局ノ開業ヲ猶未タ萬國事務局ヘ報告セサルトキ）

d 號數

e 語數

秘辭電報ナレハ左ノ如クスヘシ

第一　有料語ノ全數

第二　普通語ノ全數

第三　時宜ニ依リテハ數字又ハ文字ノ聯集數

f 電報依托ノ日時（數字三個ヲ以テ月日時分ヲ示シ）且午前（AM/m）若クハ午後（PM/s）ヲモ併送スヘシ

莫爾斯機ヲ以テ電報ヲ傳送スルニ午前（am/m）午後（pm/s）月日ノ判然タルトキハ此報告ヲ送ラサルモ亦可ナリ

器士機ニテ電報ヲ傳送スルトキハ月日ヲ表スルニ分數體ヲ以テシ即チ分子ヲ日附トシ分母ヲ月附トス例ヘハ 25/12（十二月廿五日）ノ如シ

g 線路ノ指示（但發信人ニテ其信紙中ニ之ヲ記載セシトキニ限ル）（即チ第二十五條第二節並第四十二條第五節ニアリ）

h 發信人ニ於テ有料語數中ニ記入スルニ及ハサル指示即チ二重電報（第四十四條第七節）徵收スヘキ料金（第五十六條第八節）宛名ノ數（第五十八條第三節）號標電報（第六十二條第五節及六節）

b d f ノ文字ヲ以テ示シタル件ハ歐羅巴外ノ線上ニ於テ之ヲ用ヒサルモ妨ケナシ

第二節　前節ニ掲示シタル額表ヲ送リシ後ハ括弧ヲ以テ發信人ノ指定（第十條第六節）ヲ圍ミテ之ヲ送リ而シテ受信人ノ名處電報ノ本文發信人ノ氏名ヲ逐次傳送スヘシ

第三節　莫爾斯機ヲ以テ傳送スル電報ニハ其額表、名處、本文、記名、ノ段落毎ニ（――――――――）ノ記號ヲ以テ區畫シ全文傳送ノ後音信終尾（――――――――）ノ符號ヲ送ルヘシ

第四節　器士機ヲ以テ傳送スル電報ニハ其額表、名處、本文、記名、ノ段落毎ニ二重運續點（＝）ヲ以テ區畫シ全文ノ終リニハ十字符ノ

(十)ヲ送ルヘシ

第五節　符號ヲ示スコハ莫爾斯機ナレハ其前後ニ――――――ヲ送リ囂士機ナレハ其前後ニ‖ヲ送ルヘシ

第六節　送信技手ニ於テ送信中自ラ誤謬セシヿヲ覺知セハ直ニ「誤謬」ノ符號ヲ送リ而シテ既ニ正シク送リタル文章ノ末語ヨリ反復シテ其以下ノ文章ヲ正シク傳送スヘシ

第七節　受信技手ニテ受信中疑ハシキ語ト認ムルトキハ是亦「誤謬」ノ符號ヲ送リテ送信ヲ遮止シ而シテ既ニ曉解受信シタル文章ノ末語ヲ返送シ且問標ヲ送ルヘシ然ルトキハ送信技手ニ於テハ務メテ字號ヲ分明ニシテ其末語以下ノ文章ヲ續送スヘシ

第八節　互ニ關係スル本局ニ於テ約定セシモノヲ除クノ外ハ傳送ノ際何等ノ事項アリト雖モ其語辭ヲ略送シ或ハ文體ヲ變更スルヿヲ嚴禁ス凡テ電報ヲ傳送スルニハ發信人ノ信紙ニ據リ其記載シタル如ク傳送スヘシ

d　照較受信附局用復信

目第三十八條

電報ノ傳送ヲ終リタルトキハ受信技手ニ於テハ直ニ一信報一列信ヒ各其信紙中ノ現語數ト前ニ額表ニ示シタル語數ト差違ナキヤ否ヲ照較シ而後左ノ書式ニ倣ヒ「受信完了」ノ報ヲ送ルヘシ

R……(受領シタル電報ノ通數及一列信ノ初番號並ニ最終番號)

例ヘハR　拾通　百七十五(初番號)　九百八十(最終番號)

目第三十九條

第一節　若シ語數ニ差違アリテ受信技手ヨリ之ヲ報セハ送信技手ハ之ヲ照査シ前ノ額表中ノ語數ニ誤アラハ語字ノ實數ヲ示シ「是也」ト答フヘシ例ヘハ「一八是也」ト云フカ如シ然ラサレハ信紙中何レニ落語アルヤヲ追査スル爲メニ毎語ノ首字ヲ反復シ其落語ヲ搜知シタル後之ヲ記入ス可シ

第二節　傳送中ノ誤謬ニ非スシテ語數ニ差違アルヿヲ認ムルトキハ單ニ着信局ヨリ發信局ヘ照會シテ其語數ヲ校正スルヲ得ヘシ若シ兩局同意ニ至ラサルトキハ發信局ニ於テ算定セシ語數ヲ以テ眞正トナスヘシ

目第四十條

第一節　通信技手ハ自己ノ責任ヲ擔保スル爲メニ電報ノ全文或ハ一部分ヲ受信方ヨリ反復スルカ又ハ送信方ヨリ其反復ヲ請求ス

ヘシ

但莫爾斯機ニ於テハ受信方ニテ一通ノ終リニ之ヲ反復シ器士機ニ於テハ送信方ニテ一列信ノ終リニ之ヲ反復スヘシ

莫爾斯機ノ送信方ヨリ誤謬ヲ校正シ來ラハ受信方ハ其語辭或ハ數字ヲ反復スヘシ若シ受信方ニテ此第二ノ反復ヲ怠ラハ送信方ヨリ之ヲ促スヘシ

秘辭(數字或ハ文字)ヲ以テ書シタル官報ハ受信局ヨリ其全文ヲ反復スヘシ但其反復ヲナスハ照校電報ニ於ケルカ如シ

第二節　整數ニ分數ヲ添ヘタルモノ又ハ二字以上ノ分子ヲ有スル分數ヲ反復スル𪜈ハ其混淆ヲ防ク爲ニ分子ノ數字ハ之ヲ語辭ニ訓譯シテ送ルヘシ例ヘハ $1\frac{1}{16}$(一ト十六分ノ一)ハ $\frac{11}{16}$(十六分ノ十一)ト區別スル爲メニ 1 un 16(一イチ十六)ト作シ $\frac{13}{4}$(四分ノ十三)ハ $1\frac{3}{4}$(一ト四分ノ三)ト區別スル爲メニ treize 4(ジフサン四)ト作スカ如シ

第三節　如何ナル口實アリトモ此反復ハ決シテ遲延又ハ遮止スヘカラス其電報ニ誤謬ナキヿヲ確知セハ受信局ヨリ送信局ヘ「受信完了」ノ符號ヲ送ルヘシ但一列信ニハ其受信ノ通數ヲモ併送スヘシ

目第四十一條

第一節　已ニ傳送シタル一列信中ニ若シ校正ヲ要スヘキモノアラハ局報ヲ以テ着信局ニ通知シテ之ヲ校正スヘシ其局報ニハ受信人ノ氏名住所ヲモ記載スヘシ

第二節　已ニ傳送シタル一列信ニ關シテ不審ノ件ヲ請問スル𪜈モ亦局報ヲ以テス可シ

第三節　障碍若クハ其他種々ノ事故アリテ反復ノ電報ヲ受クルコト能ハスト雖モ其故ヲ以テ電報ヲ名處ヘ送達スルコトヲ遲滯スヘカラス但誤謬アラハ再ヒ其改正シタルモノヲ送達スヘシ

e　線路指示

目第四十二條

第一節　發信人ヨリ電報ヲ傳送スヘキ線路ヲ指示セサル𪜈其線ニ又路アル電信本局ニ於テハ其傳送ノ沿路ヲ判定スヘシ

第二節　然リト雖モ發信人ヨリ電報ヲ傳送スヘキ線路ヲ指示セハ各電信本局ニ於テハ皆其指示ニ從ハサルヲ得ス但指示シタル線

路ハ其不通ナキトキ若クハ非常ニ遲延セサルトキニ限ルモノトス故ニ是ヨリ起ル所ノ苦情ハ一切之ヲ受理セサルヘシ

第三節　電報ヲ傳送スヘキ沿道線ノ指向ハ各其關渉ノ本局間ニ於テ協議決定シタル如ク簡明ニ表示シ置クヘシ

第四節　發信人ニテ指示シタル局マテハ電報ヲ線上ニテ傳送シ其局ヨリ届先ヘハ郵便ニテ送達セラレンコトヲ乞ハヽ其望ニ應シテ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第五節　發信人ニテ電報ヲ傳送スヘキ線路ヲ指示セント欲セハ其信紙ノ端末ニ之ヲ記載スヘシ然ルトキハ此指示ヲ信紙ノ額表ニ於テ傳送ス（第二十五條第二節並第三十七條第一節 g）但其記載シタル地名ノ線ヲ過キ不用ニ屬スルトキハ之ヲ傳送セサルヘシ

f　線路阻附附二重傳送

目第四十三條

第一節　常用線路ニテ電報ヲ傳送スルノ際俄ニ阻碍起リタルトキハ其阻碍アル前局ヨリ直ニ郵便（書留又ハ別配達）又ハ尚一層迅速ナル方便ヲ以テ其電報ヲ送達スヘシ例ヘハ岐路迂遠ノ別線ニテ郵便ニ比スレハ尚ホ速ナルノ類（其料金ノ計算方ハ第七十五條第四節ニアリ）右郵便税ハ其電報ヲ郵送スル所ノ局ニテ之ヲ支辨シ封皮ニ電報ト表書スヘシ

第二節　右ノ如キ電線ヲ用ヒストモ他ニ好方便アリテ或ハ最近ノ電信分局ニ郵送シテ其局ヨリ電送スルカ或ハ終局カ或ハ受信人ノ名處其局地ノ管内ニアルトキハ直ニ之ヲ配達スヘシ

線路全通スルトキハ更ニ線上ニテ之ヲ傳送スヘシ但既ニ其届先ヨリ受證ヲ得ルカ又ハ電報非常ニ湊集シテ之ヲ再送スレハ常務ノ妨碍ヲナスヿ必然タルトキハ此限ニアラス

第三節　歐羅巴以外各國ヘノ電報ハ更ニ高價ノ線路ヲ以テ之ヲ再送セス但發信人ヨリ相當ノ料金ヲ納ムルトキハ此限ニアラス

目第四十四條

第一節　如何ナル事故ニテモ郵便ヲ以テ他局ヘ電報ヲ遞送スルトキハ必ス之ニ番號ヲ附シタル送達證ヲ添フヘシ且之ヲ送ル局ヨリ線上ニテ通報シ能フトキハ其遞送セシ通數幷ニ其發遣ノ時刻ヲモ局報ニテ報知スヘシ

第二節　右郵便到着シタルトキ其局ニ於テハ先ニ電報アリタル通數

コ相違ナキヤ否ヲ調査シ相違ナキトキハ則チ送達證ニ受領ノ印ヲ捺シテ直ニ之ヲ其發遣セシ局ヘ返却シ且線路全通スルニ至ラハ局報ヲ以テ更ニ右ノ受證ヲ傳送スヘシ其例左ノ如シ

第三月三十日附第何號送達證ニ記載セル六十三通ノ電報ヲ受領セリ

第三節　先ニ通數ノ報知ナク唯郵便ノミヲ以テ送來ル通數ヲ受領シタルトキモ亦第二節ノ規則ニ從フヘシ

第四節　電報封狀ヲ遞送シタル旨報知アリト雖ヒ若シ到着セサルトキハ直ニ未達ノ趣ヲ報知スヘシ然ルトキハ發信局ニ於テ其時宜ヲ權リ郵便ニテ之ヲ再送スルカ又ハ後至ノ通信ニ妨ナクンハ之ヲ電送スヘシ

第五節　既ニ郵便ヲ以テ遞送セシ電報ヲ更ニ電送スルトキハ左例ニ準シ局報ヲ以テ受信局ヘ報知スヘシ

伯林　從　古以釐士　送達證第何號ヲ附スル電報第何號ヲ二重ニ送ル

第六節　第四十三條ニ云ヘル如ク受信人ヘ直ニ電報ヲ遞送スルトキハ線路不通ノ事由ヲモ併セ報スヘシ

第七節　如何ナル事故ニテモ郵便又ハ岐線ノ如キ權宜ノ方法ヲ以テ已ニ送達シタル電報ヲ更ニ常用線路ニテ傳送スルトキハ其二重ニ送ル旨ヲ額表中ニ記シ局内心得トシテ報知スヘシ例ヘハ第何番線ニテ(又ハ)何地ヲ經テ(又ハ)郵便ニテ何月何日何局ヘ已ニ送達セシ二重電報

g　通信遏止附檢査

目第四十五條

第一節　凡テ發信人ハ其本人ニ相違ナキ證據ヲ示シ發送ノ時機ニ後レサレハ其依托シタル電報ヲ止ムルヿヲ得ヘシ

第二節　未タ電報ヲ發送セサル前ニ發信人ヨリ其電報ノ返還又ハ遏止ヲ乞フトキハ發信局ハ其手數料トシテ定額五拾先士(即チ五片)ヲ減シテ其料金ヲ還付スヘシ

第三節　既ニ電報ノ傳送ヲ終リシ後ナレハ發信人ハ更ニ料金ヲ納メテ電報ヲ發スルニ非サレハ取消ヲ乞フヿヲ得ス此電報ハ成ルヘク中繼局々ニ逐送シ其原信ニ追及スルニ至テ止ムヘシ且發信人ヨリ一ノ返信料ヲ納ムルトキハ原信ヲ取消シタル局ヨリ發信局ヘ宛テ其處分方ヲ報知スヘシ若シ返信料ヲ納メサルモノハ先拂

郵便ヲ以テ此報知ヲナスヘシ

原信幷取消電報トモ其未タ經過セサル線路ニ係ル料金ハ發信局ヨリ之ヲ發信人ニ還付スヘシ

目第四十六條

第一節　條約書第七條ニ云ヘル其國ノ治安ニ害アリ其國ノ法律若クハ風儀ニ悖ル私報ト見認メ其傳送ヲ遏止セントスル欲セハ速ニ其電報初發國ノ電信本局ニ報知シテ之ヲ實行スルコトヲ得ヘシ

第二節　首尾及中繼ノ局々ニ於テモ此遏止ヲナスヲ得ヘシ但之ニ不服ノ者ハ其管轄本局ニ出訴スルヲ得ト雖モ該局ノ判決ニ對シテ別ニ控訴スルヲ得ス

第三節　凡テ官報ノ傳送ニハ敢テ容喙スルヲ得ス何レノ電信局ニ於テモ之ヲ遏止スルノ權ナシ

第八篇

電報配達

目第四十七條

第一節　凡テ電報ハ受信人ノ住所宛又ハ留置トシテ郵便局宛若クハ電信局宛トナスモ可ナリ

第二節　凡テ電報ハ受信シタル順序及其等級ニ從フテ其名處ヘ配達スヘシ

第三節　電信局ノ配達管內ニ在ル住所ヘ宛タル電報ハ直ニ其名處ヘ配達スヘシ

第四節　郵便局ニ留置クヘキ電報ハ着信局ヨリ直ニ郵便局ニ送達スヘシ若シ其電報ニ郵便ノ指定アルトキハ發信人並受信人ニハ別ニ課金セス電信局ニ於テ前拂郵便ト爲シテ之レヲ郵便ニ付スヘシ若シ書留郵便或ハ(PR)ノ指定アルトキハ之レヲ書留郵便ト爲シ發信局ニ於テ五拾先士ニ超エサル稅ヲ課シテ其所得ト爲シ而シテ着信局ニ於テ其郵稅ヲ支辨シテ之レカ取扱ヲ爲スヘシ

第五節　港內ニ碇泊スヘキ船舶ノ乘客ヘ宛タル電報ハ成ルヘク其上陸セサル前ニ之ヲ配達スヘシ

目第四十八條

第一節　受信人ノ住所ニ配達スル電報ハ本人或ハ家屬ノ丁壯、雇人、寄寓者、又ハ屋主若クハ邸宅旅館ノ門掌ニ交付シテ可ナリ但受信人ヨリ書面ヲ以テ特ニ受取ルヘキ人名ヲ指定シ置クカ又ハ發信人ヨリ此電報ハ必ス其本人ニ交付セラルヘシト指定セシキ

ハ此例ニアラス

發信人ハ其電報ノ無線配達ヲ請フコトヲ得ヘシ但無線配達ヲ採用セスト公告スル國ニ於テハ必スシモ之ヲ執行スルヲ要セス

第二節　右二類ノ指定ハ電報名處ノ前ニ記載スヘシ其着信局ニ於テハ之ヲ封皮ニ轉寫シテ驅使ニ其要旨ヲ知ラシムヘシ

第三節　凡ソ電報ヲ其受信人ニ配達スルヿ能ハサルトキハ着信局ニ於テハ左ノ文例ニ依リ局報ヲ以テ其事由ヲ發信局ヘ報知スヘシ

第何號某ヨリ（月日及名處受信セシマヽ記スヘシ）知レス、拒メリ、到着セス、出發セリ、

第四節　發信局ニ於テハ右名處ノ正否ヲ照査シ若シ誤謬アラハ左ノ文例ニ依リ局報ヲ以テ直ニ之レヲ改正スヘシ

第何號某ヨリ（月日）何某宛（改正ノ名處）ヘ最初ノ電報ハ誤送ナリ

第五節　誤謬ニアラサルトキハ發信局ハ成ルヘク其不達ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ此報知ノ手數料トシテ五拾先士ニ超エサル金額ヲ納メシムルハ各局ノ權内ニアリ若シ其發信人ヨリ名處ノ改正補全或ハ其確實ナルヿヲ示サント欲セハ料金ヲ納メテ更ニ電報ヲ發スヘシ

第六節　名處ノ不分明或ハ不十分又ハ其受信人ノ不在若クハ受信ヲ拒絶スル等ノ故ヲ以テ別使等ノ屆賃ヲ徵收スルヿ能ハサルトキハ其發信人ヨリ之ヲ償補セシムル爲ニ局報ニテ右金額ヲ發信局ヘ報知スヘシ若シ之レヲ發信人ヨリ徵收シ得サルトキハ着信局ノ損失トスヘシ

第七節　受信家ノ門戸閉鎖シテアルカ或ハ其受信人ニ代リテ受領スヘキ人アラサレハ驅使ハ其住所ニ其事由ヲ書キ殘シテ電報ヲ持歸リ置キ受信人ノ來求スルトキ之ヲ交付スヘシ

第八節　留置トシテ電信局ニ宛タル電報ハ受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ニ限リ之ヲ交付スヘシ

第九節　此條ノ第七第八ノ兩節ニ掲ケタル電報ヲ六週間ノ終ニ至ルマテ尋ヲ來ル者ナキトキハ沒書トシテ之ヲ扯裂ス

第九篇　特格電報

綱第九條

同盟各國ハ音信ノ傳送及ヒ配達ヲ一層保全且便捷ニスル爲メ同盟國

電信各本局ニ於テ協議裁決シタル種々ノ方法ヲ以テ各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

此各國中執レニテモ音信ノ傳送及配達ニツキ別殊ノ方法ヲ用ルコトヲ定メ之ヲ報知スルトキハ其成法ヲ以テ亦各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

a　至急私報

目第四十九條

第一節　私報ノ發信人ハ其名處ノ前ニ「至急」ノ語又ハ(D)ノ符號ヲ書シ通常電報料ノ三倍ヲ納ムレハ他ノ私報ニ先チ之ヲ傳送スルコトヲ得ヘシ

第二節　至急私報ハ他ノ私報ヨリ先ニ傳送スルヿヲ得ト雖ヒ其至急私報中ノ先後ハ第三十四條第二節ノ規則ニ依ル可シ

第三節　前兩節ノ規則ハ其管內ノ線路中或ハ全部或ハ一部ヲ限リ之ヲ施行シカタキ旨ヲ報告シタル本局ニ於テハ之ヲ採用セサルモ亦可ナリ

第四節　至急私報ノ繼送ノミ應承スル本局ハ其電報ノ初發國ト着信國トノ間ニテ該局アル領地ヲ直通ニ橫過シタル線又ハ中繼分局ニ於テ之ヲ傳送セシムルヿヲ許スヘシ但此通信ニ課スヘキ中繼稅モ他ノ沿路ノ如ク之ヲ三倍ニスヘシ

b　返信料前納

目第五十條

第一節　凡テ發信人ニテ其電報ノ返信ヲ要セハ料金ヲ前納スルコトヲ得ヘシ然レトモ右料金ハ原信同一ノ線路ヲ經過スル電報三十語ノ價ニ超ユヘカラス但第二十四條ニ依リ既送電報ニ關スル返信ヲ請求スルモノハ此限ニアラス

第二節　發信人ニテ前納セントスル返信語數ヲ記セサルトキハ同一ノ線路ヲ經過スル通常電報十語ノ料金ヲ納ムヘシ

第三節　前節ニ依ラサルトキハ發信人ニテ返信料前納又ハ(RP.)ノ外ニ其返信語數ヲ示シ本條第一節ニ云ヘル定限內ノ料金ヲ納ムヘシ

第四節　連名電報ノ發信人ニ於テ受信人各自ヨリ受領スヘキ返信料ヲ前納セントスルトキハ各受信人名處ノ前ニ返信料前納又ハ(RP.)ト記入スルヲ要ス

第五節　發信人ニテ至急返信料ヲ前納セントスルトキハ名處ノ前ニ

至急返信料前納又ハ(RPD)ノ指定ヲ記入シ原信ト同一ノ線路ニ於ケル至急報拾語ノ料金ヲ納ムヘシ但發信人ハ右ノ指定ト語數トヲ併記シ本條第一節ニ定メタル制限内ノ料金額ヲ前納スヘシ

目第五十一條

第一節　着信局ニ於テハ前納ノ料金ニ當ル證劵ヲ以テ受信人ニ交付シ受信人ヲシテ別ニ現金ヲ出サシメス何レノ地方ニテモ前納料金内ハ隨意ニ電報ヲ送ラシムヘシ但此證劵ハ交付セシ日ヨリ六週日間資用スヘキモノニシテ此期限ヲ過クレハ廢紙トナシ其前納金額ハ證劵ヲ交付セシ局ノ所有トナスヘシ

第二節　受信人ニテ證劵ヲ資用セサルトキハ歐洲内ニ於テハ返信料前納ノ金額ヲ還付セス歐洲外ニ於テハ之レヲ還付スルコトヲ得

第三節　料金ノ還付ヲ請求セント欲セハ本條第一節ニ云ヘル六週日ノ期限内ニ受信人ヨリ着信局ニ依頼シテ證劵ヲ差出スヘキモノトス

第四節　右還付方ハ定例(之ヲ報知スルニハ郵便ヲ用フルノ類)ノ還付手續ニ依リテ取扱フヘシ

第五節　返信ノ爲メニ交付スル證劵ヲ受信人ニテ固辭スル片ハ着信局ヨリ局報ヲ以テ其旨ヲ發信人ニ報知スヘシ此局報ハ返信ノ代リト爲スヘシ

第六節　此局報ハ左ノ文例ニ依リ私報ト看做シテ傳送スヘシ

何月何日第何號ヘノ返信料ハ

受信人ニテ固辭ス

第七節　第四十八條第三節ニ掲ケタル事故ヨリシテ其電報到着ノ際速ニ之ヲ交付スル能ハサル片ハ同節ニ擧ケタル文例ニ依リ局報ヲ以テ其旨ヲ發信局ヘ報知スヘシ

第八節　前節ノ如ク尋問セシ後其正誤ナキ片ハ猶受信人ヲ百方探索シ而シテ八日目ニ至リ若クハ其以前ニ於テモ全ク所在ヲ發見セサルニ決セハ復タ前節ニ云ヘル文例ヲ以テ其確報ヲナシ之ヲ返信ノ代リトナスヘシ

目第五十二條

第一節　前二ケ條ノ規則ハ之ヲ施行シカタキ旨ヲ報知シタル歐洲外ノ電信本局ニ於テハ之ヲ採用セサルモ亦可ナリ

第二節　此ノ如キ歐洲外ノ本局ト交送スルニ於テハ返信料トシテ

納メタル金額ハ其着信局ノ收入計算中ニ組込ムヘシ其着信局ニ於テハ受信人ノ爲メ便宜ナル方法ヲ設ケ之ヲ取扱フヘシ

c 反復照校電報

目第五十三條

第一節　凡テ發信人ハ其電報ノ照校ヲ乞フヿヲ得ヘシ然ルトキハ名處ノ前ニ照校又ハ(TC)ノ指定ヲ記入スヘシ此電報ハ其傳送ニ關係ノ局々互ニ其全文ヲ悉皆反復スヘシ

第二節　何種ノ機械ヲ用フルトモ照校電報ヲ受ケタルトキハ直ニ受信局ヨリ之ヲ反復スヘシ

第三節　反復照校手數料ハ同線路ヲ以テ送ル同語數ノ通常電報料四分ノ一ナル金額ニ齊シ

d 受信報知

目第五十四條

第一節　凡テ發信人ハ其電報配達ノ後受信人ノ受領セシ時刻ヲ電報ニテ報知セラレンヿヲ乞フコトヲ得ヘシ然ルトキハ名處ノ前ニ受信報知又ハ(CR)ノ指定ヲ記入スヘシ

第二節　受信報知ノ手數料ハ同線路ヲ以テ送ル通常電報十語ノ料金ニ齊シ

目第五十五條

第一節　受信報知ハ(CR)ノ符號ヲ以テ表示シ左ノ文例ニ依リテ傳送スヘシ

(CR)巴里斯　從　白倫　第何號電報ハ(受信人ノ名處)ヘ(月日時分)配達セリ(或ハ其不達ノ事由)

第二節　受信報知ハ之ヲ報知スル局ヨリ別番號ヲ記シ私報ニ先タチテ傳送スヘシ

第三節　第四十八條第三節ニ掲ケタル事故アレハ同節文例ノ局報ヲ先ニ送リ而後電報ヲ配達スルヿヲ得ハ直ニ受信報知ヲ送ルヘシ若シ之ヲ配達スルヿヲ得スシテ二十四時間ヲ過クルトキハ其事由ヲ報知スヘシ

e 追尾電報

目第五十六條

第一節　凡テ發信人ハ電報ノ名處前ニ追尾又ハ(FS)ノ指定ヲ記入シ着信局ニ於テ其電報ヲシテ歐羅巴內受信人ノ所在ニ追尾傳送セシメンヿヲ乞フヿヲ得ヘシ

第二節　電報ニ追尾又ハ(FS)ノ指定ノミヲ記シテ其他ノ指定ナキトキハ着信局ニ於テ其電報ニ記載シタル名處ニ送リ而シテ受信人ノ住所ニテ更ニ新名處ヲ指示スルトキハ直ニ其新名處ヘ再送スヘシ

但其新名處ハ電報中第一名處ノ後ニ記入スヘシ

第三節　若シ新名處ヲ指示セサルトキハ第四十八條第三節及ヒ第七節ノ規則ニ依リ其電報ヲ第一着局ニ留置クヘシ右電報ヲ新名處ニ再送シ第二着局ニテ受信人ヲ尋得サルトキハ其局ニ留置クヘシ

第四節　追尾又ハ(FS)ノ指定ヲ記シ且其名處ヲ逐書シタル電報ハ其受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送スヘシ若シ空シク終尾ノ局ニ及ヒタルトキハ不得止該局ニテ前節ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第五節　追尾電報ノ本文ハ素ヨリ一語モ省略セス逐局之ヲ傳送シ其局ニ着スル毎ニ之ヲ受信人ニ交付スヘキ送達紙ニ書寫スヘシ

但額表中ニハ猶傳送スヘキ着地名中ノ首位ニ在ルモノヽミヲ以テ着信局名(第三十七條第一節b項)トシテ記入シ其他ノ地名ヲ要セス

第六節　追尾電報ノ發信人ニ課スルニハ唯第一着局マテノ萬國料金ヲ以テシ其逐書シタル名處ハ總ヶ有料語數ニ加算スヘシ然レトモ第一着局以外第二第三ヘノ通信料ハ受信人ヨリ徴收スヘキモノトス

第二節ノ場合ニ於テハ初發電報ノ現語數ニ新名處ノ語數ヲ併加シ其合語數ヲ以テ再送電報ノ料金ト定ムヘシ

第七節　第一着局以外ノ通信料ハ受信人ヨリ徴收スヘキモノナルヲ以テ逐處電信局ニテハ額表中ニ之ヲ記載シ無料ニテ報知スヘシ

第八節　此報知ハ左ノ文例ニ依リ記載スヘシ

徴收スヘキ料金ハ幾佛幾先士

例ヘハ着信第一第二局等ニ於テ其國境以内ヘ更ニ順次追尾スルトキ其受信人ヨリ徴收スヘキ料金ハ逐局傳送毎ニ其國内地ノ税則ニ從テ之ヲ計算ス若シ其國境ヲ越エテ之ヲ追尾スルトキノ追收料金ハ逐國傳送毎ニ萬國電報ト看做シテ之ヲ課ス但此逐國ノ料金ハ送信スル國ト受信スル國トノ間毎ニ定メタル税則ニ從テ之ヲ計算スヘシ

第九節　若シ着信局ニテ追尾ノ料金ヲ徴收シ得サルトキハ該局ヲ管理スル本局ヨリ他ノ諸本局ヘ分配セシ料金ヲ爲替劵ニテ取戻ス

ヘシ

目第五十七條

第一節　何人ニテモ其本人ニ相違ナキヿヲ證明シ其平常配達ヲ受クル電信局ヘ豫テ新名處ヲ指示シ置キ同人ニ宛タル電報到着次第前條ノ例規ニ從ヒ其新名處ヘ再達セラレンヿヲ請フヿヲ得ヘシ

第二節　此再送ノ請求ハ必ス書面ヲ以テスヘシ

第三節　各電信局ニ於テハ何タル指定ナキ通常電報ト雖モ時宜ニ因テ其受信人ノ住所ヨリ追尾再送ヲ請ハヽ其賴意ニ從ヒ之ヲ取扱フヘシ

f　連名電報

目第五十八條

第一節　同文ノ電報ハ同地ニ住スル人數名又ハ同地ニ於テ同名ノ數家ヘ各配達スルヿヲ得ヘシ

第二節　同地ニ住スル人數名又ハ同名ノ數家ニ宛タル電報ハ郵便配達ノ有無ニ拘ハラス一箇ノ電報ト看做シ其料金ヲ課スヘシ但甲一通ノ外乙丙ハ謄寫料トシテ一通毎ニ一百語以内ハ五拾先士ヲ課シ之ニ過クレハ又一百語毎ニ五拾先士ヲ增課スヘシ百語未滿ト雖モ亦同シ

右課金方ハ電報本文、記名、及名處ヲ合加シタル全語數ニ依リテ計算シ別々ニ各通ニツキ謄寫料ヲ徵收スルモノトス

第三節　一ノ電信局ノ配達管内ニ於テ同處及各處ニ住スル同名或ハ數名ヘ宛タル電報ヲ傳送スルトキハ郵便別使等ノ有無ヲ論セス其名處ノ數ヲ額表中ニ記載スヘシ

第四節　本條第一節ニ云ヘル數名ヘノ電報ハ發信人ヨリ送達紙各通ニ受信人ノ連名ヲ記スルヿヲ請求スルニ非サレハ電報一通毎ニ一名ノミヲ記スルモノトス但此請求ハ名處欄内ニ記セシメ有料語數ニ加算スヘシ

g　萬國電線以外ノ地方ヘノ電報

目第五十九條

第一節　萬國電線ヲ以テ接續セサル地方ヘノ電報ハ發信人ノ依賴ニ從テ郵便又ハ別使ヲ以テ其名處ノ地ヘ送達スルヿヲ得ヘシ然レトモ此別使ノ送達ヲ乞フヿハ條約書第九條ニ基キ電報ヲ送ルニ郵便ヨリ一層迅速ナル方法ヲ設備スル旨ヲ他ノ國々ヘ豫テ報知

シタル國ヘ向ケテ發遣スル者ニ限ルヘシ

第二節　電線沿路外ヘ配達スヘキ電報ノ名處ハ左ノ文例ノ如ク記スヘシ

別便（或ハ郵便）ヲユルレル氏（人名）ヨハレコスタール（街名）伯林（地名）ト結末ニ着信局ノ名ヲ記スヘシ

目第六十條

第一節　郵便ヨリ迅速ナル方法ヲ設ケタル國々ニ於テ此法ヲ以テ電信局以外ヘ送達スルノ入費ハ其受信人ヨリ之ヲ徴收スヘシ

第二節　然リト雖モ受信報知ヲ要スル電報ナレハ發信局ニテ豫定シタル持運賃ノ金額ヲ發信人ヨリ預ケ置クヿヲ得ヘシ右預收金額ハ其現費ヲ受信報知ニ記載シテ其過不足ヲ精算スヘシ

第三節　歐洲外ノ線路ニ在ル着信局以外ヘノ配達ニハ本條ノ規則ヲ用ヒス總テ此配達入費ハ其本局ヨリ豫テ決定報知シタル金額ニ依リ發信局ニ於テ之ヲ收入スヘシ故ニ受信報知並ニ現費精算ヲモ要セサルモノトス

第四節　右第二節及第三節ニ云ヘル場合ニ於テハ別便賃前納又ハ（XP）騎便賃前納又ハ（EP）ヲ名處ノ前ニ記入シ其賃金ヲ納ムヘシ

但第三節ニ云ヘルモノヲ除クノ外ハ（CR）ノ符號ヲ現ニ記入セサルモ前ニ記載セル符號（XP）又ハ（EP）アルトキハ必ス受信報知ノ手續ヲナスモノトス

目第六十一條

第一節　着信局ニ於テ郵便ヲ用フル權アルヿ左ノ如シ

a　遞送ノ方法ヲ電報中ニ指定セサルトキ

b　設如ヒ其指定アリト雖モ條約書第九條ニ基キ其着信國ニテ設備シタル方法ニ背キシトキ

c　曾テ配達セシトキ受信人ニテ持運賃ヲ拒絶セシニ依リ爾後同人ヘ宛タル電報ヲ送達スルトキ

是ハ先拂トシテ郵便函ニ投入スヘシ

第二節　着信局ニ於テ郵便ヨリ外ニ迅速ナル方法ノ設ナキトキハ已ムヲ得ス郵便ヲ以テ送達スヘキモノトス

第三節　郵便ヲ以テ配達スヘキ各種ノ電報ハ其發信人又ハ受信人ヨリ別ニ納金セシメス着信局ヨリ郵便ニ付スヘシ但次ノ三節ハ此限ニアラス

第四節　書留書狀トシテ郵便ニ付スヘキ電報ハ發信局ニ於テ五拾

先士(最高額)ニ過キサル金額ヲ課シ其所得トナスヘシ

第五節　海上ヲ經テ郵送スヘキ電報ハ發信局ニ於テ若干ノ金額ヲ徵收スヘシ但其郵稅額ハ此ノ如キ遞送ヲナス所ノ本局ニテ像テ之ヲ決定シ他ノ本局ヘ報知シ置クモノトス

第六節　國疆近傍ニ在ル電信局ヘ傳送シ其レヨリ郵便ヲ以テ隣國ヘ配達スヘキ電報ハ先拂書狀トシテ郵便函ニ投シ其稅ハ受信人ヨリ納メシムヘシ

第七節　然レトモ若シ國疆ニ跨越スル電線上ニ於テ大障碍ノ起リシトキハ第四十三條ニ依リ取扱フヘシ

第八節　書留書狀トシテ配達スヘキ電報ヲ直ニ書留ニスルコト能ハサルトキハ郵便出發ノ時機ヲ失ハサラシメンカ爲メニ先ツ通常書狀トシテ郵便ニ托シ更ニ至急ニ其寫ヲ書留ニシテ再送スヘシ

h　號標電報

目第六十二條

第一節　號標電報トハ同盟諸國ノ海岸ニ於テ之ヲ建設シ又ハ建設スヘキ號標臺ヲ媒介トシテ海上ニ在ル諸船ト通信スルモノヲ云

第二節　號標電報ハ號標臺ノ設アリテ之ヲ取扱フ國ノ國語若クハ萬國通商符號ヲ以テ書スヘシ但該符號ヲ以テスルトキハ之ヲ秘辭電報ト看做スヘシ

第三節　海上船艦ヘノ電報宛名ニハ通常指定ノ外ニ其國名及船名若クハ公定番號ヲモ示スヘシ

第四節　海上ノ船艦ヨリ官報ノ號標電報ヲ標送スルトキハ特別ナル檣旗ノ徽章ヲ官印ニ代用シ必ス其艦名ヲモ送ルヘシ

第五節　號標電報ハ額表中ニ號標ノ符號ヲ示スヘシ

第六節　號標臺ヲ媒介トシテ海上ノ船艦ト交通スル電報ノ料金ハ一通ニツキ二佛ト定メ此課金ノ外ニ電機通信ニ係ル定例ノ料金ヲ加課スヘシ而シテ此全額ハ海上ノ船艦ニ宛タル電報ナレハ發信人ヨリ納メシメ又海上ノ船艦ヨリ出セシ電報ナレハ受信人ヨリ納メシムヘシ(第三十條第一節)然ルトキハ額表中左ノ如ク表示スヘシ

徵收スヘキ料金幾佛幾先士

若シ此料金ヲ徵收シ能ハサルトキハ爲替劵ヲ以テ着信局ヘ右金額

ヲ償フヘシ

第六十三條

第一節　海上船艦ヨリノ電報ハ其船艦ノ請求ニ依リテハ萬國通商符號ヲ以テ之ヲ其名處ニ傳送ス

第二節　右ノ請求ナキトキハ號標臺ノ主長ニテ通常ノ語ニ譯シ之ヲ其名處ニ傳送ス

第三節　號標臺ヨリ船艦ニ送ルヘキ電報ヲ三十日內（依托ノ日ヲ算入セスシテ送ルヿ能ハサルトキハ之ヲ沒書ト看做スヘシ

第四節　號標電報ヲ宛タル船艦二十八日內ニ入港セサルトキハ二十九日目ノ朝ニ方テ號標臺ヨリ局報ヲ以テ其事由ヲ發信人ニ報知スヘシ然ルトキハ發信人ハ更ニ陸線通常電報十語ノ料金ヲ納メ猶復タ三十日間右電報ヲ保留セラレンヿヲ請求スルノ權アリ而シテ其日限ニ至レハ又此ノ如クスルヲ得ヘシ若シ此請求ナキトキハ三十日ニ至テ其電報ヲ沒書トナスヘシ

特格電報ニ用フヘキ例規

第六十四條

前條々ニ掲ケタル件々ヲ實施スルニ方テハ至急電報、返信料前納、照校電報、受信報知、追尾電報、連名電報及電線沿路外ニ送達スヘキ諸電報等公衆ノ爲ニ設ケタル便利ノ方法ヲ一個ノ電報中ニ併用スルヿヲ得ヘシ然レトモ第十條第五節第六節ニ掲ケタル規則ニ戻ルヘカラス

第十篇

局報

綱第五條

電信ヲ區分シテ左ノ三種トス

第一　官報ノ即チ同盟國ノ首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信ヲ云フ

第二　局報　即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電信ノ處務ニ關シ或ハ各局協議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三　私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

綱第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅

コテ傳送スヘシ

目第六十五條

第一節　局報ハ第十四條第一節ニ其文例ヲ掲示シタル局務本職及同條第二節ニ記載シタル局用報知ノ二種トス

第二節　局報ハ至急事件ニ限リ之ヲ用フヘシ（第二十三條）

第三節　局報ハ隨時ニ秘辭ヲ以テ書スルヲ得ヘシ（條約書第六條）但一般ノ例規ハ佛語ヲ用フヘキモノトス（第七條第三節）

目第六十六條

第一節　凡テ局用報知ハ傳送上ニ不慮ノ事件起リテ已ムヲ得サレハ何時ニテモ局々ノ間ニ交送スヘシ就中已ニ傳送シタル電報ノ局内指示ニ不規則アル片（第三十六條第四節）又ハ已ニ傳送シタル一列電報ニ關シテ校正等ヲ要スル片（第四十一條第一節第二節）又ハ電線ノ障碍ニ依リ郵便ヲ以テ電報ヲ他局ヘ送達シタル片（第四十四條）又ハ電報ヲ其受信人ニ交付シ得サル片（第四十八條）又ハ號標電報ヲ宛タル船艦二十八日内ニ入港セサリシ片（第六十三條第四節）等ノ如キ是ナリ

第三節　已ニ傳送シタル電報ニ關スル局用報知ハ成ルヘク原信ノ通行シタル線路ニ由テ之ヲ送ルヘシ且此報知ニハ原信ノ月日名處記名等其捜索ニ便要ナル條件ヲ記載スヘシ

第三節　其中間何レノ局ニ於テモ此報知ニ答ヘ或ハ其請問ニ就テ處分スヘキ諸事件ノ要ヲ知悉セハ他局ヘ無益ノ傳送ヲ省クカ爲ニ其局ニテ之ヲ處分スヘシ

第十一篇

電話通信

目第六十七條

第一節　同盟各國ノ電信局ハ需用ノ多少ニ應シ特線ヲ架設シ又ハ在來ノ線路ヲ用ヒテ萬國電話ノ通信ヲ組織スルヿヲ得

第二節　各電信局間ニ於テ特約アルモノヽ外此線路ハ總テ電話中央局ニ連接セシメ其中繼ヲ以テ公衆用開設ノ電話局、私宅、商店、工場等ノ間ニ通信スルヿヲ得

第三節　器械ノ撰擇、事務ノ詳細ハ各電信局ニ於テ議定スヘシ而シテ各電話線ニ係ル料金ハ衆議一決ノ上之ヲ定ムヘシ

第四節　課金方並ニ通信ノ時限ハ談話五分時間ヲ以テ單位ト定ム

第五節　電話線ヲ使用スルトキハ請求ノ順序ニ從フヘシ而シテ二

談話時間前又ハ其時間中他ノ請求者無キ時ニ非サレハ同通信者ハ二談話時間（各五分間）以上續ヲ使用スルヿヲ許サス

第十二篇

信紙貯藏

目第六十八條

第一節　電報ノ原書及之ニ關係スル書類ハ其日ヨリ少クモ六ケ月間之ヲ貯藏シ秘シテ漏レサルヤウ百方注意スヘシ

第二節　歐洲外ノ方法ヲ用ヒタル電報紙類ハ貯藏期限ヲ延シ十八ケ月間トス

目第六十九條

第一節　電報ノ原書或ハ謄寫ハ發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ハ其確證アラハ獨リ其人ニ限リ之ヲ視セシムルヲ得ヘシ

第二節　發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ハ原信ノ文言ニ相違ナキ電信局ノ證印アル謄寫ヲ請求スルノ權アリ然シ𪜈着信局ニ於テハ其貯藏アラハ受信人ニ交付シタル正寫ヲ與フヘシ但電報紙類貯藏ノ期限ヲ過クレハ一切之ヲ許サス

第三節　本條ノ例ニ依リ交付スル電報ハ百語以下ナレハ其寫每ニ五拾先士ヲ課ス

第四節　發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スル電報ハ之ヲ搜索スルニ必要ナル事項ヲ詳細ニ申陳ヲサレハ各電信局ニ於テハ右電報ノ原書及其寫ヲ一覽セシメス又交付スヘカラス

第十三篇

料金還付

目第七十條

第一節　料金ヲ收納シタル電信本局ハ時宜ニ依リ其既ニ分配シタル他ノ本局ヨリモ之ヲ返却セシメ一併ニシテ發信人ニ還付スルヿアリ其件左ノ如シ

a　凡テ電信取扱上ノ過失ニ依テ甚シク遲延ニ迨ヒ又ハ其名處ニ達セサル電報ノ全料

b　電報傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用便ヲ欠キタルヿ判然ナル照校電報ノ全料

c　歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テ通常電報傳送中取扱上

ノ過失ニ依リテ遺漏シタル語數ノ全料但受信人ニ於テ其遺漏ヲ察知シ目第二十四條第一節及第二節ニ依リ之レヲ尋問校正セシメタルトキハ本節ノ規則ヲ適用セサルモノトス

第二節　海底線不通ノ際ニ於テ發信人ハ其電報ノ未タ經過セサル線路ニ係ル料金ノ還付ヲ請求スルノ權アリ但時宜ニ因リ他ノ方便ヲ以テ電報ヲ送達セシトキハ其入費ヲ差引キ還付スヘシ

第三節　前同樣ノ還付ヲ爲サヽル不同盟國ノ線上ヲ經過セシ電報ニハ前兩節ノ規則ヲ用フヘカラス

第四節　本條ノ還付規則ハ唯其紛失遲延又ハ誤謬アリタル電報ノ料金並ニ雜費(配達等ノ諸費)及第二十四條ニ云ヘル電報ノ料金ニ限リ之ヲ用フルモノトス故ニ右紛失遲延又ハ誤謬アルカ爲ニ不得止往復ヲナシタル電報又ハ之カ爲メ不用トナリタル電報ノ料金ハ之ヲ還付セス

目第七十一條

第一節　凡テ料金還付ノ請求ハ其電報ノ日附ヨリ二ケ月以内ヲ限リトシ之ヲ過クレハ一切受理セサルモノトス

歐洲外ノ方法ヲ用フル電報ハ此時限ヲ延シテ六ケ月間トス

第二節　此請求ハ必ス左ノ證據書類ヲ添テ發信地ノ本局ヘ申立ヘシ即チ

不達ノ節ハ其着信局カ又ハ受信人ヨリノ書面ヲ添ヘ

誤謬遲延ノ節ハ其受信人ノ所持スル電報ノ原書ヲ添ヘ

若シ受信人ヨリ着信地ノ本局ヘ其請求ヲナスモ妨ケナシト雖ヒ此際ニ於テハ該局ニテ其聽受スヘキヤ又ハ之ヲ發信地ノ本局ヘ通知スヘキヤ否ヲ判決スヘシ

第三節　關係ノ各本局ニ於テ其請求ノ件ヲ至當ト認ムルトキハ其發信地ノ本局ニ於テ之ヲ還付スヘシ

第四節　發信人曩キニ其電報ヲ依托シタル後其國ヲ去リ他國ニ住居セシトキハ該國ノ電信本局ヲ經テ右請求ヲ發信地ノ本局ヘ申立ルヿヲ得ヘシ然ルトキハ時宜ニ依リ其發信人ノ當時現在セル國ノ本局ヘ委托シ其金額ヲ還付セシムヘシ

第五節　本局ヨリ本局ヲ經テ照會スル料金還付ノ請求ニハ其關係アル諸書類ノ原書正寫又ハ摘抄ヲ添ヘテ回達スヘシ而シテ此等ノ文書若シ佛語ニ非サレハ其概略ヲ佛語又ハ關係ノ局々ニ於テ

通曉シ得ヘキ國語ヲ以テ副記スヘシ

第六節　左ノ苦情書ハ本局ヨリ本局ヘ通達セス

a　苦情書ノ事件還付ヲ聽許スヘカラサルヒ

b　作文、國語、曉解シ易キ書法、名處、及電線沿路外ヘ送達ノ指定等公衆ノ爲メニ定メタル諸般ノ例規ニ從ハス凡テ發信人ニ於テ其誤謬ヲ甘受シタル電報ニ關スルトキ

目第七十二條

第一節　凡テ電報不達ノ節ハ其取扱上ニ於テ誤謬粗漏等ヨリ遂ニ受信人ニ達スルヿヲ妨害シタル線路ノ本局ニテ其料金ヲ辨償還付スヘシ

第二節　電報ノ不達ニ關スル苦情書ヲ却下スルヒハ受信人ノ受領證或ハ着信地本局ノ證明書ヲ以テ其電報ノ既ニ達シタルヿヲ確證スヘシ

第三節　電報遲延ノ節ハ之ヲ郵便ニテ遞送スル時日ヨリモ後レテ漸ク其名處ニ達シタルヒハ其料金ノ還付ヲ乞フヿヲ得ヘシ但歐洲内ノ電報ハ遲延時間四十八時(二晝夜)歐洲外ヘハ百四十四時(六晝夜)ヲ過クルヒハ此還付ヲ爲スヘシ

第四節　料金ノ還付ハ各遲延ヲ釀シタル局々ニテ其時間ニ應シ之ヲ分賦辨償スヘシ

第五節　照校電報ニ誤謬ヲ生シタルトキハ發信地ノ本局ヨリ其傳送ニ關渉シタル諸本局ニ回報シ其電報ノ用辨ヲ闕クニ至ラシメタル誤謬ノ穿鑿ヲナスヘシ其辨償ノ割合ハ關係局々各自ノ線上ニテ釀成シタル誤謬ノ多寡ニ從ヒ之ヲ計算シ其脫語剩語ヲ一誤謬ト爲スヘシ

第六節　一度ヒ過誤ヲ生セシ後ヲ數局ノ線上ヲ連綿經過シタル語ハ其始メニ誤リシ所ノ本局ヨリ之ヲ辨償スヘシ

第七節　凡テ誤謬脫語ノ過失ハ左ノ事項ニ依テ辨償スヘシ

a　受信局ニ於テ電報語數ヲ能ク驗明セサルヨリシテ語辭數字又ハ文字ノ脫落剩餘アルヒ及照校電報ノ反復ヲ忘却シ又ハ之ヲ丁寧反復セサルヒ加之ナラス當士機運轉ノ不順ヲ修整セサルヒハ送受兩局ヨリ辨償スヘシ

b　送信局ヨリ誤謬ノ校正ヲナスト雖モ受信局ニ於テ其校正ヲ怠ルヒ及局内反復ヲ受了スト雖モ前受ノ電報ヲ校正セサルヒハ受信局ヨリ辨償スヘシ

此他ノ誤謬失錯ハ總テ送信局ヨリ辨償スヘシ

第八節　一通以上ノ謄寫ヲ作シタル電報中幾通分カノ料金ヲ辨償スルトキハ其原書ト謄寫トヲ併セタル通數ヲ以テ收入全金額ヲ除算シ其商ヲ得テ一通ニ對スル還付ノ金額ト定ム

第九節　證據トナルヘキ書類ノ紛失又ハ不足ナルヨリシテ誤謬脫語ノ過失ヲ何レノ局ニ歸スルコトナキトキハ其證據ヲ有セサル本局ヨリ辨償スヘシ

第十節　第七十一條第一節ニ定メタル期限中ニ料金還付ノ請求ヲ受ケ而シテ其請求書ヲ回達セシコト第六十八條書類貯藏ノ期限以內ニ其結局ノ報知ナキトキハ其請求書ヲ受ケタル本局ニ於テ右穿鑿ヲ遲滯セシ本局ノ爲ニ假ニ其請求ノ料金ヲ辨償スヘシ

第十一節　歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニハ其電報經過ノ線路ニ在ル各政府ノ局又ハ會社ニ於テ各自ノ割合ヲナシ其料金ヲ辨償スヘシ、

目第七十三條

第一節　條約書第七條第八條ニ基キ電報ヲ抑遏シタル際發信人ヨリ其料金還付ヲ請求セハ之レヲ還付スヘシ而シテ其還付ハ抑遏シタル本局ノ負擔タルヘシ

第二節　各ノ本局ニ於テ條約書第八條ニ基キ電報ノ種類ヲ限リ停止スルノ告知ヲナシタルトキ之ヲ停止スヘキモノアラハ其電報料還付方ハ告知ノ到達日以後ハ發信地ノ本局ニテ之ヲ負擔スヘシ

第十四篇

萬國會計

綱第十二條

同盟各國ハ互ニ其收稅ノ計算ヲ爲スヘシ

目第七十四條

第一節　萬國會計ヲナスニハ「佛」(フランク)ヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

第二節　凡テ國々ヨリ隣國ヘノ電報ハ其國境ヨリ配達地ニ至ルノ料金ヲ計算シ其全額ヲ隣國ノ收入計算中ニ組込ムヘシ

第三節　海上ヨリ受領シタル號標電報ヲ傳送シ又ハ追尾電報ヲ再送スルトキハ前節ト正ニ相反ス即チ號標電報ナレハ其發所ヨリ國境マテ追尾電報ナレハ其再送地ヨリ國境マテノ料金ヲ隣國ニテ我局ノ收入計算中ニ組込ミ置ヘシ(第五十六條第六節乃至第九節並第六十二條第六節ヲ參考スヘシ)

第四節　發着料金ハ首尾兩國ト中間諸國トニ於テ前以テ結約セハ唯タ首尾兩局ノ間ニテ直ニ精算スルモ妨ケナシ

第五節　料金ノ計算ハ協議一決ノ上ナレハ電報ノ語數及雜費ノ有無ヲ問ハス其國境上ヲ經過スル電報通數ニ依リテ計算スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ隣國若クハ其次ノ各國トノ分配ハ豫テ協議編製シタル概算法ヲ以テ決算スヘシ（第七十六條第三節ヲ參考スヘシ）

第六節　第八十七條ヲ實施スルトキ同盟セサル電線ト隣接スル同盟本局ハ他ノ同盟本局ト右不同盟ノ線トノ間ニ於テ繼送ノ媒介ナシタル後其會計ヲ調理スルコトヲ負擔ス

目第七十五條

第一節　寫ノ手數料又ハ線路外ヘノ送達料ハ其寫ヲ配達シ又ハ其送達ヲナシタル國ニ於テ收納スヘキモノトス

第二節　返信料前納及受信報知ノ爲メ收納シタル金額ハ之レヲ清算法又ハ前條ノ第五節ニ云ヘル概算法ヲ以テ計算シ其着信局ノ收入計算中ニ組込ミ置クヘシ然レトモ第五十一條第三節第三節第四節ニ依テ返信料ヲ還付セシトキハ其金額ヲ還付シタル發信局ノ次月々計ノ時ニ差引ヘシ

第三節　返信料前納及受信報知ハ其傳送及會計上トモ總テ通常電報ト同樣ノ取扱タルヘシ

第四節　歐洲內ノ方法ヲ用フル通信ニシテ稅則ヲ定メタル線路ニ由ラサルトキハ既ニ受領シタル中繼稅ハ迂回線ニ入タル場所ヨリ定則中繼稅ノ比例ニ準シテ計算シ之ヲ其關係ノ局々ニ配當スヘキモノトス

隣接セル國々ノ間ニ於テ迂回線路ヲ假用シテ通信スルトキハ其發信局ニ於テ定則ノ中繼稅額ヲ變更スルヲ得但特別ノ約束アルモノハ此限ニアラス

第五節　歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テハ何種ノ電報ニテモ凡テ其料金ヲ定メタル線路ニ由ラスシテ他路ヨリ傳送セシカ爲メ料金ニ不足ヲ生スルトキハ其線路ヲ變換シタル本局ニテ辨償スヘシ但此變換ヲ生セシ起因ノ有無ヲ他ノ本局ヘ尋問シ若シ之レ有ラハ其局ヨリ追收スヘシ

目第七十六條

第一節　清算法ヲ以テ（或ハ時宜ニ依リテハ第七十四條第五節ニ

云ヘル概算法ヲ以テ）各國間ニ比較分配スヘキ料金ハ關渉ノ各國間ニ定メタル税則ニ依リ相當ニ收納シタルモノヲ以テ其本額トスヘシ但誤算ニテ受ケタル過不足ノ金額アルトモ敢テ之ヲ加算セス

第二節　發信局ヨリ報知シタル語數ヲ以テ料金收納ノ本據トス但傳送上誤謬アルカ爲ニ發信局ト中繼局ト協議一決ノ上中繼局ニテ其語數ヲ改易セシトキハ此例ニアラス

第三節　概算法ヲ編製スルニハ先ツ各電報料ト雜費トヲ區分シテ毎月其合數ヲ計算シ置クヘシ（第七十五條ヲ參考スヘシ）而シテ全月中ニ其關渉スル國ノ爲メニ計算シタル料金ノ總額ヲ其全月中ノ通數ニテ除算シ其商ヲ以テ爾後分配スヘキ平均額トシ之ヲ改定スル迄ハ此額ヲ以テ概算法ノ標準トナスヘシ但異常ノ事故アルトキヲ除ツノ外一ヶ年以内ニ此改定ヲ爲スヘカラス

目第七十七條

第一節　互相會計ノ整理ハ毎月末ニ於テスヘシ

第二節　過不足ヶ差引計算ハ毎季末ニ於テスヘシ

第三節　雙方差引計算ノ上一方ヘ收納スヘキ不足ハ金貨「佛」ノ現金ニテ其債主國ニ交付スヘシ但之ニ關係スル兩電信本局ニ於テ他ノ貨幣ヲ用フヘキ結約アルモノハ此限ニアラス

第四節　金額ノ回送費ハ其受取ルヘキ本局ニ於テ之ヲ辨フヘシ

目第七十八條

第一節　日々計算簿ノ交換ハ必ス其月ヨリ三ヶ月内ニ於テスヘシ

第二節　右計算簿ノ檢査ハ其到來ノ日ヨリ六ヶ月内ニ於テスヘシ但是ハ最寛ナル日限トス

若シ右期限中ニ彼局ヨリ正誤ノ報知ナキトキハ我局ノ計算上ニ差違ナキモノト見做スノ權アリ

右例規ハ彼局ヨリ送リタル計算ヲ我局ニテ檢査スルニモ之ヲ用フヘシ

第三節　兩本局ノ計算簿ヲ整理シ其合計ニ少差違アリト雖ヒ雙方差引計算ノ上一方ヨリ收納スヘキ現金額ニ就テ其差違一百分ノ一ニ超過セサレハ之ヲ改算セスシテ可ナリ

假令已ニ改算ニ着手スト雖ヒ雙方照査ノ上其差違ノ額一百分ノ

一ニ超過セサルヿヲ認ムルトキハ之ヲ中止シテ可ナリ

第四節　歐洲內ノ方法ヲ用フル電報ニ關スル會計上ノ要求アルトモ六ケ月ヲ過クレハ之ヲ應承セス歐洲外ノ方法ヲ用フル電報ニ關スルモノハ十八ケ月ヲ過クレハ亦之ニ同シ

第十五篇

各國特裁

綱第十七條

同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約定ヲナスノ權ヲ有ス

目第七十九條

條約書第十七條ニ定メタル特裁施行ノ件々ハ殊ニ左ノ如シ

一　國々間ノ稅則制定

一　會計整理

一　地位ニ應シ並ニ時勢ニ隨テ特殊ノ機器又ハ文字ノ選用

一　電信切手方法ノ施行

一　電報ニテ郵便爲替ノ傳送

一　電執着處ニテ金銀ノ徵收

一　着處ニ於テ電報交付ノ方法

一　常務ニ妨ケナキヤウ特ニ時間及規則ヲ定メ低稅ヲ以テ新聞印行用ノ電報ヲ傳送シ又ハ豫約法ニ依リ特線ヲ貸與スルノ權利

一　氣象學其他公益事件ニ關スル無料局報ノ制限

第十六篇

事務根局附交互通信

綱第十四條

細目規則中ニ云フ同盟國中各一政府下ニ置ク萬國事務局ハ萬國電信ニ關スル諸般ノ報告ヲ集メ之ヲ整理出版シ稅則並ニ細目規則ノ改正ヲ請求スル者アラハ其書ヲ同盟各本局ニ回達シ而シテ衆議一致シタル改正ノ件々ヲ廣告シ且萬國電信ノ裨益トナルヘキ諸項ヲ勉勵熟慮シテ之ヲ執行スル等ノ任ヲ受クルモノトス

此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ同盟各本局ヨリ支給ス

目第八十條

第一節　條約書第十四條ニ定メタル事務局ヲ稱シテ電信諸本局ノ

「萬國事務局」ト云フ

第二節　瑞西聯邦ノ電信本局ヲシテ第八十一條乃至第八十三條ニ定メタル條目ニ依リ萬國事務局組織ノ事ニ任セシム

目第八十一條

第一節　萬國事務局ノ費用トシテ諸本局ヨリ集金スル全額ハ毎年佛貨七萬佛ニ超ユルヘカラス但萬國會議ノ入費ハ此定額ノ外タルヘシ然レモ同盟各國衆諸ノ上將來此定額ヲ增加スルヿヲ得ヘシ

第二節　條約書第十四條ニ基キ萬國事務局ノ事務ヲ監督スル本局ハ費用ヲ節制シ經費ヲ豫辨シ且諸本局ヘ報告スヘキ其年度ノ會計決算書ヲ整理スヘシ

第三節　此費用ヲ差等分賦スル爲メニ同盟各國ヲ六等ニ區分シ左ノ比例ニ依リテ若干株ヲ各國ニ分賦ス

第一等　二十五株
第二等　二十株
第三等　十五株
第四等　十株
第五等　五株
第六等　三株

第四節　右各等ノ定株ニ其等級ノ國數ヲ乘シ之ヲ合加セシモノヲ以テ全株數トシ此全株數ヲ以テ事務局費用ノ全額ヲ除シ其商ヲ以テ一株ノ金額トス

第五節　事務局ノ費用ヲ分賦セシムル爲メ前節ニ記載ルタル六等ニ因テ諸國ヲ區分スルヿ左ノ如シ

第一等
日耳曼　伯西爾　佛蘭西　大貌列頓
英領印度　以太利　露西亞　土耳其

第二等
澳地利　西班牙　匈嘎利

第三等
白耳義　蘭領印度　那威　荷蘭
羅馬尼亞　瑞典

第四等
南濠斯太利亞　喜望峰　丁抹　埃及

日本　新南威爾斯　新西蘭　瑞西
多斯馬尼亞　維多里亞

第五等

勃斯尼ー比耳日合維　勃爾牙利　交趾
希臘　葡萄牙　塞內牙爾　攝兒比亞
暹羅　突尼斯

第六等

盧森堡　蒙的尼古羅　那多兒　波斯

目第八十二條

第一節　同盟各國ノ電信本局ハ其內國電信事務上ニ關スル諸報告ヲ互ニ寄贈シ且電機上新發明ノ事アル每ニ互ニ報知スヘシ

第二節　右等ノ諸報知ハ凡テ萬國事務局ヲ經テ贈答スルヲ例規トス

第三節　諸本局ハ其內國並ニ萬國電信稅則ノ制定改正或ハ萬國通信ニ關スル新線ノ設置、舊線ノ廢停、分局ノ開立、閉鎖又ハ勤務時間ノ伸縮ノ等ノ諸報告ヲ前拂郵便ヲ以テ萬國事務局ニ通達スヘシ且其本局ヨリ發布スル文案ハ寫本或ハ摺本ニシテ其發布ノ當日又ハ遲クトモ其翌月ノ月始ニハ必ラス萬國事務局ヘ送付スヘシ

第四節　諸本局ハ萬國通信ニ關スル線路ノ不通及全通ノ報告ヲ凡テ電報ヲ以テ事務局ニ通達スヘシ

第五節　諸本局ハ其通信ノ員數、景況、線路ノ位置、分局ノ員數、機器ノ種類等ヲ統計表ニ明記詳載シ每年始月ニハ必ス到達スルヤウ之ヲ萬國事務局ニ送付スヘシ但此統計表ハ豫テ萬國事務局ヨリ回達シタル式紙ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第六節　諸本局ハ其各種ノ發行書類ヲ二部宛萬國事務局ヘ寄贈スヘシ

第七節　諸本局ハ電信各科上ニ關シ經驗セシ事項アラハ之ヲ萬國事務局ニ報告スヘシ

目第八十三條

第一節　萬國事務局ハ稅則ヲ分部出板シ凡テ之ニ關スル事件ヲモ必ス諸本局ヘ報告スヘシ就中前條ノ第三節ニ揭載シタル件ハ勿論ナリ諸報告ノ至急ヲ要スルモノハ萬國事務局ヨリ電報ヲ以テ之ヲ傳

達スヘシ就中前條第四節ニ掲載シタル件ハ勿論ナリ但諸稅則ノ改定ニ關スル諸報告ハ其改定ノ件々ヲ直ニ此附錄ノ稅表行中ニ加記スヘキ文體ヲ以テスヘシ

第二節　萬國事務局ハ總集統計表ヲ編製スヘシ

第三節　萬國事務局ハ諸本局ヨリ報告スル諸書類ニ基キ佛語ヲ以テ電信新誌ヲ刊行スヘシ

第四節　萬國事務局ハ公用ノ電信地圖ヲ上梓シ且定時毎ニ之ヲ改製スヘシ

第五節　萬國事務局ハ萬國電信ニ關スル必用ノ諸報告ヲ同盟國諸本局ヨリ依賴スルトキハ何時ニテモ之ヲ報スヘキコトヲ須知スヘシ

第六節　萬國事務局ニテ刊行スル諸書類ハ第八十一條ニ於テ差等分賦セシ株數ニ比例シテ同盟各國ノ諸本局ヘ之ヲ分與スヘシ若シ定數外ノ需求アルトキハ其原費ノ代價ヲ納メシムヘシ私立電信會社ヨリ之ヲ需求スルトキモ又同シ

第七節　右定數外ノ需求ハ豫ヲ其員數ヲ事務局ニ通知シテ之ヲ定ムヘシ若シ其增減ヲ要スルトキハ更ニ之ヲ通知スヘシ故ニ其員數ヲ增減セント欲スルトキハ印刷用意ノ爲メ數日前ニ之ヲ事務局ヘ通知スヘシ

第八節　萬國事務局ハ條約書第十條第十三條ニ云ル稅則及細目規則ノ改定アラヽヿヲ一局若クハ數局ヨリ請フトキハ其請求書ヲ同盟ス其關係アル諸局ノ許諾ヲ得テ（時宜ニ依テハ間接ニ關係ノル局ノ同意ヲモ得タル後）ト遲延ナク其採用セラレタル改定ノ件々ヲ告知スヘシ且稅則及規則ノ改定ハ如何ナル手續ヲ以テ之ヲ行フヒ必ス告知スヘキモノトス但規則改定ノ告知ハ少クモ二ケ月稅則改定ノ告知ハ少クモ十五日ヲ經サレハ之ヲ實施スヘカフス若シ異論アルトキハ彼此ノ協議ヲ經テ實施スヘシ

第九節　同盟各本局ノ衆諾ヲ得テ當ニ一決スヘキ事件アリテ之ヲ回議ニ付シタル後定期四箇月內ニ其答書ノ到着スルヤウ差出サヽル局々ハ之ニ同意シタル者ト看做スヘシ

第十節　萬國事務局ハ電信會議用ノ諸物品ヲ準備シ且會議前ニ其會議ノトキ補正スヘキ條件其他ノ書類ヲ纂輯上梓シテ分配スル等ノ事ヲ擔任ス

第十一節　萬國事務局ノ局長ハ會議ノ諸事ヲ幹辦シ會議ニ參與ス

ルヲ得ト雖モ可否ノ數ニ入ルヿヲ得ス

第十二節　萬國事務局ハ其處理セシ事項ニツキ年報ヲ作リ之ヲ同盟各國ノ電信本局ニ寄贈スヘシ

第十三節　萬國事務局ノ處事ニ就テハ條約書第十五條ニ云ヘル會議ノ際議員ノ檢閲ニ供シテ其許可ヲ得ヘシ

第十七篇

電信會議

綱第十五條

第十條ニ云フ税則及ヒ第十三條ニ云フ細目規則ハ此條約書ニ附屬シタル者ニテ條約書ト同一ノ効ヲ有シ且同時ニ施行スヘキモノトス

右税則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得ヘシ其際ニ於テハ從來參與セシ各國皆之ニ會同スルヲ得ヘシ

此會議ハ定規毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期日并ニ場所ヲ定ムルモノトス

綱第十六條

此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル理事官ヲ以テ成立スヘキモノトス

會議ニ於テハ各本局ノ理事官數名アリトモ決議ノトキハ一人ヲ以テ算ス但一政府下ノ諸局ヨリシテ各此會議ニ列セントスルトキハ外國交際上ノ手續ヲ經テ期日前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ照會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルヲハ此限ニアラス

右會議ニ於テ改正スル件々ト雖モ同盟國各政府ノ批准ヲ經タル後ニ非サレハ施行スヘカラス

第十八篇

目第八十四條

第一節　條約書第十五條ノ第三項ニ云ヘル會議ノ定期ハ同盟各國中ニ於テ其進期ヲ請フモノ十箇國ニ及ヘハ此會期ヲ早クスルヲ得ヘシ

第十八篇

加入條約附不同盟國トノ通信

綱第十八條

方今此條約ニ與ラサル國ト雖モ其請求ニ依リテハ之ニ加入スルコトヲ許スヘシ

右加入ハ會同ヲ開キシ國ヘ外國交際上ノ手續ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨリ其他諸國ヘ之ヲ報知スヘキモノトス

加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニスヘキモノトス

綱第十九條

此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トノ通信ハ此條約第十三條ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈進歩ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取扱フヘシ

目第八十五條

第一節　條約書第十八條ニ依リ同盟ニ加入セント欲スト雖ヒ同盟各國ニ準シテ其税則ヲ相當ニスルヿヲ欲セサルモノハ各國皆此條約税則ノ利益ヲ彼ト共ニスルヿヲ拒卻スヘシ

第二節　歐羅巴外ニテ所有スル數線路ヲ以テ此條約ニ加入シタル諸本局ハ其線路ノ歐羅巴内外孰レノ方法ニ隨フヤヲ確定陳述スヘシ此陳述ハ税表中ニ錄示スルカ又ハ萬國事務局ヲ經テ其事由ヲ報告スヘシ

目第八十六條

第一節　私立電信會社ノ同盟國ノ間ニ接スル者アリテ萬國通信ヲ取扱フトキハ其通信ニ關シテハ會社ノ線ト雖ヒ之ヲ合セテ該國電信ノ方法ヲ完成セルモノト看做スヘシ

第二節　私立電信會社ニテモ此條約並細目規則中ノ諸條件ヲ遵守スヘキコトニ同意シ且其營業ヲ許シタル國ヨリ其旨ヲ報告スルトキハ此條約中ノ諸利益ヲ共ニスルヲ得ヘシ但此報告ハ條約書第十八條第二項ニ依リテ取扱フヘシ

第三節　同盟國ノ二三ケ國ニ跨リテ電線ヲ架設シタル會社ハ必ス同盟ニ加入セシムヘシ假令ヘ之ニ加入セサルモ其架設ヲ許セシ國ニテ特別ニ記載シタル免許狀中ノ條件ヲ以テ同盟加入ノ旨ヲ掲示シ置クヘシ

第四節　私立電信會社ニシテ其同盟國ニ其線路ト自己ノ海底線トヲ連接スルノ特許ヲ乞フトキハ該國認可ノ料金額ニ隨フヘキ旨ヲ承諾スルニ非サレハ其特許ヲ得ルヿ能ハサルモノトス若シ此料金又ハ取扱規則中ノ改正ヲ行ハント欲セハ白倫萬國事務局ニ之ヲ報告シ目第八十三條第八節ニ記スル期限ノ後ニ非サレハ之ヲ實行スルヿヲ得ス但右會社ハ條約ヲ締結セサル他ノ會社ニ對シテハ其便宜ヲ計リ本節ニ準據スルニ及ハス

第五節　前條ノ第一節ニ云ヘル拒却ノ權ハ前節ノ私立電信會社ニ

モ之ヲ適用ス

目第八十七條

第一節　此條約ニ加入セサル國又ハ此條約書中ノ欠クヘカラサル條件ヲ遵守セサル會社ト通信ヲ開クトモ其電報ヲ經過スル線路ノ内同盟國ノ領地ニ係ル料金ハ必ス此規則ト毫モ差違アルヘカラス

第三節　同盟國ト不同盟國ト電報ヲ交送スルニハ其本局ニ於テハ各自ノ地方ニ用フヘキ税則ヲ定ムヘシ但同盟國ニ於テハ第十九條及第二十條ニ基キテ之ヲ定メ不同盟國ノ料金ヲモ併セ課スヘシ

露國聖比得堡ニ於テ確定シタル條約書第十五條及第十六條ニ依リテ一千八百八十五年九月十七日各國理事官日耳曼國白林ニ於テ此細目規則ヲ議決シ一千八百八十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

各國ヨリ此會議ニ列シタル理事官左ノ如シ

日本	石井忠亮
日耳曼	ドクトル、フオン、ステファン
同	ハーク
同	シエフレル
同	フリッチ
同	ル、サーシユ
南濠太利亞	チヤーレス、トッド
澳太利	ブルンチル
同	ウチルシッツ
匈牙利	エル、ド、コオレル
白耳義	エフ、ドラルシュ
勃斯尼―比耳日合維・	パルマン
伯西爾	バロン、ド、カパチマ
勃爾牙利	エル、イワノフ
交趾	エル、ギユウィウィエー
丁抹	ホシク
同	ルシド
埃及	エルチスト、アイスコッフ、フロワイエー
同	スカンダル、フアミー
西班牙	ウイ、コロミナ

佛蘭西	フリブール
同	エ、ロラン
大貌列頓	シ、エッチ、ビ、ペチー
同	エッチ、シ、フイシエル
同	ピー、ベントン
希臘	エム、ア、ヂュリエッチ
英領印度	バトマン、シヤンペイン
同	シ、エッチ、リーイルヅ
以太利	ダミコー
盧森堡	モンシユナ
蒙的尼古羅	ブルンチル
同	ウオルシッツ
那威	シ、ニイルセン
同	エフ、ブッシユ
新南威爾斯	イー、シー、クラク子ル
荷蘭及蘭領印度	ホフステッド
葡萄牙	ギルヘルミノ、アウグスト、ド、バロス
羅馬尼亞	コロ子ル、バスチア
同	シ、ジヤコウェスコ
露西亞	エン、ド、ベサック
同	エ、ウッソーフ
塞內牙爾	エル、ジユウィウィエー
攝兒比亞	サン、ヨワノウィッツ
暹羅	プリスダン
瑞典	デ、ノルドランドル
同	ヘルマン、ヴッデンベルグ
瑞西	フレイ
多斯馬尼亞	ゼ、ヘンコッケル、ヒートン
突尼斯	エ、ロラン
土耳其	オハン、バグダリヤン

條約書第十五條并細目規則第十六條乃至第二十條ノ條欵執行ノ爲メ制定

電信萬國稅表

歐羅巴內方法稅號

從＼至	一 墨西哥	二 墨西哥	三 墨西哥	四 墨西哥	五 墨西哥	六 墨西哥	七 墨西哥	八 墨西哥	九 墨西哥	十 墨西哥	十一 墨西哥	十二 墨西哥
一 墨西哥												
二 墨西哥	一六、五											
三 墨西哥	二四、五	一六、五										
四 墨西哥	二八、五	二〇、五	三三									
五 墨西哥	一七八	一八二	一七四、五	一八六、五								
六 墨西哥	一六、五	二四、五	二一	二九	三三							
七 墨西哥	二八	三二	二四、五	二六、五	四〇、五	一五〇						
八 墨西哥	二〇	二四	一六、五	二八、五	三三、五	一七〇	二八、五					
九 墨西哥	三二	三六	二八、五	四〇、五	四四、五	一八二	四〇、五	三六				
十 墨西哥	三三、五	三六、五	二九	四一	四五	一六六、五	四一	一六、五	三四、五			
十一 墨西哥	三五	四三	二七、五	四七、五	五一、五	一九五	四〇	四五	三一	五五		
十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
二十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
三十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
四十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
五十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
六十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
七十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
八十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十一 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十二 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十三 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十四 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十五 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十六 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十七 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十八 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
九十九 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六
一百 墨西哥	五	四	五	三	三	二	五	六	五	六	六	六

附言

第一　本表ノ地名ハ a b c ノ順序ヲ以テ之レヲ記載ス而シテ各欄內ニ示シタル稅額ハ其各地ノ通信ニ適用ス可キモノニシテ本表中ノ屬地ヲ有スル本國ノ料金ニハ屬地ノ料金ヲ含入セサルモノトス

第二　土耳其ト其隣國間トノ稅額ハ未タ決定セス依テ其國々トノ特約ヲ締結スル迄ハ倫敦制定規則ノ稅額ニ從フヘシ

第三　本表ハ各國ノ中特約ヲ締結シタルモノニハ關涉セサルモノトス

羅巴內方法稅表

細目規則第十九條第二節執行ノ爲メ各國間ノ一語稅(佛貨佐士)ヲ以テ計算スヲ決定ス

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一
	其他	阿爾巴尼亞	墨西哥	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國	墨國
	三五	三二	二四五	二〇	一六五	二八五	一六五	二四五	二四五	一六五	二二五	二六	二四五	四〇	三三六	二四五	二〇	一六五	二八五	二六	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五
		三六	二八	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五	二六五
	五六五	二八	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
	四〇五	四〇	三三五	三〇	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五	三〇五
	一八六	一六六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五	一八六五
米	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五	四〇五
西班牙																															
佛蘭西																															
亞耳日里																															
日巴拉太																															
大貌列顛																															
帝國																															
愛爾蘭																															
帝國諸島																															
以太利																															
盧森堡																															
馬爾多																															
吾的尼古羅																															
那威																															
荷蘭																															
葡萄牙																															
羅馬尼亞																															
露西亞																															
墨西哥																															
瑞典比國																															
瑞典																															
瑞西																															
土耳波里																															
突尼斯																															

其他國トノ間ノ稅額ハ未タ締結シタルモノトス

特約ヲ締結シタル各國ノ稅額ニ適用スヘキ特約ノ規則ノ定メサル地ノ表中ノ屬地ノ料金ヲ有スル地ニ本表ハ屬地ノ內ニ示シタルモノトス

B號　歐羅巴外方法税表

細目規則第二十條執行ノ爲メ各國間中繼及首尾ノ一語税ヲ決定ス

國名	通信種類	フランク佛ヲ以テ計算シタル首尾税	フランク佛ヲ以テ計算シタル中繼税	記事
日耳曼	第一　「トリエスト」海底線ヲ經テ一方ニ於テハ大貌列顛及ヒ白耳義、盧森堡、ト他方ニ於テハ亞丁、南亞弗利加、及ヒ埃及トノ間ニ往復スル通信	—	〇、一五〇	
	第二　他ノ諸通信	〇、二二五	〇、二二五	
澳地利、匈牙利	第一　「トリエスト」「コルフウ」間ノ海底線陸揚場、墺地利國諸埠界間ノ線路ヲ經過シテ一方ニハ亞丁、南亞弗利加及ヒ埃及ト他方ニ於テハ左ノ諸國ト往復スル通信 (a)　亞耳日里、突尼斯、日耳曼、白耳義、勃國牙利、丁抹、西班牙、佛蘭西、日巴拉太、大英列顛、「ヘリゴラント」島、盧	首尾税ノ部 〇、二二五	中繼税ノ部 —	
	諸通信			

澳地利・匈牙利			
第一 東方會社ノ稅			
第二	(b) 勃斯尼・比耳日維、孟的尼古羅及ヒ撒兒比亞、	—	〇、〇七五
	(c) 羅馬尼、	—	〇、一〇〇
	他ノ諸通信、	—	〇、一七五
		—	〇、二二五
第一	(a) 澳地利「トリエスト」港、埃及亞歷山得港間ノ線路ヲ經テ左ノ國々ト往復スル通信		「トリエスト」海底線ヲ經テ一方ニ於テハ大貌列顛他方ニ於テハ印度及ヒ印度以外ノ國々ト往復スル通信ニハ減ジテ上載ノ稅ヲ減ジテ七先士五トナスヲ但シ此減稅ハ歐羅巴印度間ノ一定一語稅五佛ニ關係アラサルモノトス
	日耳曼、澳地利、匈牙利、白耳義、勃斯尼比耳日合維丁抹、「リゴラント」島、盧森堡、孟的尼古羅、那威、荷蘭、羅馬尼、歐羅巴露西亞、甲加索露西亞、撒兒比亞及ヒ瑞典、	一、四五〇	一、四五〇
第二	(b) 亞耳日里、突尼斯、西班牙、佛蘭西、日巴拉太、及ヒ葡萄牙	一、三〇〇	一、三〇〇
	(c) 大貌列顛及ヒ瑞西、	一、三七五	一、三七五
	(d) 勃爾牙利、	一、四〇〇	一、四〇〇
	澳地利「トリエスト」港、亞丁間ノ線路ヲ經テ左ノ國々ト往復スル通信		希臘、土耳其ノ中繼稅ヲ含入ス
	(a) 大貌列顛及ヒ瑞西、	三、九七五	三、九七五
	(b) 亞耳日里、突尼斯、西班牙、佛蘭西、日巴拉太、及ヒ葡萄牙	三、九〇〇	三、九〇〇
			希臘、土耳其及埃及ノ中繼稅ヲ含入ス
白耳義			
諸通信	第三 (c) 勃爾牙利、	四、〇〇〇	四、〇〇〇
	(d) 他ノ諸國、	四、〇五〇	四、〇五〇
	第三 澳地利「トリエスト」港、希臘諸境界間ノ線路ヲ經テ歐羅巴外諸國ト希臘及ヒ土耳其ト往復スル通信、	〇、二七五	〇、二七五
	諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五
勃斯尼比耳日維台	諸通信、	〇、〇七五	〇、〇七五
伯西爾	第一 首尾稅		
	「レシフエ」(ペルナンブコ)ヲ發シ		
	(a) 北部並ニ中央部ノ諸局ヘハ、	一、〇〇〇	—
	(b) 南部ノ諸局ヘハ、	二、〇〇〇	—
第二 中繼稅ノ部			
	「ベレム」(パラ)ヲ發シ		
	(a) 北部ノ諸局ヘハ、	一、〇〇〇	—
	(b) 中央部ノ諸局ヘハ、	二、〇〇〇	—
	(c) 南部ノ諸局ヘハ、	二、〇〇〇	—
	「ジヤガラオ」或ハ「ウルグヤナ」ト		

伯西爾	(a)南部境界ノ一局ノ間、、、、	—	一、〇〇〇
	(b)中央部境界ノ一局ノ間、、、	—	一、〇〇〇
	(c)北部境界ノ一局ノ間、、、、	—	三、〇〇〇
勃爾牙利	諸通信、、、、、、、、、、、、	〇、〇七五〇	〇、〇七五〇
喜望峰	諸通信、、、、、、、、、、、、	〇、〇二〇〇	〇、〇二〇〇
	第一 官設線路ノミヲ使用スル通信、	〇、〇七五〇	〇、〇七五〇
丁抹	第二 大北部電信會社ノ海底線並ニ官線ニ依ル可キ通信但大貌列顛ヘ接續スル海底線ヲ除ク（後段大貌列顛ノ部ニ就テ見ルヘシ）、、、、、、、、、、、、	〇、〇二二五	〇、〇二二五
	第二 埃及	〇、〇二五〇	—
	第一 埃及中左ノ各部ト往復スル諸通信	—	〇、〇二五〇
	第一部、、、、、、、、、、、、	〇、〇二五〇	—
	第二部、、、、、、、、、、、、	〇、〇五〇〇	—
	第三部、、、、、、、、、、、、	〇、〇七五〇	—
中繼稅ノ部	第一 第一部區域中、、、、、、、、	—	〇、〇二五〇

首尾稅ノ部

「ザユルバン」海底線ヲ經テ往復スル通信ナレハ此首尾稅ヲ那多留ト分收スス

埃及	第二 「スエッキン」ト他ノ境界トノ間	—	〇、七五〇
及	附言 左ニ記載スル首尾稅ハ亞歷山得ノ首尾稅ナリ埃及中他ノ各分局ヘノ通信ニハ中繼稅ト上載ノ埃及首尾稅二拾五先士ヲ課ス而シテ亞歷山得、改羅、蘇士トノ通信ニ課スル右ノ首尾稅二十五先士ハ會社ノ有ニ歸ス		
	第一 埃及ノ海岸（亞歷山得）ト		
	一 馬留多島トノ間		
	(a)馬留多島ト往復スル通信、	一、三〇〇	—
	(b)他ノ諸通信、、、、、、、	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	二「オトラント」トノ間、、、、	一、二二五	一、二二五
	三希臘トノ間、、、、、、、、	一、二二五	一、二二五
	四「カンヂイ」トノ間、、、、、	〇、八〇〇	〇、八〇〇
	五「ロヲド」トノ間、、、、、	一、〇五〇	一、〇五〇

東方電信會社ノ稅

東方會社ノ所得ニ歸スヘキ馬留多島ノ首尾稅ヲ含入ス

土耳其「カンヂー」ノ首尾稅並ニ希臘中繼稅ヲ含入ス

土耳其「カンヂー」ノ首尾稅並ニ希臘中繼稅又ハ首尾稅ヲ含入ス

「カンヂー」ノ中繼稅ヲ含入ス但シ土耳其ノ電報ニハ此中繼稅ヲ課セス

第二埃及ノ海岸ト「シープル」トノ間	〇、九〇〇	〇、九〇〇	亞歷山、改羅、蘇士、伯爾多濟及ヲ除キ埃及政府トノ共有稅額
第三「亞歷山得線路ヲ經テ馬留多ト「ロワド」トノ間	一、五五〇	一、二五〇	
第四「スアッキン」埃及間			
(a)埃及若クハ「シープル」島ノ通信	一、三五〇	—	
(b)亞歷山得線ヲ經テ他ノ諸國ヘ送ル通信	一、一〇〇	一、一〇〇	會社ニ屬スル埃及ヲ含ム而シテ亞歷山得、君士坦丁堡間ノ線路及ヒ亞歷山得、カトリーヌ」間ノ線路ニ依リ一方ニ於テハ「ヘッジャ」並ニ「イエメン」他方ニ於テハ土耳其(亞弗利加ノ土里波里ヲ含ム)トノ間ニハ此稅ヲ減シテ會社ノミニ收入スル稅ナリ而シテ一方ニ於テハ「ヘッジャ」並ニ「イエメン」ハ土耳其(亞弗利加ノ七里波里ヲ含ム)トノ間ニ往復スル通信ハ此稅ヲ減シテ甲線ハ八拾五先士、及乙線ハ七拾七先士五ト爲ス
(c)「エヲリック」若クハ新設スヘキ他ノ線路ヲ經テ他ノ諸國ヘ送ル通信	一、六〇〇	一、六〇〇	

諸通信	〇、一八七五	〇、一八七五	大不列顛ヲ發スル通信又ハ伯西爾ノ海底線ヲ經テ大不列顛ニ於テ中繼スル通信ニシテ「ビルバオ」線ニ依ルモノニハ此中繼稅ヲ減シテ十四先士五ト爲ス
「カヂックス」加那里島間ノ海底線中繼稅	—	一、五〇〇	
西班牙直通電信會社ノ稅			
「バルスローヌ」馬耳塞間ノ海底線	—	〇、三〇〇	
諸通信	〇、二二五	〇、二二五	
馬耳塞、亞耳日里間海底線ノ中繼稅			
諸通信	—	〇、二二五	
「クータンス」「ゼルシー」間海底線會社ノ稅			
諸通信	〇、二二五	〇、二二五	

入スル通信ニハ此稅ヲ減シテ一佛トス

佛蘭西（亞非日里、突尼斯共）	東方電信會社ノ税			
	馬耳塞、「ボーヌ」（亞耳日里）間、、	—	〇、二二五	
	首尾税ノ部			
佛蘭西（交趾）	一 「タウオイ」線ヲ經テ印度地ニ印度以外ノ諸國ト往復スル通信、	〇、五〇〇	〇、五〇〇	
	二 暹羅ト往復スル通信、、、、、	〇、三五〇	—	
	三 海底線ヲ經テ往復スル通信、、	〇、一五〇	—	
	中繼税ノ部			
	一 「タウオイ」線ニ依リ印度近ニ印度以外ノ諸國ト往復スル通信、	—	〇、五〇〇	
	二 暹羅ト往復スル通信、、、、、	—	〇、三五〇	
	加那里、塞内牙爾間海底線ノ中繼税	—	一、五〇〇	塞内牙爾首尾税ヲ含入ス
佛蘭西（塞内牙爾）	加那里、塞内牙爾間ノ海底線ニ依ラサル諸通信ニ課スル塞内牙爾ノ首尾税、、、、、、、、、、、、	〇、二二五	—	
	左ノ各線路ニ依リテ往復スル諸通信			
	一 日耳曼、、、、、、、、、、	〇、三〇〇	中繼税ハ	
	二 白耳義、、、、、、、、、、	〇、二二五	大貌列顚	
	三 丁抹、、、、、、、、、、、	〇、三〇〇	ヲ發シ又	「ビルバオ」線路ニ依リ白耳義海底線

大貌列顚及ヒ愛蘭土	四 西班牙、、、、、、、、、	〇、五六二五	ハ大貌列	ヲ經テ往復スル通信ニハ此税ヲ減シテ四拾四先士ト爲ス
	五 佛蘭西、、、、、、、、、	〇、二二五	顚ニ着ス	
			ル電報ノ	
	六 日巴拉太、、、、、、、、	〇、九〇〇	經過ス可	日巴拉太ノ首尾税中ニハ東方電信會社ニ屬スヘキ分ヲモ含入ス
			キ國々ノ	
			首尾税ヲ	
	七 馬留多、、、、、、、、、	〇、九〇〇	加算シテ	馬留多ノ首尾税中ニハ東方電信會社ニ屬スヘキ分ヲモ含入ス
			得ヘキモ	
	八 那威、、、、、、、、、、	〇、二六二五	ノトス	
	九 荷蘭、、、、、、、、、、	〇、三〇〇		
	十 葡萄牙、、、、、、、、、	〇、六〇〇		西班牙ヘノ通信ニハ此税ヲ減シテ四拾八先士七五ト爲ス
	附言 以上第一ヨリ第十二至ルマテ擧示セル税ハ海底線會社ニ分ツヘキ税ヲモ含入ス			
	日巴拉太ノ税			
	西班牙線路ヲ假用スル諸通信	〇、〇七五	〇、〇七五	
	「ヘリゴランド」電信會社ノ税			
	諸通信、、、、、、、、、、	〇、二〇〇	—	
	東方電信會社ノ税			
	第一 日巴拉太ト			

大貌列頓及ヒ愛蘭土	第二	(a)「カルカウェロス」トノ間、、	〇、二二五
		(b)「ウイゴー」トノ間、、、、、	〇、五〇〇
		(c)馬留多トノ間、、、、、、、	〇、六二五
	第二馬留多ト	(a)「カルカウェロス」トノ間、、	〇、七〇〇
		(b)「ウイゴー」トノ間、、、、、	〇、七〇〇
		(c)馬耳塞トノ間、、、、、、、	〇、四五〇
		(d)「ボーヌ」トノ間、、、、、、	〇、二二五
甲 波斯灣海底線ノ稅	第一	「ブアオ」「ビユシール」間、、、、、	〇、四五〇
	第二	「ブアオ」ト他ノ波斯灣各局トノ間、、、	〇、二二〇
	第三	「ビユシール」ト他ノ波斯灣各局トノ間、	一、六五〇

		佛ヲ以テ定メタル首尾稅	佛ヲ以テ定メタル中繼稅
大貌列頓及ヒ愛蘭土	第二	佛ヲ以テ定メタル中繼稅	
		陸線ニ依リ印度及ヒ印度以外諸國ヘノ通信	海底線ニ依リ印度及ヒ印度以外諸國ヘノ通信	西班牙トノ通信ニハ此中繼稅ヲ減シテ六拾二先士五トス
		〇、二二五	〇、二二五	
		〇、五〇〇	〇、五〇〇	
		〇、六二五	〇、六二五	
	第二馬留多ト	〇、七〇〇	〇、七〇〇	
		〇、七〇〇	〇、七〇〇	
		〇、四五〇	〇、四五〇	
		〇、二二五	〇、二二五	
甲 波斯灣海底線ノ稅	第一	〇、四五〇	〇、三〇〇	此四拾五先士ノ稅額ハ「ブアオ」「ビユシール」間ノ中繼稅トシテ他ノ諸通信ニモ適用ス
	第二	〇、二二〇	一、三九〇	
	第三	一、四五五	一、〇九〇	

乙 印度ノ稅

首尾稅ノ部

			佛ヲ以テ定メタル首尾稅	佛ヲ以テ定メタル中繼稅	
大貌列頓（英領印度）	第一	孟買若クハ「グラチー」ノ境界ヲ發シ同盟各局或ハ同盟ニ加入セサルモ細目規則ヲ遵奉スル諸局ト印度トノ間ニ往復スル通信			
	一	(a)「チッタゴン」以西、、、、、、	〇、五七五	—	
		(b)「チッタゴン」以東及ヒ西倫島	〇、八二五	—	
		(c)緬甸、、、、、、、、、、、	一、〇二五	—	緬甸トノ共有稅額ナリ
	二	一方ニ於テハ不同盟ノ諸局或ハ細目規則ヲモ遵奉セサル諸局他方ニ於テハ印度トノ間ニ往復スル通信			
		(a)「チッタゴン」以西、、、、、、	一、〇〇〇	—	
		(b)「チッタゴン」以東及西倫島、	一、二五〇	—	
		(c)緬甸、、、、、、、、、、、	一、四五〇	—	緬甸トノ共有稅額ナリ
	第二	馬搭剌ノ境界ヲ發シ印度ノ諸通信			
		(a)「チッタゴン」以西、、、、、、	〇、八〇〇	—	
		(b)「チッタゴン」以東及西倫島、	一、〇五〇	—	
		(c)緬甸、、、、、、、、、、、	一、二五〇	—	緬甸トノ共有稅額ナリ

大貌列頓

各境界間ノ諸通信			
第三 「ラングン」ノ境界若クハ暹羅(タウオイ)ノ境界ヲ發シ印度ヘノ通信			
(a)「チッタゴン」以東	〇、八〇〇	—	
(b)「チッタゴン」以西	一、〇五〇	—	
(c)西倫島	一、二〇〇	—	
(d)緬甸	一、〇〇〇	—	緬甸トノ共有稅額ナリ
第四 「マトラス」「ペナン」「ラングン」線ヲ經テ孟買及「クラチー」ノ境界ヲ發シ印度ヘノ諸通信			
(a)「チッタゴン」以東	一、三五〇※	—	
(b)緬甸	一、五五〇※	—	緬甸トノ共有稅額ナリ
中繼稅ノ部			
馬搭剌「ペナン」「ラングン」ノ海※底線ヲ經ヘキ電報ニハ之レニ東方擴張會社ノ稅ヲ加フヘシ	—	〇、七五〇	

附言 以上ニ記載シタル稅額中緬甸ヘ收入スヘキ分ハ二拾先士ナリ

(英領印度)

東方電信會社ノ稅

	佛ヲ以テ定メタル首尾稅	佛ヲ以テ定メタル中繼稅	陸線ニ依リテ印度及ヒ印支	海底線ニ依リテ印度及ヒ印支	
第一亞丁ト					
(a)「スアッキン」トノ間	一、九〇〇	一、九〇〇			
(b)埃及トノ閉					
一 埃及ノ通信	三、二五〇	三、二五〇	—	—	亞歷山得、改羅、蘇士ヘノ通信ハ除キ埃及政府ノ稅ヲ含入ス
二 「エラリック」ノ境界ヨリ又ハ他日開設スヘキ新線路ヲ經テ他ノ諸國ヘノ通信					
(c)「カンヂー」	三、五〇〇	三、五〇〇	—	—	會社收入ノ稅ノミ埃及ノ中繼稅ヲ含入ス
(d)「ロヲト」	三、七五〇	三、七五〇	—	—	埃及並ニ「カンヂー」ノ中繼稅ヲ含入ス但右ハ土耳其ノ通信ニハ無稅ナリ
(e)希臘	三、八二五	三、八二五	—	—	埃及ノ中繼稅、土耳其「カンヂー」ノ中繼稅並ニ希臘中繼稅ヲモ含入ス
(f)「オトラント」	三、八二五	三、八二五	—	—	
(g)馬留多					
一 馬留多ト往復スル通信	三、九〇〇	三、九〇〇	—	—	埃及中繼稅ヲ含入ス
二 他ノ通信	三、六〇〇	三、六〇〇	—	—	

國名	通信		佛ヲ以テ定メタル首尾税	佛ヲ以テ定メタル中繼税	備考
大貌列顛（英領印度）	第二 印度ノ海岸ト左ノ地方間		以外ヘノ通信	度以外ヘノ通信	
	(a) 亞丁、、、、、、、	二、八五〇	—	—	
	(b)「スアキン」、、、、	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
	(c) 埃及				
	一 埃及トノ通信、、、	三、七五〇	三、七五〇	三、七五〇	
	二 埃及ノ中繼ヲ經テ「アルク」線又ハ將來建設スヘキ新線路、來	—	四、〇〇〇	四、〇〇〇	埃及並ニ「カンヂー」ノ中繼税ヲ含入ス但土耳其ノ通信ニハ無税ナリ
	三「ロドス」ヘ往復スル通信、、、、	—	四、四二五	三、五〇〇	
希臘	第一 歐羅巴大陸線ノミヲ使用スル諸通信、、、、、、		一、〇七五	〇、〇七五	
	第二 希臘海底線ヲ使用スル通信並ニ多島海諸島ノ諸通信但希臘ノ税ヲ含入ス、、、、、		〇、二七五	〇、二七五	
以太利	第一 一方ニ於テハ「ワロナ」ト他方ニ於テハ「オトラント」「コルフ」海底線陸揚地及ヒ「オトラント」「ザント」海底線陸揚地トノ間又ハ此二海底線陸揚地ノ間、、、、、、、、、		—	〇、〇七五	
	第二 他ノ諸通信、、、、、、、、		〇、二二五	〇、二二五	
	東方電信會社ノ税				
	「モチカ」馬留多間、、、、、、		〇、二二五	〇、二二五	
日本	歐羅巴及埃及以西トノ諸通信、、、		〇、八五〇	—	
	亞細亞（亞細亞露西亞及土耳其ヲ除ク）トノ諸通信、、、、、、		一、〇〇〇	—	此税率ハ釜山（朝鮮）電信分局ニモ適用ス
	日本朝鮮間海底線ノ税				
	日本九州海岸ヨリ嚴原（對馬）及ヒ釜山（朝鮮）、、、、、		—	二、〇〇〇	
盧森堡	諸通信、、、、、、、、、、、、		〇、〇五〇	〇、〇五〇	
孟的尼古羅	諸通信、、、、、、、、、、、、		〇、〇七五	〇、〇七五	
那多留	諸通信、、、、、、、、、、、、、		※〇、二〇〇	〇、二〇〇	齊路條領民地ト往復スル通信ニハ此中繼税中ニ殖民地ノ税ヲ含入ス ※東南亞弗利加會社及ヒ東方會社ノ海底線ニ依リ「デュルバン」ニ往復スル通信ニハ別ニ首尾税ヲ徴收スルコトナシ

那威	諸通信	〇、一二五	〇、一二五	
荷蘭	諸通信	〇、〇七五	〇、〇七五	
荷蘭（蘭領印度）	諸通信	〇、一五〇	〇、一五〇	
波斯	首尾税ノ部			
	第一 印度及ヒ印度以東ト往復スル通信	一、五五〇	—	
	第二 他ノ諸通信	〇、六〇〇	—	
	中繼税ノ部			
	第一 露西亞並ニ土耳其ノ各境界間	—	一、〇〇〇	
	第二 他ノ境界間			
	(a) 陸線ニ依リ印度並ニ印度以外ノ諸國	—	〇、九四〇	
	(b) 海底線ニ依リ印度以外ノ諸國	—	〇、七〇五	
	第一 伯西爾海底線ニ依リ葡萄牙ノ州郡即チ麽地ニ非ザル地ヘ葡萄牙ト往復スル通信	〇、一五〇	—	
	第二 東方電信會社ノ海底線ト伯西爾海底線トノ間互ニ往復スル通信	—	〇、〇七五	伯西爾海底線ニ依ルヘキ大貌列顚發

葡萄牙	第三諸通信	〇、〇七五	〇、一二五	若又ハ中繼ノ通信ニハ「ビルボオ」線ヲ經ル時ニ限リ此線中繼税ヲ減シテ九先士トナス
	左ノ諸島ニ係ル特別税			
	(a)「マデール」	〇、〇七五	—	
	(b)「セント、ウインセント」	〇、〇七五	〇、一二五	此税ヲ伯西爾海底線ノ税ニ加フヘシ
	東方會社ノ税			
	「カルカウエロス」「ウイゴ」間	〇、三〇〇	〇、三〇〇	
羅馬尼	諸通信	〇、〇七五	〇、〇七五	
露西亞	首尾税ノ部			
	第一 歐羅巴ノ境界ヲ發シ左ノ各地ト往復スル通信			
	(a) 歐羅巴露西亞	〇、三七五	—	
	(b) 甲加索露西亞	〇、六七五	—	
	(c)「ウエルクン、ウーヂンスク」子午線以西ニ於ケル亞細亞露西亞	一、五〇〇	—	
	(d)「ウエルクン、ウーヂンスク」子午線以西ニ於ケル亞細亞露西亞	二、六二五	—	

第二 波斯或ハ亞細亞土耳其ノ境界ヲ發シ一方ニ於テハ印度及ヒ印度以外ノ國ト他方ニ於テハ左ノ國々ト往復スル通信		
(a) 歐羅巴露西亞並ニ甲加索露西亞トモ	一、三三〇	—
(b) 亞細亞露西亞(第一第二兩部)	二、五三〇	—
第三 右ノ境界ヲ發シ左ノ各地ト往復スル他ノ通信		
(a) 甲加索露西亞	〇、二〇〇	—
(b) 歐羅巴露西亞	〇、六七五	—
(c) 亞細亞露西亞(第一部)	一、八〇〇	—
(d) 亞細亞露西亞(第二部)	三、〇〇〇	—
第四 烏拉日阿斯德ヲ發シ左ノ地方ヘノ通信		
(a) 亞細亞露西亞(第一部第二部)	一、七三〇	—
(b) 歐羅巴露西亞及ヒ甲加索露西亞	二、七三〇	—
中繼稅ノ部		
第一 歐羅巴境界間ノ諸通信	—	〇、三七五
第二 一方ニ於テハ歐羅巴ノ境界ト他方ニ於テハ波斯及ヒ亞細亞土耳其ノ境界トノ間ノ線ヲ經テ左ノ諸國ヘ往復スル通信		
(a) 陸線ニ依リ印度及ヒ印度以外ノ諸國	—	一、五〇五
(b) 海底線ニ依リテ印度以外ノ諸國	—	一、一八〇
第三 他ノ諸通信ニシテ前記ト同一ノ境界間ヲ經ルモノ	—	〇、七〇〇
第四 印度及印度以外ノ諸國ヘ往復スル通信ニシテ亞細亞土耳其ノ境界及ヒ波斯ノ境界間ヲ經ルモノ	—	一、〇〇〇
第五 他ノ諸通信ニシテ前記ト同一ノ境界間ヲ經ルモノ	—	〇、三〇〇
第六 他ノ諸境界ト烏拉日阿斯德トノ間	—	三、〇〇〇
第七 他ノ諸境界ト「ボクハラ」トノ間	—	一、五〇〇
黑海電信會社ノ稅		
第一 露西亞、埃及間往復ノ通信	—	〇、四〇〇
第二 他ノ諸通信	—	〇、四五〇
攝兒比亞		
諸通信	〇、〇七五	〇、〇七五
遲羅		
首尾稅ノ部		
(a) 印度ノ境界(タウォイ)ヲ發スル通信	〇、五七五	—

暹羅	(b) 交趾ノ境界（東蒲寨）ヲ發スル通信、、、、、、、	〇、四〇〇	—	
	中繼税ノ部			
	諸通信、、、、、、、、、、、	—	〇、五七五	
瑞典	諸通信、、、、、、、、、、、	〇、一八七五	〇、一五〇	
瑞西	諸通信、、、、、、、、、、、	〇、〇七五	〇、〇七五	
	首尾税ノ部			
	第一 歐羅巴ノ境界ヲ發シ			「キオ」「レンノース」及ヒ「テチドス」ニハ拾七先士「カンヂー」島ニハ三十五先士ナル東方電信會社ノ税ヲモ此ニ含入ス
	(a) 歐羅巴土耳其ヘノ通信、、、	〇、二五〇	—	
	(b) 亞細亞土耳其及ヒ亞細亞土耳其ノ多島海ヘノ通信、、	〇、七五〇	—	
	第二 亞細亞土耳其ノ境界ヲ發シ			「キオ」「レンノース」及ヒ「テチドス」ニ二十三先士「カンヂー」島ニ四十五先士ヲ課ス同キ東方電信會社ノ税ヲ含入ス但埃及「スーダン」「ヘッヂャ」「イエメン」ト往復スル通信ニシテ「キオ」「テチドス」ノ境界ニ依ルモノニハ會社ノ税ヲ二十五先士ニ減ス
	(a) 亞細亞土耳其ヘノ通信、、、	〇、七五〇	—	
	(b) 歐羅巴土耳其及ヒ亞細亞土耳其ノ多島海ヘノ通信、、	一、〇〇〇	—	

土耳其	土里波里ノ税			
	土里波里ノ海岸ヲ發シ			
	(a) 土里波里ノ局ヘ宛タル通信、	〇、一五〇	—	土耳其ノ通信ニハ此税ヲ課セス
	(b) 他ノ各局ヘ宛タル通信、、、	〇、三〇〇	—	
	「ヘッヂャ」及「イエメン」ノ税			
	「スアッキン」ノ海岸ヲ發スル通信（「スアッキン」ヨリ「ヂェッダ」ニ至ル海底線ニ分配スヘキ税ヲ含入ス）			
	(a) 土耳其ヘノ通信（亞弗利加ノ土里波里ヲ含入ス）、、、	一、〇〇〇	—	蘇士「スアッキン」間ノ海底線ヲ經ル土耳其ノ通信（亞弗利加ノ土里波里ヲ含入ス）ニハ此税ヲ減シテ五拾先士ト爲ス
	(b) 他ノ諸通信、、、、、、、、	一、五〇〇	—	
	中繼税ノ部			
	第一 歐羅巴ノ境界間、、、、、	—	〇、二五〇	
	第二 亞細亞土耳其ノ境界間、、、	—	〇、七五〇	
	第三 歐羅巴土耳其ノ境界ト亞細亞土耳其ノ境界トノ間			
	(a) 一陸線ニ依リ印度及ヒ印度以外諸國ヘノ通信、、、、	—	一、五二五	

土耳其	附言 東方電信會社ノ「サロニック」「テ子ドス」「ダルダ子ルス」君士担丁堡間ノ海底線ヲ臨時使用スルトキハ定則税ノ外ニ二十先土ヲ增收ス 東方電信會社ノ海底線陸揚地ヲ經過スルモノ即チ「テ子ドス」「サロニック」「ダルダ子ルス」「ベシカ」君士担丁堡「テ子ドス」海底線ヘ達スル土耳其ノ税ハ「チエスメ」ノ亞細亞境界ノ經過ニ課スル税額ニ均シ		
	東方電信會社ノ税			
歐羅巴印度間通信ノ一定税	歐羅巴(土耳其露西亞ヲ除ク)印度間通信ノ課税ハ左表ノ如ク一定ス			

(b) 海底線ニ依リ印度亞ニ印度以外諸國ヘノ通信	—	一、〇三五	「カンヂー」亞匪山得線ニ依リテ往復スル露西亞、埃及間ノ通信ニハ君士担丁堡「ヲテッサ」線ヨリ「チエスタ」經過ノ中繼税ヲ減シテ拾二先士五ト爲ス	
(c) 「ハ子キン」又ハ「バッカレ」線ニ依リ波斯ト往復スル通信	—	〇、七〇〇		
(d) 他ノ諸通信	—	一、〇〇〇		
「カンヂー」島ノ税	—	〇、〇七五		
諸通信ノ爲メ馬留多土里波里間海底線ノ税	〇、六〇〇	—		

a 土耳其線ヲ經ルモノ	佛ヲ以テ定メタル「チッタゴン」以西ノ税	五、〇〇〇	佛ヲ以テ定メタル「チッタゴン」以東ノ税	五、二五〇
b 露西亞線ヲ經ルモノ		五、〇〇〇		五、二五〇
c 東方電信會社ノ線ヲ經ルモノ(露西亞及歐羅巴土耳其ヲ含入ス)				
右税額ノ内譯左ノ如シ				
土耳其線				
印度ヘノ通信	陸線ヲ經テ印度以外ノ諸國ヘノ通信		海線ヲ經テ印度以外ノ諸國ヘノ通信	
歐羅巴				
土耳其				
波斯灣				
印度				
計				
露西亞線				
印度ヘノ通信	陸線ヲ經テ印度以外ノ諸國ヘノ通信		海線ヲ經テ印度以外ノ諸國ヘノ通信	
歐羅巴	〇、五二五	〇、五二五	〇、五二五	
露西亞	一、五〇五	一、五〇五	一、一八〇	
波斯	〇、九四〇	〇、九四〇	〇、七〇五	

波斯灣	一、四五五	一、四五五	一、〇九〇	
印度	〇、五七五	一、七五〇	〇、七五〇	
計	五、〇〇〇	五、一七五	四、二五〇	
東方電信會社ノ線路				
歐羅巴及東方電信會社	印度ヘノ通信	陸線ヲ經テ印度以外ノ諸國ヘノ通信	東方擴張會社ノ海線ヲ經テ印度以外諸國ヘノ通信	
印度	四、四二五	四、四二五	三、五〇〇	
	〇、五七五	〇、七五〇	〇、七五〇	
計	五、〇〇〇	五、一七五	四、二五〇	

隣接局々間トノ差引計算歐羅巴外方法ノB號税表ニ據リ歐羅巴各國ニ受領ス可キ税金ハ税表面正當ノ金額ヲ發信人ヨリ徴收シ又ハ隣局ヨリ收入スヘシ右分配計算上ノ金額ト上載ノ歐羅巴國々ニ係ル税金額トノ間ニ生スル差(過剰又ハ不足)ハ歐洲外方法ノ局ノ負擔トス

下名ノ同盟各國委員ハ聖比得堡制定條約書第十五條及第十六條ニ基ツキ一千八百八十五年九月十七日伯林ニ於テ此税表ヲ決定シ一千八百八十六年七月一日ヨリ實施スルヿヲ約定ス

日本	石井忠亮	
日耳曼	ドクトル、フオン、ステファン	
同	ハーク	
同	シエフレル	
同	フリッチ	
同	ル、サーシユ	
南濠太利亞	チヤーレス、トッド	
濠太利	ブルン子ル	
同	ウヂルシッツ	
匈牙利	エル、ド、コオレル	
白耳義	エフ、ドラルシユ	
勃斯尼―比耳日合維	パルマン	
伯西爾	バロン、ド、カパチマ	
勃爾牙利	エル、イワノフ	
交趾	エル、ヂュウィウィエー	
丁抹	ホンク	
同	ルンド	
埃及	エルチスト、アイスコッフ、ラロウィエー	
同	スカンダル、ファミー	
西班牙	ウイ、コロミナ	

佛蘭西	フリブール
同	エ、ロラン
大貌列頓	シ、エッチ、ビ、ペチー
同	エッチ、シ、フィシエル
同	ビーベントン
希臘	エム、アヂュリュッチ
英領印度	バトマン、チヤンペイン
同	シ、エッチ、リーイルヅ
以太利	ダミコー
盧森堡	モンシユナ
蒙的尼古羅	ブルンチル
同	ウオルシッツ
那威	シ、コイルセン
同	エフ、ブッシユ
新南威爾斯	イー、シー、クラクネル
荷蘭及蘭領印度	ホフステット
葡萄牙	ギルヘルミノ、アウグスト、ド、バロス
羅馬尼亞	コロチル、パスチア
同	シ、ジヤコウエスコ
露西亞	エン、ド、ペサック
同	エ、ウッソーフ
塞內牙爾	エル、ジユウイウィエー
攝兒比亞	サン、ヨワノウウイック
暹羅	プリスダン
瑞典	デ、ノルドランドル
同	ヘルヤン、ウッデンベルク
瑞西	フレイ
多斯馬尼亞	ゼ、ヘンニツケル、ヒートン
突尼斯	エ、ロラン
土耳其	オハン、バグダリヤン

○第十節　軍用電信妨害者處分

明治十九年四月第二十一號勅令

朕軍用電信ニ係ル妨害者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治十八年「五月」第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス○軍用電信事務ヲ奉ズル者電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ電信條例第六十八條第二項ニ依リ處斷ス○電信條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ゲザル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

●第三章　驛遞

○第一節　驛傳營業取締準則

明治十七年十一月發商務省第三十五號達

●石川縣伺

明治十七年十二月十日

今般御省第三十五號ヲ以テ驛傳取締準則御達相成右驛傳取締所ノ儀ハ各驛ニ於テハ必ス設置スヘキハ勿論ニ候得共從來驛稱ノ名義アルト雖モ小驛ニシテ僅カノ營業者アリ取締所設置スルモ其費用從ツテ僅少實際困難ノ箇所ハ隣驛ト組合該取締所ノ取締ヲ受ケ驛稱ハ從來ノ儘存在シ可然儀ニ候哉且準則第一條驛ニ據リ便宜分畫シテ其組合ヲ爲ストハ便宜管下ヲ纏區畫ス從來

明治八年五月三十日陸運會社解社以後驛傳取締上一定ノ規則不相立候處行旅ノ不便運輸ノ不利不少候趣ニ付今般左ニ驛傳營業取締準則相示候條右準則ニ基キ驛傳營業取締規則取設ケ農商務卿ヘ届出ツベシ此旨相達候事

但該取締規則取設ケヲ要セズト認ムルトキハ其事由詳細申出ツベシ

驛傳營業取締準則

第一條　驛傳營業取締ノ爲メ驛ニ據リ該營業人（陸運受負人馬繼立及旅人宿營業幷ニ陸運稼業人）ヲ便宜分劃シテ其組合ヲ爲サシムベシ但驛ニ據ル能ハサルモノハ別ニ其組合ト爲スヲ得ベシ

第二條　驛ニハ組合營業人ヲシテ驛傳取締所ヲ設立セシムベシ但驛ニ據ラサル組合ニ於テハ驛外ノ地ニ設立セシムベシ

第三條　驛傳取締所ハ驛傳營業ノ取締ヲ爲シ又驛傳營業ヲ兼ヌルヲ得ベシ

第四條　驛傳營業人組合ニハ驛傳取締人ヲ置カシムベシ

第五條　驛傳取締人ハ其組合及ヒ驛傳取締所ノ事務ヲ掌理スヘキモノトス

第六條　驛傳取締人定員撰擧方法及事務條項ハ管轄廳ニ於テ便宜之ヲ定ムベシ

第七條　各組合營業人ニハ規約書ヲ設ケシメ認可ノ上農商務省ニ届出ツベシ

第八條　組合營業人規約書ニハ左ノ諸項ヲ詳記セシムベシ

一諸賃錢定額

營業人無之村落ト雖相豫メ區畫ヲ定メ置若シ營業ナサントト欲スル者ハ尤モ其地組合規則ニ從ヒ其取締所ノ取締ヲ受ケシメ可然哉

○農商務省指令十八年三月四日

何之趣左ノ通可心得事

但主管事務ニ付當省限及指令候事

一前段小驛ト雖モ隣驛ト組合該取締所ノ取締ヲ相受ケ候義ハ不相成筋ト心得ヘシ

但驛傳營業人稀少ニシテ取締所ノ費用支出ニ困難ナル小驛ハ此際其驛稱廢合ノ見込相定メ別段伺出ツヘシ

一後段準則第壹條驛ニ據リ便宜分劃トハ管下所在ノ驛又ハ驛外ノ地ヲ本據トシ其近傍ニ居住セル現在驛傳營業人ヲ便宜分劃スル義ニ有之候得共取締上ノ都合ニ依リ豫メ管下所在ノ各村落ヲ分劃シテ組合區畫ヲ定メ置モ妨ナシトス尤施行ノ上ハ詳細屆出ツヘシ

●茨城縣伺　明治十八年一月十六日

驛傳營業取締方ノ儀ニ付客年御省第卅五號御達ノ趣モ有之候處右御達第一條ニ驛傳營業取締ノ爲メ驛ニ據リ該營業人ヲ便宜分劃シテ其組合ヲ爲サシムヘシト有之候得ハ成ヘクタケ從前ノ驛宿ニ據リ組合ヲ立ツヘキ儀トハ被存候得共明治十一年第拾七號ヲ以テ郡區町村編制法御頒布相成候以來行政區域即チ郡區ノ下ニハ町村アルノミニテ宿驛ノ公稱ハナキモノヽ如シニ相成候得共今日遞傳ノ取締ヲ立ントスルニ際シ其町村ニ寄リテハ更ニ驛名ニ改稱候モ不苦哉果シテ御差支無之儀ニ候ハヽ箇所限リ取調更ニ可相伺候得トモ先以テ此段相伺候也

○農商務省指令十八年三月二十三日

伺之趣驛傳取締ノ爲メ現在ノ町村ナシテ驛名ニ改稱スルハ不相成儀ト可心得事

但驛傳ノ爲メ特ニ驛ト稱スルハ此限ニアラス

●滋賀縣伺　明治十八年二月五日

一驛傳取締所及組合費用並ニ驛傳取締人手當等收支方法

一驛傳取締所及組合事務條項

一前諸項ノ外營業上必用ノ件

第九條　驛傳營業人組合及驛傳取締所ノ費用並ニ驛傳取締人ノ手當等ハ組合營業人ニ負擔セシムルヲ得ベシ

第十條　驛傳營業人ニシテ組合外ノ地ニ到リ營業スルトキハ其地組合規則ニ從ハシムベシ

第十一條　驛傳營業人ニ非サル者ニハ賃錢若クハ手數料ヲ受ケ驛傳業ヲ爲サシムベカラス

第十二條　此準則ニ據テ定ムル驛傳營業取締事務條項ノ外各種驛傳營業人取締細則ヲ設クベシ

第十三條　此準則ニ基キ警視總官府知事縣令ニ於テ取設ケタル取締規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰スルノ外營業ヲ停止シ又ハ禁止スベシ

○第二節　同取締人撰擧ノ件　明治十九年四月遞信省第三號令

驛傳營業取締人ノ儀ハ該營業人ノ撰定ニ任スヘキ筈ノ處地方ノ狀況ニ依リ其制ニ準據シ難キトキハ事情ヲ具シ指揮ヲ得テ其制ヲ異ニスルヲ得